認定
NPO法人
になりました!

特定非営利活動法人
ぷれいす東京

TOKYO

2019年度

年間活動報告書

目次

1. ご挨拶

新型コロナウイルス感染拡大で問われる活動のあり方 2

2. 部門報告

事務・総務 3

ホットライン 11

Sexual Health Project 21

Gay Friends for AIDS 23

ネスト 29

バディ 42

HIV陽性者と周囲の人/判定保留・確認検査待ちの人への相談サービス 46

研究・研修 56

新型コロナウイルス感染拡大で問われる活動のあり方

認定 NPO 法人ぷれいす東京　代表　生島 嗣

認定 NPO 法人ぷれいす東京となってから、初めての決算 / 総会を迎える。しかし、一月からの新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでのサービス提供のあり方が大きく問われている。

サービスの見直し

新型コロナウイルスの感染を防ぐための戦略の柱は「ソーシャル・ディスタンス」、つまり、人と人との距離を取ることが求められている。そのため、ぷれいす東京の対面でのサービス提供が難しくなるという事態が発生した。対面による相談、グループ・プログラムが影響を受けている。グループ・プログラムは中止・延期を与儀なくされた。これをきっかけに、今はオンラインの可能性を模索している。

電話相談については、東京都から受託している「東京都 HIV/ エイズ電話相談」、厚生労働省の受託事業の一部として運営している、HIV 陽性者、パートナー、家族のための「ポジティブライン」は、変わりなく運営している。しかし、ボランティア・スタッフたちによる、ぷれいす東京電話相談、Gay Friends for AIDS の電話相談は休止している。相談シフトのため事務所に来所するボランティア達の安全を優先した。

実はこの 1 月から、東京都の電話相談事業は、ぷれいす東京が全面的に請け負うことになった。以前は金曜日の夜間、土曜日、日曜日だけを担当していたのだが、月曜日～日曜日まで、休みなく運営していくための体制作り、特に人員体制を組むためには大きな労力が必要であった。そんな時に、新たにスタッフとして参加してくれた人たちがいて、今は、なんとかスケジュールをこなせるようになってきた。

また、4 月に入り、緊急事態宣言が発動された後、ぷれいす東京事務所の対応時間も午後 1 ～ 5 時までと短縮している。

外国籍の陽性者からの相談が急増

1 月末から 2 月上旬までは、日本に旅行中の中国人 / 台湾人などの HIV 陽性者からの SOS が様々なルートで寄せられた。母国への飛行機がキャンセルになった、空港が閉鎖されたなどで、手持ちの抗 HIV 薬が足りなったという内容だった。3 月に入ると、各国が日本からの渡航者の規制を始めたことで、日本国内で在勤、在学中の幅広い国籍の定住者たちから抗 HIV 薬に関する相談が寄せられるようになった。これまで、数ヶ月に一度、母国に戻り、抗 HIV 薬を調達していた人たちからの相談だ。母国に帰国した場合、母国に帰国したときも、日本に戻る際にも、隔離や経過観察がそれぞれ求められるため、抗 HIV 薬の入手が困難になったというのだ。中にはすでに、服薬を中断中の人もいた。初めて、HIV 陽性とわかった当初の状況などをお聞きして、日本の健康保険、福祉制度の説明をし、既に加入している会社の健康保険、国民健康保険を利用しながら、福祉制度を利用することを案内して、安定して就労 / 勉強を続けるよう支援をしている。

変化は全てネガティブな影響だけではない

スタッフの会議、ネスト・プログラムの一部もオンライン開催を試行している。スタッフの中にも、初めてだと云う人もいて、四苦八苦しながらもなんとか会議ができるようになった。また、これまでのネスト利用者向けのミーティングは、来所していただき、グループに参加いただけそうかを相談員が判断し、守秘義務を含むルールの承諾をした人を利用者として登録してきた。2010 年 11 月～ 2020 年 3 月末までの登録者は 1,255 人だ。このリアル・ミーティングの場つなぎ的にオンライン・ミーティングを開催し始めた。通常のグラウンド・ルールに、参加者向けのオンラインでのルールを追加して、新たな運営を試している。

Web にオンライン・ミーティングの案内を掲載したところ、地方在住者からの参加希望が寄せられ始めている。今後、グループ・プログラムなどについては、オンライン・プログラムの開催に向け、検討が始まっている。

オンライン化、動画配信など、苦手であった新しいテクノロジー利用へのチャレンジ。外国籍の HIV 陽性者への支援など、これまでよりも踏み込んで支援に取り組むことになってきた。困難の中にはいるが、新たな可能性の発見の時でもある。

1. 2019年度のハイライト

●認定NPO法人になりました

生島 嗣

2019年12月3日（火）、東京都庁にて認定書を受け取り、ぷれいす東京は認定NPO法人になりました。この数年、たくさんの皆さまから応援をいただきました。本当にありがとうございました。

この認定は5年間有効です。その間の寄付や賛助会費は、所得税、法人税等の寄付金控除の対象となるので、私たちの活動を応援してくださるみなさまに、少しですが還元できるようになりました。また、遺産を相続した場合、寄付をした相続財産は非課税になります。認定NPO法人になったことで安定的な寄付の確保や増額につながることを期待しています。

同時に認定NPO法人として活動する私たちにも、透明性、外部からの評価に耐え得る組織づくりが求められます。私たちの新たなスタートを、どうぞ見守ってください。

●東京都HIV/エイズ電話相談の平日も担当に

佐藤 郁夫

ぷれいす東京は、今まで金曜日夜間と土日の電話相談を担当してきた。2019年の年末が押し迫った頃、年明けから月曜日から金曜日の平日の電話相談も、ぷれいす東京で受けてもらえないかという話が湧き上がった。HIVと人権情報センターは平日9：00から21：00の時間枠で担当していたので、相談員を確保できるかどうかが、第一の課題だった。

相談場所の確保、電話の設置、相談時間をどうするか、報告形式をどうするかなど準備することは山ほどあったが、準備期間の短さと正式決定まで動けないという状況の中で、一つずつ問題を解決していった。

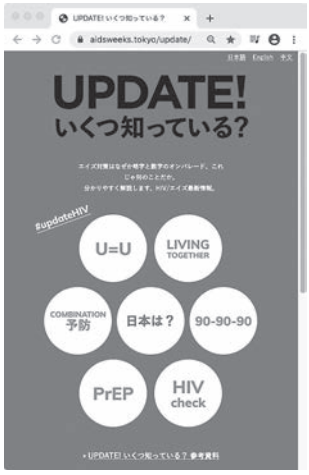
この中で感じたことは、ぷれいす東京のスタッフの力の大きさである。協力してくれるスタッフが次々と手を挙げてくれた。なんとか月曜日から金曜日までの12：00から21：00で相談員の確保ができ、1月20日からスタートした。まだ今は試行錯誤の日々であるが、これからはオールぷれいす東京で、東京都HIV/エイズ電話相談の精神を引き継いでいきたいと思う。

●U=Uキャンペーンの取り組み --「UPDATE! いくつ知っている?」と「日本のHIV陽性者から見たU=Uの光と影」--

生島 嗣

4月28日（日）、29日（月・祝）に開催されたTOKYO RAINBOW PRIDEでは、ブースからU=Uの啓発をスタートするために、冊子とポスター、そしてwebサイト「UPDATE! いくつ知っている？」を制作した。冊子は日本語のみだが、webは、日本語、英語、中国語の3ヶ国語が作成された。ぷれいす東京、aktaが運営する合同ブース「We're Already LIVING TOGETHER」でパネルと冊子の配布を行い、より詳しいU=Uのエビデンスなどに関する資料も設置した。ご協力いただいたヴィーブヘルスケア株式会社とギリアド・サイエンシズ株式会社にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げる。

Web「UPDATE! いくつ知っている？」
https://aidsweeks.tokyo/update/



テキスト：宮田一雄
デザイン：新藤岳史
英文、中文翻訳：ダン、ワン、Mei

また、1月19日（日）には、U=Uキャンペーンの創始者でHIV陽性者のブルース・リッチマン氏を招き、ネスト・プログラムのピア＋トークSpecialとして「日本のHIV陽性者から見たU=Uの光と影」を開催した。参加者は陽性者とそのパートナー43名（うちスピーカー4名）、トークゲスト1名、スタッフ8名、通訳者2名の合計54名であった。U=Uを切り口に、ブルース・リッチマン氏と、日本の4人のHIV陽性者スピーカー（女性2人、男性2人）の経験談の共有と交流は、とても考えさせられ、心が動く時でもあった。本イベントは、厚労科研「HIV感染症及び合併症の課題を克服する研究班」及びU=U Japan Projectとの共催で開催した。

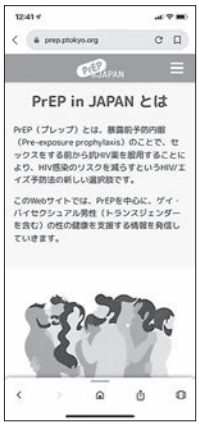
P.40及びWebサイトのネスト・プログラムに参加者の感想文が掲載されているので、あわせてお読みいただきたい。

●各研究班によるwebサイトの運営

生島 嗣

樽井班：Stay Healthy and be HAPPY、水島班：PrEP in JAPAN、横幕班：BRTA JAPAN という３サイトを現在運営している。

Stay Healthy and be HAPPY には、薬物使用だけでなく、アルコール、ギャンブルなどの多様な依存に関するリンクも NPO 法人 ASK の協力により掲載している。今後は moriuo 氏のイラストとともに多様な依存経験を紹介していく予定だ。PrEP in JAPAN では、MSM 向けに「数字でわかる日本の PrEP」という調査報告を公開した。また、BRTA JAPAN では、企業の人事担当者向けの HIV と就労に関する情報を今後より拡充する予定なので、ぜひご覧いただきたい。



2. ぷれいす東京について

○定例会議：事務局会議（毎月２回）、運営委員会（毎月１回）
理事会（随時）

○役員

理事：任期は２年で、現在の理事は以下の８名です。

・生島 嗣（代表を兼任）
・牧原 信也（運営委員長を兼任）
・池上 千寿子
・樽井 正義
・根岸 昌功
・兵藤 智佳
・山下 敏雅
・佐藤 郁夫

監事：常住 豊

○事務所スタッフ：フルタイム２名、パートタイム６名

○部門コーディネーター

〔ホットライン部門〕	佐藤
〔Sexual Health Project〕	生島
〔Gay Friends for AIDS 部門〕	桜井
〔ネスト部門〕	佐藤、加藤、原田
〔バディ部門〕	牧原
〔HIV 陽性者と周囲の人／確認検査待ちの人への相談サービス部門〕	生島、牧原
厚生労働省受託事業	佐藤
〔研究・研修部門〕	生島
〔事務・総務部門 経理担当〕	伊澤

フルタイム・スタッフ、パートタイム・スタッフに加え１人が部門コーディネーターとして活動しています。また、人員の少なさを事務所ボランティアの方々がカバーしてくれています。

○会員：241 名（うち正会員57名、活動会員184名）

○賛助会員：個人58名

団体７団体：医療法人社団七海会あおぞらクリニック、株式会社アルバコーポレーション、イプソスヘルスケアジャパンリミテッド、サーチコア株式会社、ジャパンメディカル株式会社、中村キース・ヘリング美術館、一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会

（50音順、敬称略）

●活動助成をいただいた団体

公益財団法人東京都福祉保健財団、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会（備品整備・施設整備補助金）

●寄付をいただいた団体

ヴィーブヘルスケア株式会社、MSD株式会社、
オフィス Two I、ギリアド・サイエンシズ株式会社、
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会、
聖公会東京教区、中外製薬株式会社、
日本キリスト教団出版局

（50音順、敬称略）

●チャリボン・募金箱によるご寄付

News Café、株式会社バリューブックス（敬称略）、
ぷれいす東京・多目的室募金箱

多くの個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。

●ご寄付と認定NPOサポーターのお願い

2015 年に認定 NPO 法人化を目指してから延べ 600 名近くの方にご支援いただき、認定 NPO 法人になることができました。改めて御礼申し上げます。個人からの寄付・賛助会費は国税と地方税をあわせて、寄付金額の最大 50％が税額から控除されます。法人が寄付した場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。また、遺産を相続した場合は、寄付をした相続財産は非課税になります。認定 NPO 法人への寄付の税制優遇の詳細は Web サイトをご覧ください。

認定NPO法人を維持していくためには、今後も毎年100人以上のサポーターが必要です。HIV/エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、私たちの活動を応援してください。

認定サポーターになっていただくには

条件は下記2つです。

①1年度(4月から翌年3月)に3,000円以上の寄付(または賛助会費)

②東京都に提出する非公開の名簿への掲載
(氏名・自宅住所、団体の場合は団体名・所在地)

・郵便振替の場合
氏名、自宅住所のほかに、通信欄に、「ぷれいす東京への寄付(または、賛助会費)」「認定サポーター希望」と明記

・銀行振込・ゆうちょ送金の場合
QRコードのメールフォームより氏名、自宅住所などをお知らせください。

・クレジット決済の場合
金額を入力して、「ぷれいす東京への寄付(または、賛助会費)」、「認定サポーター希望」を選択して送信。決済情報のページに氏名、自宅住所を入力。

詳しくは、Webサイトの「認定NPOサポーターになる(https://ptokyo.org/support/authorizednpo)」をご覧ください。

●「チャリボン」のご案内とご協力のお願い

「チャリボン」は、株式会社バリューブックスが運営する、古本などのリユースを活用してNPO・NGOなどの寄付集めのお手伝いをするサイトです。引っ越しなどで不要になった本やDVD、ゲーム等を「チャリボン」に送ることで、ぷれいす東京に寄付をすることができます。読み終わった本などを処分しようと思っているみなさま、どうぞご協力をお願いします。

charibon

https://www.charibon.jp/partner/ptyo/

○ご寄付をいただける場合は、下記口座にお振込をお願いします。匿名でも可能です。会員の方が会費を納入いただく場合も、同じ口座にお振込ください。クレジットカードによる寄付(1回ごと/毎月定額)もできます。

お振込先

・ゆうちょ銀行振替口座　00160-3-574075
「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※ご送金いただく際に、通信欄に寄付か会費納入かご一筆ください。専用の振替用紙もあります。

・三井住友銀行　高田馬場支店
普通預金　2041174
「特定非営利活動法人ぷれいす東京」
※銀行からお振込いただいた場合は、お手数ですがその旨をご連絡いただければ幸いです。

※クレジットカード決済による寄付とチャリボンの詳細は、ぷれいす東京Webサイトの案内「寄付・応援する」をご覧ください。

3. ぷれいす東京の日常活動

●受託事業

厚生労働省

・「HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援一式(関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業)」

東京都

・東京都HIV/エイズ電話相談(2020年1月20日より、金曜夜間休日土日に加え平日も担当)
・東京都HIV検査情報Webの制作(http://tokyo-kensa.jp/)
・東京都によるゲイ雑誌・Webへの広告制作

企業からの事業受託/後援事業

・鳥居薬品株式会社の後援で、冊子「Living with HIV ~身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ~」の手記とその活用方法などを紹介するWebサイトを開設。

●他団体との協働プロジェクト

・Living Together計画
HIVのリアリティを伝えるプロジェクトを、aktaとぷれいす東京が窓口になって行っています。
・TOKYO AIDS WEEKS 2019(次ページ参照)

・MSM 首都圏グループ

コミュニティセンター akta、ぷれいす東京、名古屋大学が連携して、HIV の検査環境を改善するため、保健所の研修会などの企画運営を行っています。

・Not Alone Cafe 東京

月に一度、新宿二丁目で開催するカフェ・イベントに協力しています。このカフェは日本に来てまもないゲイ、バイセクシュアル男性のためのもので、日本語があまりできなくても、日本語の練習ができる場、情報が手に入る場です。この運営に協力しています。

・LGBT 支援ハウス

家族やパートナーからの暴力、メンタルの不調により働けず貧困状態になり、ホームレス状態に陥ったLGBT当事者を「ハウジングファースト」の視点から支援するグループです。その運営に協力しています。

2019 年 11 月 17 日（日）～ 12 月 23 日（月）に TOKYO AIDS WEEKS 2019 が開催され、延べ 24 のイベントが開催されました。ぷれいす東京は、12 月 11 日（水）「日本における PrEP の普及と課題 ～見守りネットワーク作りを目指して～」（厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」により実施）、12 月 15 日（日）に「医療・福祉・司法・教育領域等の専門家による LGBT 支援の実践報告会 & ネットワーキング・パーティー」（後援：ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会）を開催しました。また、12 月 9 日（月）には、ノーマルスクリーンとの共催で「Visual AIDS 短編映像集 “STILL BEGINNING”」の上映会を行いました。

5 回目となる「Gay Men’s Chorus for TOKYO AIDS WEEKS 」では、今年も事務局として準備段階から関わりました。雨が降る中、会場には、入院中の方も含めて 200 人以上もの方にご来場いただきました。合唱の参加メンバーは 49 人でした。

今年も、U=U（Undetectable ＝ Untransmittable/ 検出限界以下なら、感染しない）というメッセージ T シャツを着て、HIV への差別・偏見を無くすために歌いました。曲名は「Climb Ev’ry Mountain ／春に／ディズニー・メドレー／ A HAPPY NEW YEAR ／恋するフォーチュンクッキー／上を向いて歩こう」でした。指揮は、なおきさん、

ピアノはベーすけさん、編曲は、なおきさん / よーたさん（Sing out!Tokyo）のお二人が担当してくれました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

HIV 陽性者による手記の朗読は石川大我さん（オープンリーゲイの国会議員）にお願いしました。お忙しい中ありがとうございました。そして、何よりも国立国際医療研究開発センター ACC センター長の岡慎一さんをはじめ、スタッフの皆様の多大なお力添えがあって、実現したイベントでした。また、ぷれいす東京のボランティアたちも運営面をサポートしてくれました。掲載の写真は、映っても良いというメンバーと石川大我さんと一緒に撮影したものです。

また、12 月 6 日（金）にセクシュアル・マイノリティ支援として開催された「Live Pride ～愛をつなぎ、社会を変える。～」では、TOKYO AIDS WEEKS の合唱メンバーが中心となって、松任谷由実さんや MISIA さんのバックコーラスとして出演しました。サプライズ出演だったためあまり広くは宣伝していませんでしたが、5 年に渡って毎年開催している Gay Men’s Chorus for TOKYO AIDS WEEKS の活動が繋げてくれたご縁でした。

各イベントの詳細やそのほかのイベントについては、TOKYO AIDS WEEKS 2019 開催リポート（https://aidsweeks.tokyo/news/250）をご覧ください。

TOKYO AIDS WEEKS 2019 開催にあたり、ヴィーブヘルスケア株式会社に協賛をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

●外部委員会への参加

生島や池上らが、国や自治体などをはじめとする外部機関に HIV/ エイズ関係の委員として参加しています。

東京都内の医療機関などでは、行政や民間団体などと垣根を越えて連携し、HIV にどう向きあっていくのかを協議する場が設けられています。ぷれいす東京は、会議の場への参加のみにとどまらず、会議をきっかけとして保健所や医療機関からくる問い合わせや相談に対して積極的に協力しています。

・ 厚生労働省エイズ動向委員会 委員
・東京都エイズ専門家会議 委員
・公益財団法人エイズ予防財団「同性愛者等に対する HIV/ エイズ予防啓発事業」連絡協議会 委員
・独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用サポーター
・一般社団法人日本エイズ学会 理事
・一般社団法人日本エイズ学会 監事
・公益財団法人友愛福祉財団 理事
・新宿区 HIV ／ AIDS 関係機関ネットワーク連絡会 委員
・独立行政法人国際協力機構（JICA）エイズ対策支援委員会 委員
・日本性教育協会運営委員会 副委員長

・特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議 副代表
・葛飾区エイズ連絡会議 委員
・新宿区立新宿 NPO 協働推進センター事業運営委員会 委員

●新規ボランティア研修会の実施

牧原 信也

今年は、年に１回の恒例となった、新規ボランティアの募集と研修会を、いつもの９月からちょっとお引越しして7月に行いました。また、昨年まで3日あった研修をぎゅーっと濃縮、２日間にして初めての開催となりました。会場は、これまでと同じく新宿 NPO 協働推進センターにて。

今年もうれしいことに、説明会には 28 名の参加があり、研修には 26 名のボランティアと２名の専門家の参加がありました。まだまだたくさんの方が、ぷれいす東京の活動に興味を持っていただけていることを、とてもありがたく思います。研修はいつも通り、怒涛の情報攻めもあれば、あれこれ考えさせられる攻めもあり、満身創痍の２日間になったかもしれませんが、いろいろなことを感じながら参加いただけていたようでした。

▼新規ボランティア説明会

７月７日（日）９：45 ～ 11：45
於：新宿 NPO 協働推進センター
参加者合計 33 名（個別も含む）

▼新規ボランティア研修会

7月14日（日）・15日（月/祝）　10：00 ～ 18：00
於：新宿 NPO 協働推進センター　参加者 28 名
講義は、１日４～５コマを２日間開催。
１コマは 50 分～ 90 分、休憩 10 分。プログラムの内容は以下のとおり。

・７月 14 日（日）
1. 社会的な背景　池上 千寿子
2. 医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法　福原 寿弥
3. 手記を読むワークショップ　生島 嗣・スタッフ
4. セクシュアリティの多様性について　大槻 知子
5. 制度や社会サービス　牧原 信也

・７月 15 日（月 / 祝）
1. 医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識　福原 寿弥
2. セイファーセックス・リスクアセスメント　生島 嗣・スタッフ
3. ネスト・プログラムの取り組み　加藤 力也 / 佐藤 郁夫
4. 相手のある保健行動～コンドーム使用と使用依頼～　生島 嗣・スタッフ

●ボランティア交流会の開催

ぷれいす東京では、さまざまな部門で多くのボランティアが活動していますが、普段は、部門をまたがって交流はなかなかできません。そこで、2016 年度からすべてのボランティアを対象に、交流会を開催しています。2019 年 6 月 12 日（水）に、４回目となるボランティア・スタッフ交流会を開催し、15 人が参加しました。Sexual Health Project メンバーたちがプログラムの企画と司会をし、他己紹介、伝言ゲーム、お絵かきゲームなど２チームに分かれて、楽しく一緒に過ごしました。（P.21 参照）

●Webサイトの運営

2019 年度は、４月に TOKYO AIDS WEEKS の取り組みの一つとして、「UPDATE! いくつ知っている？」を制作しました。10 月には「Stay Healthy and be HAPPY ！」が新たにオープンしました。この Web サイトは、令和元年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」（研究代表者：樽井正義）により制作されました。ぷれいす東京 Web サイトでは、2020 年３月に、「HIV と新型コロナウイルス関連情報」のお知らせページを作成し、翻訳ボランティアの協力で、海外の情報も掲載しました（随時更新中）。また、YouTube「ぷれいす東京チャンネル」も立ち上げました。その他にも、Facebook、Twitter、Instagram といったソーシャル・メディアも活用し Web 上で随時情報発信を行っています。

ぷれいす東京関係

・ぷれいす東京（PC版・スマホ版）
https://www.ptokyo.org/
・Living with HIV
～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～
http://lwh.ptokyo.org/
冊子無料配布プロジェクトを実施中

研究班関係

・地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
https://www.chiiki-shien.jp/
・Love Life and Sexual Health（LASH）
https://lash.online/
・Stay Healthy and be HAPPY ！
https://stayhealthy.tokyo/

・PrEP in JAPAN
https://prep.ptokyo.org/
「数字でわかる日本のPrEP」を公開
・BRTA JAPAN
https://brta.jp/（事務局を担当）

委託
・東京都HIV検査情報Web
http://tokyo-kensa.jp/
・性行為で感染する病気への対策してますか？
https://shp.ptokyo.org/hepatitis/

コラボレーション
・TOKYO AIDS WEEKS
https://aidsweeks.tokyo/
・とも・ナビweb　～HIVで通院されている皆さまへ～
https://www.janpplus.jp/tomonavi/
（特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの共同プロジェクト）

Facebookは以下のページがあります。
（　　）内URL https://www.facebook.com/ 省略
PLACE TOKYO (PLACETOKYO)
Gay Friends for AIDS (ptokyoGF/)
LASH online (LoveLifeAndSexHealth/)
U=U_JAPAN (UU_Japan-169773930400714/)
Update_HIV (updateHIV/)
Tokyo AIDS Weeks (TokyoAIDSweeks/)

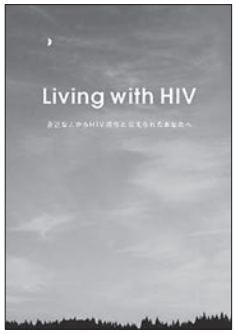
そのほか、
Twitter (PLACE TOKYO https://twitter.com/placetokyo　ほか)
Instagram (PLACE TOKYO https://www.instagram.com/placetokyo/)
YouTube「ぷれいす東京チャンネル (https://www.youtube.com/channel/UCr2D5d8jk8ECz3TEzCSQEvg)」
があります。

●冊子などの制作物

ぷれいす東京では、HIV陽性者のサポートや一般へ向けた予防啓発など、さまざまな活動の成果を冊子などの形にまとめています。これらの冊子は、陽性者や周囲の人などの当事者、ぷれいす東京にボランティアなど何らかの形で関わってくださっている方々、あるいは教育やセクシュアリティ、医療、福祉などの専門家をはじめ、広くさまざまな層へ向け、一部を除き原則有償実費にて頒布しています。各冊子類の内容も同サイトにて紹介していますので、ぜひご覧ください。

▼HIV陽性者の手記など「生の声」をまとめた冊子

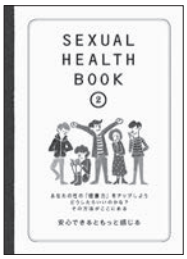
【Living Togetherシリーズ】
・『Living with HIV　～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～』（後援：鳥居薬品株式会社）



HIV陽性者のパートナー、家族、友だち、職場の仲間など、身近な人からHIV陽性と伝えられた人とHIV陽性者による計24編の手記と、基礎知識やデータを取りまとめた短いコラムを掲載。通知を受けた人への支援ツールとしても活用できる。2013年制作（A5サイズ　60ページ）。2014年第2刷、2015年第3刷、2017年第4版。
鳥居薬品株式会社のご協力により、無償配布を行っている（冊子がなくなり次第、終了）。

▼予防啓発活動を通じて生まれた冊子

【Sexual Healthシリーズ】
・『Sexual Health Book ②』



Sexual Health シリーズの第2弾。感染予防、避妊、デートDVなど性の健康情報だけでなく、性の多様性とコミュニケーションのポイントについてもとりあげ、わかりやすく、しかも自分事として気づくための工夫がなされている。学校、家庭、職場

などで教材として活用できる冊子。　2014年制作(A6サイズ16ページ)。

▼肝炎の予防啓発のためのパンフレット

・『性行為で感染する病気への対策してますか？』

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」(研究代表者：今村顕史(がん・感染症センター 都立駒込病院))からの依頼で制作。2019年制作(A5サイズ8ページ)。

Webサイトも開設し、冊子のPDF版のダウンロード・閲覧も可能。
(http://shp.ptokyo.org/hepatitis/)

▼その他制作物(詳しくはお問い合わせください)

・日本エイズ学会学術集会・総会 HIV陽性者参加支援スカラシップ 報告書(第20 ～ 30回)
　ぷれいす東京とはばたき福祉事業団、日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスが共同発行。
・ぷれいす東京年間活動報告書(2013 ～ 2018年度)
・Living Together Manual
・Living Together LETTERS
・Living Together “Our Stories”
・Hの強化書・実践編
・OUR DAYS
・OUR DAYS [Episode 2]
・Sexual Health ゲーム編
・たんぽぽ(新陽性者向け冊子)
　(発行：東京都、制作・改訂協力：ぷれいす東京)
・職場とHIV/エイズハンドブック　—HIV陽性者とともに働くみなさまへー
　(発行：東京都、編集協力：ぷれいす東京)
・Life & Medicine
　～日常生活の中で 服薬を続けるヒント～
　(発行：ヤンセンファーマ株式会社、制作：ぷれいす東京)

●メディアへの協力

今年度もテレビ・ラジオ番組、新聞や雑誌、Webなど各種メディアからの取材依頼がありました。ゲイ雑誌の取材などにも協力・寄稿し、情報発信をサポートしました。また、研究成果や相談対応に基づく情報提供、可能な範囲でのHIV陽性者の紹介を行いました。事前に企画書を提出していただき、内容の妥当性や取材協力者のプライバシーへの配慮などを確認しています。

朝日新聞	HIV 感染、ある同性愛者の勇気　偏見との戦いは今も	4 月 21 日掲載
HUFFPOST 日本版	ゲイがバレて同僚から暴力、そして路上生活へ。LGBT の住まいを支援する「虹色ハウス」の実践報告	5 月 8 日掲載
現代ビジネス YAHOO! ニュース	外国籍・ゲイ・HIV の「三重マイノリティ」男性が見た日本の不条理	6 月 19 日掲載
TBS ラジオ	蓮見孝之まとめて！土曜日 -- 外国籍・ゲイ・HIV の「三重マイノリティ」男性が見た日本の不条理 --	6 月 22 日放送
東京新聞	＜参院選ルポ＞ LGBT　行き場失い生活困窮　差別や偏見なくす法整備進めて	7 月 10 日掲載
西日本新聞	言わせて 2019 参院選（7）「違い」認め合う社会に（同性婚の原告　佐藤郁夫さん）	7 月 20 日掲載
毎日新聞	HIV「陽性者支援に感銘」 韓国の活動家来日、医療現場など視察／東京	8 月 8 日掲載
しんじゅくニュース	ぷれいす東京　HIV と向き合い、共に生きる社会をめざして	10 月 1 日発行
BuzzFeed Japan	「金属バットの 2 人も HIV 検査受けて」 支援団体が指摘する「差別」と「他人事意識」	10 月 1 日掲載
西日本新聞	12 月 1 日世界エイズデー　今も偏見と差別　薬で発症抑え、感染防げる	11 月 22 日掲載
ビギナーズ鎌倉	歌声は楽しく、強く、そして切なく『Gay Men’s Chorus 2019』エイズと社会ウェブ版 435	11 月 23 日掲載
J-WAVE	JK RADIO TOKYO UNITED	11 月 29 日出演
HUFFPOST 日本版	第 1 回　HIV に感染したからって結婚も妊娠もあきらめたくない。むしろ恋愛に積極的になれた女性の物語	12 月 12 日掲載
HUFFPOST 日本版	第 2 回　HIV 陽性者は絶望の存在ではない。僕が体験を発信し続ける理由。カミングアウトできても、恋愛とセックスはまだ怖い	12 月 13 日掲載
HUFFPOST 日本版	第 3 回　本当に立ち直ったのは HIV 感染から 5 年目のこと。人目をはばからずにわんわん泣いた。 医療現場で体験した差別や偏見	12 月 16 日掲載
HUFFPOST 日本版	第 4 回　ともに HIV 感染した男女が結婚。「新しい人生」に幸せをかみしめる日々	12 月 17 日掲載
HUFFPOST 日本版	セックスの前に飲む HIV 予防、PrEP (プレップ) とは？	12 月 13 日掲載
GENXY	日本と世界の「PrEP」最新事情とは？医師が徹底解説	12 月 15 日掲載
Gladxx	レポート：TOKYO AIDS WEEKS 2019	12 月 19 日掲載
Gladxx	Visual AIDS 短編映像集「STILL BEGINNING」	12 月 19 日掲載
エフエム世田谷	Radio Leaders	1 月 25 日出演
BuzzFeed Japan	「HIV 感染を理由に歯科診療拒否は不法行為」 東京地裁が判決　歯科クリニック側に賠償命令	3 月 23 日掲載
ゲイ雑誌「サムソン」に寄稿	2019 年 6 月号 (2019/4 発売) ～ 2020 年 5 月号 (2020/3 発売) に連載 ※ 2020 年 6 月号 (2020/4 発売) で休刊	

寄付のランディングサイトができました！

「**私たちは、ぷれいす東京です。**」 https://ptokyo.org/weare/

ぷれいす東京の簡単な紹介と、市川誠一さん、大平勝美さん、岡慎一さん、桜井なおみさん、沢田貴志さん、高久陽介さん、長谷川博史さん、松本俊彦さん（五十音順）からの応援コメント、オンライン寄付などについて掲載されています。ぜひご覧ください。（2020 年 4 月 23 日公開）

部門報告（ホットライン）

1. 活動のあらまし

HIV/ エイズに関して、不安や疑問がある人の相談を受けたり、情報を提供する場として、

＊「ぷれいす東京 HIV/ エイズ電話相談」
＊「東京都 HIV/ エイズ電話相談（夜間 / 休日）」
（東京都委託事業）
＊ 1/20 以降「東京都 HIV/ エイズ電話相談（平日）」
（東京都委託事業）

を運営している。

2. スタッフの構成（2020年3月現在）

・コーディネーター　1名
・世話人　5名
・スタッフ　36名（実働）

3. 活動内容

○「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

電話番号：03（3361）8909［1 回線］

実施日：日曜日　13：00 ～ 17：00
（1/26 から 14：00 ～ 17：00 に変更）

○「東京都HIV/エイズ電話相談（夜間/休日）」
（東京都委託事業）

電話番号：03（3292）9090［2 回線］
（1 月から 03（3327）3335 に変更）

実施日：金曜日　18：00 ～ 21：00
（但し、祝日の場合は、14：00 ～ 17：00）
土 / 日曜日　14：00 ～ 17：00
［1/20（月）から］
月～金曜日　12：00 ～ 21：00
土日祝日　14：00 ～ 17：00　に変更

○スタッフミーティング

毎月 1 回、第 3 日曜日　11：15 ～ 13：15
（2 月から 11：30 ～ 13：30 に変更）
合わせて、ケースカンファレンスや学習会を行っている。

○世話人会

部門内の調整・企画の場として有志により構成。ホットライン部門研修に携わっている。
第 3 日曜日に必要に応じて世話人会を開催。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会

東京都エイズ対策係と共同委託先の HIV と人権・情報センターの三者による定例会議。
毎月第 2 金曜日に都庁にて開催している。（1 月から東京都エイズ対策係との二者になった）。

○東京都HIV/エイズ電話相談連絡会全体会

東京都エイズ対策係と共同委託先の HIV と人権・情報センター東京に係るスタッフで構成され、2012 年度から始まった。年 1 回開催。

2019年度の相談状況

1)「ぷれいす東京HIV/エイズ電話相談」

●相談実績報告（2019年4月1日～ 2020年3月31日）

年間活動日数	50 日間
総相談時間数	190 時間
	※ 10/13 台風接近のため中止
活動スタッフ数	のべ 61.5 名
年間相談数	468 件
	男性 392 件 女性 76 件 不明 0 件
	うち 陽性者 13 件
	確認検査待ち 3 件
	陽性者周囲 3 件
	確認検査待ち周囲 2 件

●相談件数〈ぷれいす東京〉

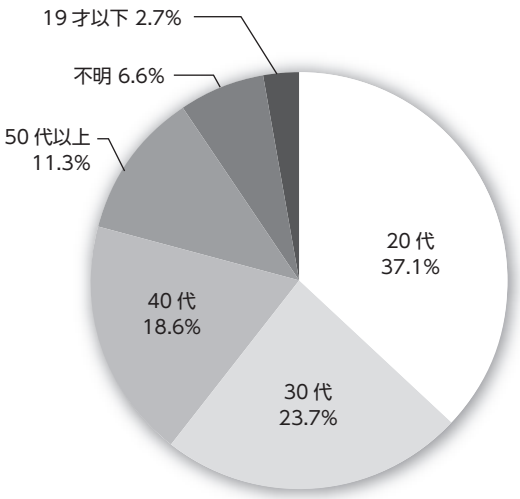
今年度の相談件数は、468 件（昨年度：515 件）だった。月平均 /39 件（同：43 件）、1 日平均 /9.4 件（同：9.9 件）で、昨年度に比べると月に4件の減少だった。過去の推移は、508 件、439 件、396 件、515 件、468 件だった。

●相談者の内訳〈ぷれいす東京〉〔グラフ1〕

性別は、「男性 392 件（83.8%）、「女性」76 件（16.2%）、「不明」0 件だった。男女の割合はこの 5 年間同様の傾向を示している。

年代は、「20 代」37.1%、「50 代以上」11.3%と昨年度より少し増加した。「19 才以下」2.7%、「30 代」23.7%、「40 代」18.6%は変動がなかったが、東京都に比べて「不明」の割合が少ないのは、昨年度から導入した先にアンケートを聞く方法に変更したことによる成果である。

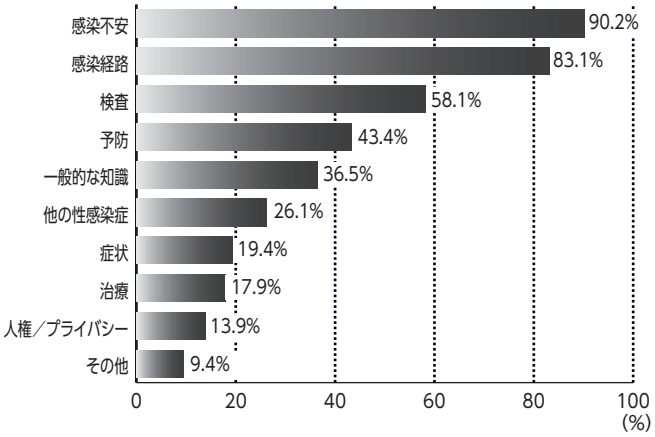
グラフ 1　相談者の年代（ぷれいす東京）n=468
2019年4月～2020年3月



●相談内容（複数回答有）〈ぷれいす東京〉〔グラフ2〕
（%は、内容／相談件数）

相談内容の内訳は「感染不安」が中心で全体の 90.2%（昨年度：88.2 %）、次いで「感染経路」83.1 %（同：81.6%）、「検査」58.1 %（同：58.6 %）、「予防」43.4 %（同：43.9%）、「一般的な知識」36.5%（同：24.1%）、「他の性感染症」26.1 %（同：21.0%）、「症状」19.4 %（同：18.8%）、「治療」17.9 %（同：17.5%）、「人権・プライバシー」13.9%（同：11.5%）、「その他」9.4%（同：10.5%）となった。

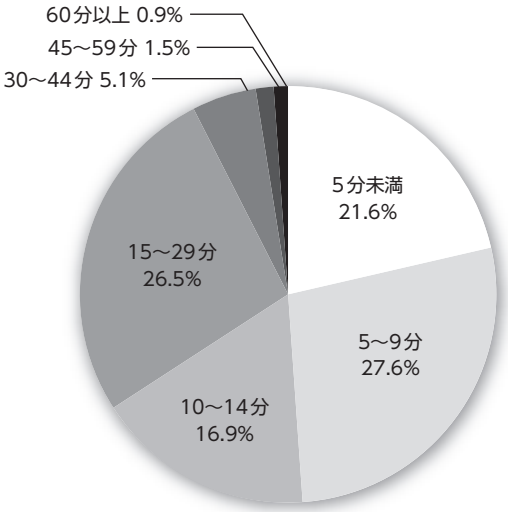
グラフ 2　相談内容（ぷれいす東京）＊複数回答あり
2019年4月～2020年3月



●相談時間〈ぷれいす東京〉〔グラフ3〕

全体的な傾向は、昨年度と同様だったが、30 分以上の相談が少し増加した。「5 分未満」21.6%（昨年度：24.3%）、「5 分 ～ 9 分」27.6 %（同：27.4 %）、「10 分 ～ 14 分」16.9 %（同：20.4 %）、「15 分～29 分」26.5 %（同：23.9%）、「30 分～ 44 分」5.1 %（同：3.5%）、「45 分～ 59 分」1.5%（同：0.8%）、「60 分以上」0.9%（同：0.2%）と変動した。

グラフ３　相談時間（ぷれいす東京）n=468
2019年4月～2020年3月

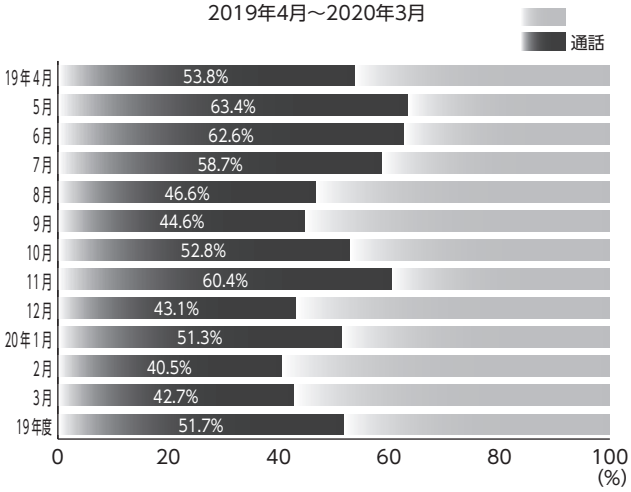


●回線占有率〈ぷれいす東京〉〔グラフ４〕　算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

回線占有率は、昨年度は50％以上の月が５ヶ月だったが、今年度は７ヶ月になった。

その結果、年度の回線占有率が51.7％（昨年度：46.4％）に上昇した。

グラフ４　回線占有率（ぷれいす東京）
2019年4月～2020年3月

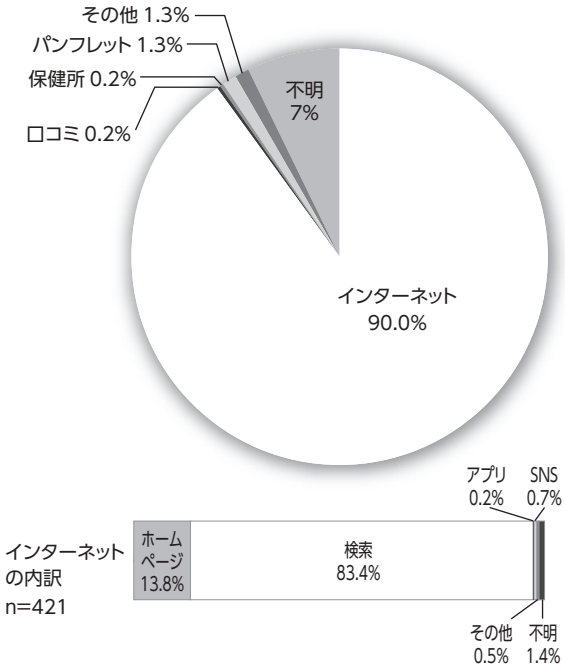


●情報源〈ぷれいす東京〉〔グラフ５〕

「インターネット」は全体の90.0％だった。続いて「パンフレット」1.3％、「その他」1.3％だったが、それ以外は１％未満だった。

「インターネット」の421件の内訳は、「ホームページ」58件（13.8％）、「検索」351件（83.4％）、不明６件（1.4％）、「SNS」３件（0.7％）、「その他」２件（0.5％）、「アプリ」１件だった。

グラフ５　情報源（ぷれいす東京）n=468
2019年４月～2020年３月



●他県の割合〈ぷれいす東京〉　n=468

東京都外からの相談は341件（72.9％）と、昨年度の319件（61.9％）から増加した。全国から相談があることを示している。

●陽性者及びその周囲への対応〈ぷれいす東京〉

HIV陽性者からの相談は13件（昨年度：４件）だった。確認検査待ち（スクリーニング検査が陽性／要確認／判定保留／擬陽性で、確認検査の結果が出ていない：以下、確認検査待ち）が３件（同：４件）、陽性者周囲の相談が３件（同：３件）、確認検査待ち周囲の相談が２件（同：０件）だった。ぷれいす東京の相談における陽性者等の相談は、全体の4.5％（同：1.9％）だった。

2)「東京都HIV/エイズ電話相談(夜間/休日)」(東京都委託事業)

この相談は東京都から委託を受け、「HIV と人権・情報センター東京」と分担して行っている事業である。1/20 以降は「ぷれいす東京」が平日も含めて受託することになった。

以下は「ぷれいす東京」が担当し、対応したものについて報告する。

●相談実績報告(2019年4月1日～ 2020年3月31日)

年間活動日数	194 日間 (うち平日追加分 42 日間/金曜日(10 日間)は 12:00-18:00 の時間追加)
総相談時間数	894 時間/のべ 1,788 時間 (うち平日追加分 459 時間/のべ 918 時間) ※ 10/12 ~ 13 台風接近のため中止
活動スタッフ数	のべ 758.5 名
年間相談数	3,472 件 男性 2,635 件　女性 834 件 不明　3 件 うち 陽性者 139 件 確認検査待ち 12 件 陽性者周囲 15 件 確認検査待ち周囲 2 件

●月別相談件数〈東京都〉

今年度の相談件数は 3,472 件(昨年度:2,679 件)で 793 件の増加だった。1 月から相談時間の枠が変更になっていて、昨年度との単純な比較はできないので省略した。

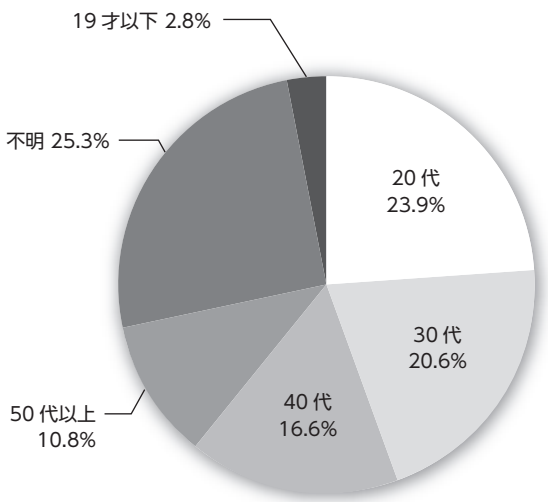
●相談者の内訳〈東京都〉〔グラフ6〕

性別は、「男性」75.9%(昨年度:60.1%)、「女性」24.0%(同:39.5%)、「不明」0.1%(同:0.4%)だった。

今年度は「男性」の割合が 15.8%も増加した。昨年度かけていた複数の女性リピーターの相談回数が減少したり、かけて来なくなった影響と思われる。

年代は、「20 代」が 23.9%(同:18.5%)、「30 代」20.6%(同:19.1%)、「40 代」16.6%(同:12.4%)、「50 代以上」10.8%(同:5.6%)、「19 才以下」2.8%(同:1.6%)の順だった。「20 代」⇄「30 代」が入れ替わったが、大きな順位変動はなかった。「不明」は 25.3%(同:42.8%)で少なくなった。

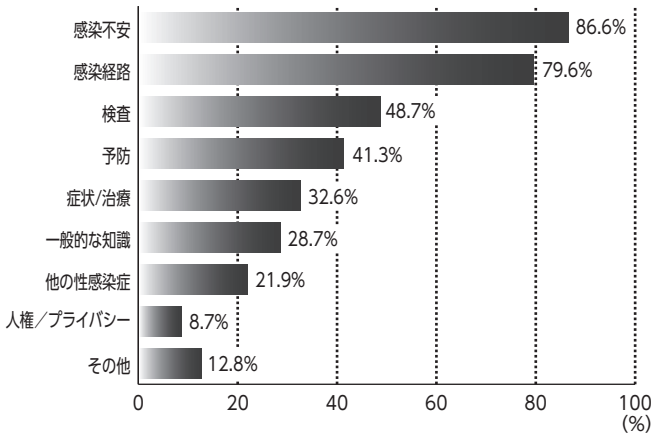
グラフ6　相談者の年代(東京都) n=3,472
2019年4月～2020年3月



●相談内容(複数回答有)〈東京都〉〔グラフ7〕 n=3,472

今年度から相談内容の内訳は、「感染不安」が 86.6%(昨年度:86.9%)で一番多かった。続いて「感染経路」が 79.6%(同:75.2%)、「検査」が 48.7%(同:38.7%)と続いた。「予防」41.3%(同:28.4%)、「症状/治療」32.6%(同:22.7%)、「一般的な知識」28.7%(同:20.3%)、「他の性感染症」21.9%(同:14.6%)、「その他」12.8%(同:8.6%)、「人権/プライバシー」8/7%(同:6.0%)という順位になった。

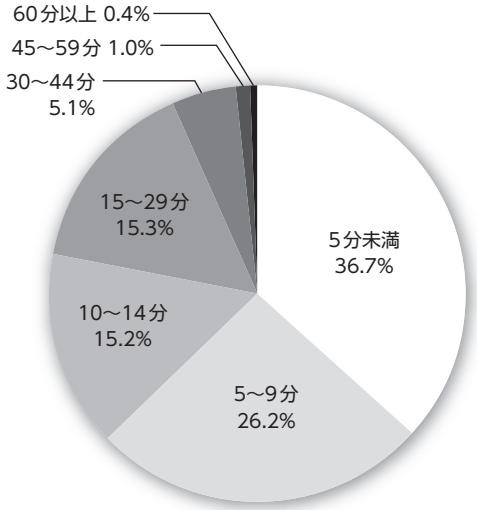
グラフ7　相談内容(東京都) *複数回答あり
2019年4月～2020年3月



●相談時間〈東京都〉〔グラフ8〕

10分未満の相談は62.9%（昨年度：70.7%）と半数以上を占めた。全体の93.4%（同：95.9%）が30分以内に収まり、60分以上の相談は0.4%（同：0.3%）だった。昨年度と比較すると少し相談時間が長めになっていた。

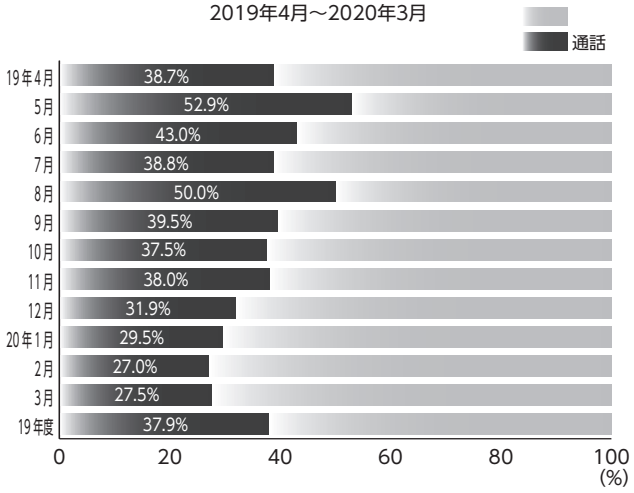
グラフ8　相談時間（東京都）n=3,472
2019年4月～2020年3月



●回線占有率〈東京都〉〔グラフ9〕算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）

今年度の回線占有率は、5月、8月は50%を超えたが、それ以外は50%未満だった。1月以降は平日（12：00-21：00）の時間帯が含まれるため、全体的に回線占有率は下がっている。

グラフ9　回線占有率（東京都）
2019年4月～2020年3月

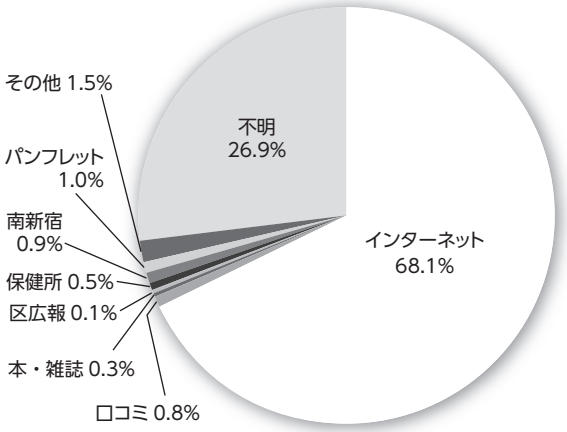


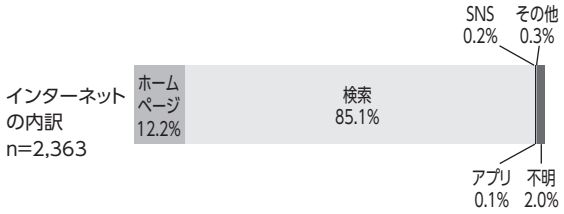
●情報源〈東京都〉〔グラフ10〕

「インターネット」は全体の68.1%（昨年度:52.8%）だった。続いて「不明」26.9%、「その他」1.5%、「パンフレット」1.0%で、それ以外は1%未満だった。

「インターネット」の2,363件の内訳は、「ホームページ」289件（12.2%）、「検索」2,011件（85.1%）、「不明」48件（2.0%）、「その他」7件（0.3%）、「SNS」5件（0.1%）、「アプリ」3件（0.1%）だった。

グラフ10　情報源（東京都）n=3,472
2019年4月～2020年3月





●他県割合〈東京都〉　n=3,472

東京都外からの相談は1,767件（昨年度：1,014件）で、全体の50.9%（同：37.8%）を占めた。昨年度より13.1%上昇した。「東京都」の電話相談だが、全国のニーズに対応していることがわかる。

●陽性者及びその周囲への対応〈東京都〉

HIV陽性者からの相談は139件（昨年度：27件）で、112件増えた。確認検査待ちは12件（同：4件）、陽性者周囲の相談は15件（同：8件）、確認検査待ち周囲の相談は2件（同：0件）だった。東京都の相談における陽性者等の相談率は、4.8%（同：1.0%）だった。平日の相談を受けることになり、陽性者等の相談を受ける機会が大幅に増えた。

3) 相談全体のまとめ（ぷれいす東京／東京都）

①東京都HIV/エイズ電話相談の平日のシフトが始まる

東京都の5年間の数字は、2,244件、1,951件、2,230件、2,679件、3,472件と、1/20から平日のシフトが増えたため、件数的には大きく増加した。東京都とぷれいす東京とを合わせたのべ相談員数は、昨年度が422名だったが、今年度は820名となった。シフト運営のための相談員のやりくりは今まで以上に大変である。一人当たりのシフトへの参加回数が増加したり、6時間以上の長時間にわたり相談を受けることになるので、相談員の心のケアに力を入れる必要が出てきている。また平日開始当初は、HIVと人権・情報センター東京とぷれいす東京の相談対応について、比較されることが多かったが、だんだんと少なくなり、相談者も少しずつ慣れてきているようだ。

②リピーターの相談

今年度もリピーターが存在したが、特徴は大きく二分される。一つ目はもう何年も、人によっては10年単位でかけてきている長期的リピーターで、その多くは日常接触や接触すらしていないことで不安になり、細かく何度も確認をしてくる。もう一つは、一定の期間だけかけてくるリピーターで、多くは性的接触などの具体的な心配事があり、検査結果を受け取るまで続く。しかし中には、陰性の結果が信じられず、相談が続く場合もあった。

③新型コロナウイルスの影響

2020年になって、日本でも新型コロナウイルスの感染が拡大して、4月には緊急事態宣言が発令され、自粛を求められている。2月くらいからその影響が顕著に現れ始めている。大きなニュースがあるときは、その時間帯の相談件数が極端に少なくなるが、その後、相談件数が若干増加する。①元々HIVへの感染不安がある人が、コロナ関係の報道等により、精神的に影響を受ける人②新型コロナウイルスとHIV（ウイルス）の情報が混在してしまい、検査のことなどが不安になる人③（実際のところは不明だが）新型コロナウイルスのことが心配になり、HIVのことの心配が薄れている人（相談の中でそう言っている人がいる）しかし、このタイプの人は電話をかけなくなっている可能性が高い。まだ収束までには時間がかかりそうなので、今後の動向に注意する必要があるだろう。

④陽性者などの相談

ぷれいす東京と東京都のHIV/エイズ電話相談に寄せられた、HIV陽性者・確認検査待ちとその周囲の人たちからの相談をまとめた。1/20から平日のシフトが増えたことで、相談件数が大きく増加した。

□陽性者（152件）

1）陽性者のリピーター（115件／陽性者の75.6%）

※男性：115件／30代：7件、40代：72件、60代：13件、不明：23件／東京：45件、他県56件、不明：14件

・年間の相談回数が78回、28回というリピーターが存在した。

・トピック的な相談がある場合もあるが、多くは日常に起きた出来事に関する相談だった。

・HIV以外の課題を抱えている相談者もおり、対応は慎重にしなければならない。

2）感染後6ヶ月以内の陽性者（10件／陽性者の6.6%）

※男性：9件、女性：1件／30代：4件、40代：1件、不明：5件／東京：4件、他県：2件、不明：4件

・告知直後の漠然としてた不安。（6件）

・3週間前告知。そのことで精神的に悪化した。

・2ヶ月前告知。家族から拒絶され、混乱。

・紹介された拠点病院の予約が取れない。別の拠点病院を紹介して欲しい。

・服薬を始めたが、そのストレスで中断。3ヶ月分の薬を捨ててしまった。

3）感染後6ヶ月以上と長期療養中の陽性者（27件／陽性者の17.8%）

※男性：27件／30代：7件、40代：13件、50代以上：3件、不明：4件／東京…9件、他県…15件、不明…3件

[緊急や困難な事例]

・老後資金のニュースを見て、生きているのが申し訳なくなり、薬を止めたら死ねますか？

・頭をぶつけて、歩行困難になり、記憶も鮮明でない。どうしたら良いか。

・体調が悪いが、どうしたら良いか。

[専門的知識が必要な事例]

・弁護士の紹介の依頼。

・自立支援制度の具体的な質問。

・職場のトラブルについて。

・歯科の紹介をして欲しい。（2件）

・労災の手続きについて。

・外国人。新型コロナウイルスのことで、母国での薬調達ができなくなった。（4件）

・医療保険についての質問。

［プライバシー関連］
・拠点病院で手術後、通院中の歯科にHIVのことを通知された。プライバシー侵害。
・パートナーに自分のHIVのことをバラされた。その後別れたがプライバシーが心配。
・家族との関係で、プライバシー侵害があり、裁判を起こしたい。
・メンズエステでの問診票にHIVについての記載があった。
・教員。私学全体にHIVのことを開示された。プライバシー侵害。
・病院でのHIV陽性者への差別。
・他科診療でHIVの通知をどうしたら良いか。
・会社にバレてしまうか、プライバシーの不安。

［その他］
・長期療養のメンタルについて。相談対応への不満。
・コロナウイルスについて。
・日常の報告。
・梅毒の相談（２件）

□確認検査待ちの相談（15件）
※男性：12件、女性：3件／20代：4件、30代：9件、40代：2件／東京…5件、他県…8件、海外…2件

［術前検査・妊婦検診］
・妻の妊娠で、一緒に病院でHIV検査を受けて、自分だけ確認検査待ちになった。（2回）
・出産から半年経って、HIV検査を受けたら確認検査待ちとなった。配偶者としか性行為はない。
・妊婦健診で確認検査待ちになった。配偶者としか性行為はない。（2件）
・痔の手術の検査で偽陽性と言われた。彼女としか性行為はない。

［自主検査］
・ゲイ。性行為の90日後に保健所で即日検査を受けたら、偽陽性と言われた。
・2週間前の行為で不安になり、検査。結果が「要来院」になった。（2回）
・保健所の都合で判定保留の結果が2週間後になる。不安で待てない。
・パートナーが遊んでいて、検査で陽性がわかり、自分もクリニックで検査を受け、要確認になった。
・いつも気をつけているのに、一瞬だけ生でしてしまった。即日検査で判定保留になった。
・体調不良が続き、クリニックで検査を受けたら、確認検査待ちになった。今後が不安。
・10日前の保健所の検査では陰性。今日2回目の検査で確認検査待ちになった。

［入院中の検査］
・精神科に入院中に検査。自殺願望あり。

□陽性者周囲の相談（18件）
※男性：15件、女性：3件／20代：2件、30代：3件、40代：8件、50代以上：2件、不明：3件／東京：4件、他県：13件、不明：3件

・（パートナー）陽性となった。自分も行為後検査を受けたが、ウインドウピリオドが足りない。パートナーと連絡が取れない。
・（パートナー）彼女が陽性。オーラルセックスされたときの感染の可能性。
・（パートナー）相手から暴力を受けて怪我をした。自殺をほのめかされたり。どうしたらよいか。
・（パートナー）彼女と行為後、陽性と告げられた。予防はしていたが心配。
・（パートナー）同性パートナーが陽性になり、閉じこもっている。今後について。
・（パートナー）同性パートナーと予防のない相互フェラチオがある。検査を受けた方が良いか。
・（交際相手）相手の親には通知。親戚からドナー検査の依頼があった。どうすれば良いか。
・（SEX相手）コンドームなし肛門性交の後、陽性と知った。感染不安。
・（SEX相手）陽性の人とセックスをした。U=Uだと言われたが、予防なしの挿入だったので心配。
・（母親）息子が入院して陽性とわかった。家族がパニックになっている。（2回）
・（父親）。息子との関係性について。
・（友人）友人が陽性。蚊に刺されたところが腫れている。土日に診てもらえる病院はあるか。
・（友人）友人の薬物について。友人の親との関係性。
・（友人）友人の陽性が最近わかった。一般的知識の質問。
・（サービス利用者）ヘルパーを頼んだが、陽性と聞いた。自分も免疫の持病があり、断りたい。

□確認検査待ち周囲の相談（3件）
※男性：2件、女性：1件／40代：1件、50代：1件、不明：1件／他県：3件

・（不明？）睾丸の痛みで、病院で検査を受けて、確認検査待ちになった。
・（母親）娘が術前検査で陽性反応が出た。心あたりがない。あるとしたら10年前の交通事故。
・（パートナー）郵送検査で、要確認となった。妊娠しているがHIVのことを話したら断られた。中絶も考えている。

2019年度の相談状況

3) 相談全体のまとめ（ぷれいす東京／東京都）

□陽性者相談などのまとめ

数年前、陽性者などの相談が難しいとの声が相談員から上がった時、ケースカンファレンスでの最終的な落とし所は、「不安な感情や気持ちを受け止めること」と「専門家が対応した方が良いこと」をわけて、「不安な感情や気持ちを受け止めること」に専念して、専門的なことはぷれいす東京ポジティブラインに繋ぐことで、相談員の心理的な負担を和らげようと考えた。ところが今年度の陽性者などの相談内容を見ると、専門家でも対応が難しいものが多く含まれていて、個別対応が必要な相談であった。特に地方では、プライバシーの問題があり、陽性者の暮らしにくさが見えてきた。

相談員は、気持ちを受け止めるよう努力をしているが、専門家のサポートや専門的な知識が必要な相談が多く、対応が難しかった。陽性者相談の相談員とも連携した学習会や、ケースカンファレンスを通じて、スキルアップする必要があると思うと同時に、どのような言葉をかけて、ぷれいす東京ポジティブラインにかけ直してもらうかも課題である。

活動実績（2019年4月1日～2020年3月31日）

1) シフト等活動状況

ミーティング等稼働状況	回数	のべ人数	
電話相談シフト	194日	820シフト（1シフト3h）	
スタッフミーティング	10回	110	4/21，5/19，6/16，8/18，9/15，10/20，11/17，12/15，2/16，3/15
世話人会	4回	23	6/16，11/17，12/7，12/15
緊急スタッフミーティング	2回	28	1/5，1/19
平日スタッフミーティング	1回	4	2/6
平日相談に向けての研修	2回	12	1/9，1/14
懇親会	1回	14	7/23
東京都電話相談全体会	1回	11	7/23
東京都ボランティア講習会	2回	3	9/18，12/19
個別ミーティング	5回	15	12/24，12/28，1/21，2/6，2/16
シフト引き継ぎ	2回	6	9/15，3/21
ホットライン部門研修	5回	43	7/28，7/31，8/4，9/7，9/16
モニタリング	9回	11	
実地研修	21回	26	
新人修了ミーティング	8回	17	8/27，8/31，9/7，9/11，9/28，11/1，11/8，11/20
東京都電話相談連絡会	11回	18	4/19，5/10，6/14，8/16，9/13，10/11，11/8，12/13，1/10，2/14，3/13

2) 新人スタッフ研修

他部門と共同の募集を実施。合同でのオリエンテーション・基礎学習を行なった後、ホットライン部門の専門研修を実施した。

(1)合同研修事前オリエンテーション
(2)ぷれいす東京スタッフ合同研修
(1)(2)の詳細については、事務・総務部門の報告を参照

3) ホットライン部門研修

電話相談員に必要な基礎講義を学習後、各研修生とも相談電話事例を用いてロールプレイング、電話相談のモニタリング、実地研修の個別指導へ。全課程修了後、再度本人の意志を確認し、ホットラインスタッフに迎えた。研修の実施・指導はホットライン部門の世話人を中心に、現役スタッフが担当した。今年度研修全体を見直し、日数と時間を短縮した。

ぷれいす東京合同研修
※事務・総務部門の報告を参照
- 事前オリエンテーション
- 合同研修（2 日間）or 補講

ホットライン部門別研修［1 日目］：6 時間
- グラウンドルールの確認
- ピア・カウンセリング
- HIV 検査について
- 相談デモンストレーション

ホットライン部門別研修［2 日目］：5 時間
- グラウンドルールの確認
- 検査相談デモンストレーション
- ロールプレイング（1）～（3）
- 質疑応答／研修振り返り
- モニタリング／実地研修に向けて

モニタリング：各 3 時間× 1 回
- グラウンドルールの確認
- モニタリング
- ケース毎の振り返り
- 実地研修に向けて疑問点の解消
- 振り返り

実地研修：各 3 時間× 2 回
- グラウンドルールの確認
- 実地研修
- ケース毎の振り返り
- 知識の確認
- 振り返り（毎回）／今後について（最終回）

〔講師〕生島 嗣（ピア・カウンセリング）・折茂 淳（HIV 検査について）
〔担当スタッフ〕阿曽 義文 / 足立 惟子 / 佐藤 郁夫 / 白幡 素子 / 染谷 太恵 / 丸井 淑美 / 山田 恒

4. スタッフの声

「ホットラインの活動を通して感じたこと」
ともぞう

ホットラインのスタッフとして相談を受ける前は、相談者はきっとMSMの方たちが多いのだろうな、と勝手に考えていました。しかし、スタッフとして相談を受けてみると、圧倒的に異性愛者の男性が多かったのです。

最初は戸惑いましたが、相談者の話を聞いていると、HIV/AIDSについての情報が古いことに気がつきました。今では、一日に一回薬を飲めば、ほぼ平均寿命まで生きられると言われています。ほかの慢性疾患と変わらないのですが、相談者にその話をするとびっくりすることが多く、未だに、HIV/AIDSは死ぬ病気と捉えている人が多いことに、自分の方がびっくりしてしまいました。

考えてみると、MSMの方たちに対しては、HIV/AIDSのキーポピュレーションとして、啓発活動が多く行われていますし、各地にコミュニティセンターもあって、異性愛者に比べると、HIV/AIDSに対しての情報量が多いのではと思うのです。

確かに、MSMコミュニティの方が、HIV/AIDSへの感染機会も多く、そのコミュニティに対しての啓発活動は必要だと思います。しかし、それ以外の特に異性愛の男性に対して、そこまで啓発活動がされているかというと、私が知る限りではあまりないと思われます。

ホットラインのスタッフとして、これからは、ハイリスク層といわれる、MSMコミュニティだけではなく、異性愛者へのHIV/AIDSの啓発活動をしていくべきではないかな、と思いながら、電話相談を受けている今日この頃です。

「一緒に考えることの大切さ」
マサト

HLの活動を通して、自分自身すごく成長出来ている感じがしています。なぜなら、以前の自分であれば相談に乗った際、この相談を解決してあげたいと言う気持ちで相談に乗っていました。

しかし、相談とは相手の気持ちに寄り添う事がまず大事だと思います。今では、結論はあくまで、相談者がする事だと思います。

人の考え方や感じ方など様々だと思うので、あくまで一緒に考えることが大切だと思います。まだ始めて、そんなに時間はたっていませんがHLを始めて良かったと思いますし、これからも相談者と一緒に色々な問題や不安を一緒に考えていきたいと思ってます。

5. まとめ

今年度で、一番大きな出来事は、1月からの平日シフトの開始である。年末に話があり、急に決まった。

スタッフの協力があってできているが、安定して運営するためには、今後もスタッフの補強が重要となる。また新型コロナウイルスの感染の拡大に伴い、＋1稼働（相談の電話回線＋1名）を止め、定員稼働をしている。

狭い相談室で密になることを避けるためである。今後どうなるかはわからないが、HIV/エイズの相談も止めてはいけないと思う。力を合わせて、乗り越えたいと思っている。

［データ作成］阿曽 義文　［報告］佐藤 郁夫

SHPミーティング

5月19日（日）　出席：　4人
9月　7日（土）　出席：13人
9月11日（水）　出席：　3人

SHPスタッフが 企画・運営したイベント

・ボランティア交流会
　6月12日（水）午後7時　スタッフ5人　参加者10人

4回目となるボランティア・スタッフ交流会を開催し、15人が部門を超えて参加しました。プログラムの企画と司会はSexual Health Projectメンバーが担当しました。他己紹介・伝言ゲーム・お絵かきゲームなどを2チームに分かれてやり、普段なかなか交流ができないボランティア同士で楽しく過ごしました。

SHPスタッフが参加したイベント

・4月28日（日）、4月29日（月・祝）
　東京レインボープライドパレード＆フェスタ
　手伝い　3人

・5月25日（土）
　活動報告会にて発表　1人

・11月23日（土・祝）
　Gay Men's Chorus for TOKYO AIDS WEEKS 2019

・12月11日（水）
　日本におけるPrEPの普及と課題～見守りネットワーク作りを目指して　手伝い4人

・12月15日（日）
　LGBT支援の実践報告会＆ネットワーキング・パーティー　手伝い6人

動画配信手伝い
9月16日（月・祝）「おしえて！ドクター　ルース」
ゲスト：池上千寿子　　スタッフ3人

動画はこちらから
https://www.facebook.com/301113573257226/videos/976317952727587/

ボランティア交流会感想

◆「なぜだか本気すぎるゲーム対決」

部門：ネスト
ハルピン餃子（陰性パートナーミーティング　セクレタリー／男性／ゲイ／40代）

平日夜の開催で天候も良くなかったので、あまり人が集まらないのではと気を揉みましたが、事務所のスタッフさんたちも加わって15人ほどになりました。どんなことをするのか知りませんでしたが、北海道のHIV不当解雇訴訟の様子についての報告が少しあったほかは、何の集まりかわからなくなるほどの白熱した？ゲーム対決。黒板に絵を描いて言葉を当てるゲームでは、描く時間が極端に短く制限され、グループ全員で一筆ずつ描き足します。大人が描いたとは思えない“素晴らしい”仕上がりに、絵を見て言葉を当てなくてはならないグループメンバーは苦戦、周りは爆笑でした。こういうレクリエーションをしたのはいつ以来だったかなぁ。なぜだかとても無邪気に楽しむことができました。報告会みたいな真面目なミーティングも良いけど、こういうただただ楽しむのも良いな。ボランティア同士は会う機会がとても少ないから、今回みたいな内容だと、どこかで再会したときに「あ、あの時の！」って、気軽に挨拶できそうです。事前のお膳立てをしてくださった他のボランティアさんに感謝。また参加したいです。

◆「横のつながり！」

部門：ネスト　　ノブ

二度目の参加となったボランティア交流会。2チームに別れてのゲーム大会や、北海道でのソーシャルワーカーのHIV内定取消訴訟の裁判傍聴報告など、硬軟合わさった内容で終了まであっという間でした。

自分はネスト・プログラム部門のボランティアをしており、他の部門のボランティア内容を詳しく知らないので、隣席のバディ（付き添い介助）部門のボランティアメンバーが話してくれた「数年同じ方を担当するので関係が深まってくる」「外出補助でその方が興味ある寺社仏閣や日本庭園に付き添い、自身も興味の幅が広がってきた」

という経験談がとても興味深かったです。それぞれのセクションの面白さや大変さ、やりがいやチーム感があるのだろうなあと、普段は感じられないボランティア同士の部門を超えた横の情報交換や交流の中で、自分も余裕ができればもう少し関わりを広げてみたいと思いました。

帰り際にかわいいなあと思った参加者に話しかけてお喋りできたので大満足で（心で）スキップしながら帰りました（笑）

企画してくれた部門のメンバーやスタッフ皆さんありがとうございました！

◆「ぷれいす東京らしい交流会でした」

部門：Sexual Health Project　　ヒロト

ボランティア交流会に初めて参加しました。交流会を企画・進行するチームのメンバーとしての参加だったので、受付やら司会やらで忙しいのだろうと思っていましたが、いざ始まってみると参加者も司会も区別ない雰囲気で会が進んでいき、他の参加者の皆さんと一緒にしっかりと楽しむことができました。ムラの結束を求められず、それでいて和気あいあいとしている、ぷれいす東京のボランティアの良さが発揮された会になったと思います。

印象的だったのは、会の前日にあったHIV内定不当取消裁判の話が最後に出たときでした。私はたまたまこの裁判を傍聴してきたので、どのような雰囲気だったかを皆さんにお伝えし、皆さんからはいろいろな質問が出ました。日ごろ会う機会も少なく、ぷれいすでも別々の活動をしている皆さんですが、次々と投げかけられる質問からは全員が同じ方向を向いて活動に取り組んでいることが感じられ、とても心強く思いました。

◆「スタッフとして3回目！」

部門：Sexual Health Project　　まるこ（30代）

ボランティア交流会に参加しました。スタッフとしては3回目のボランティア交流会です。当日、最初から会場にいれると思っていたのに、仕事が延びてしまい、遅刻しての参加となりました。

平日ということもあり、参加者は少ないかなと思いきや、10名以上の参加でホッとしました。伝言ゲーム、お題でお絵かきゲームも、和やかな雰囲気で盛り上がったと思います。お絵かきは、お題が難しかったかもしれません。私としては、3回目ということで、ゲームの司会も慣れてきたような気がしました。人前で話すのも、元々は苦手だったのに、いつのまにか鍛えられた？かもしれません。次回は、週末の方がいいかもしれない、とか。皆さん、お腹が空いていたようなので、もうちょっとボリュームあるお菓子があった方が良かったかな、とか、考えながら帰宅しました。この和やかな雰囲気のままで、次回もボランティア交流会が出来るといいなと思います。

1. 電話相談

●2019年度活動記録

(1)実施日

毎週土曜日　19時～21時

(2)年間相談活動日数

50日（2018年度：50日）

※10/12台風接近のため中止

(3)電話相談活動時間数

98時間（2018年度：100時間）

(4)相談体制

相談員５名 ＋ シフト担当１名

(5)年間相談件数

171件

（うち陽性者等の相談23件）

（2018年度：相談件数142件、うち陽性者等15件）

(6)ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談

0件

●2019年度相談件数

(1) 全般

表１月別の相談件数および１日あたりの平均件数を表している。

2019年度の年間相談件数は前年度と比べ、29件増加した。4月から11月は全て前年より平均件数も増加。１日あたり0.63件の増加だった。

表１　月別の相談件数及び一日当たりの平均件数

		2019年度			（参考）2018年度		
年	月	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）	相談件数（件）	実施日数（日）	平均件数（件）
2019年	4月	17	4	4.25	9	4	2.25
	5月	14	3	4.67	7	4	1.75
	6月	17	5	3.40	13	5	2.60
	7月	17	4	4.25	7	3	2.33
	8月	16	5	3.20	9	4	2.25
	9月	12	4	3.00	7	5	1.40
	10月	11	3	3.67	12	4	3.00
	11月	18	5	3.60	10	4	2.50
	12月	10	4	2.50	13	4	3.25
2020年	1月	11	4	2.75	16	4	4.00
	2月	15	5	3.00	16	4	4.00
	3月	13	4	3.25	23	5	4.60
	合計	171	50	3.46	142	50	2.83

(2) 相談時間

表２は相談時間を10分単位にまとめたものである。

2019年度は、10分以内で終わる相談が６割以上であった。なお､1件あたりの平均相談時間は11.47分で、前年度の12.17分より減少した。60分以上の相談は1件もなかった。

表２　相談時間

相談時間（分）	2019年度		2018年度	
	件数	割合	件数	割合
～10	107	62.6%	85	59.9%
11～20	30	17.5%	31	21.8%
21～30	14	8.2%	15	10.6%
31～40	15	8.8%	4	2.8%
41～50	4	2.3%	4	2.8%
51～60	1	0.6%	1	0.7%
61～	0	0.0%	2	1.4%
合　計	171	100.0%	142	100.0%

(3) 相談者の年代

表3は相談者の年代別の相談件数を表している。

2019年度は、例年通り20代、30代で半数以上を占めているが、今年は40代が前年より増えた。年代不明は半数を切ったが、今年度も複数のリピーターから相談があった。

表3　年代別の相談件数

年代	2019年度		2018年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
10代	8	4.7%	6	4.2%
20代	34	19.9%	30	21.1%
30代	20	11.7%	16	11.3%
40代	24	14.0%	16	11.3%
50代	2	1.2%	0	0.0%
60代以上	2	1.2%	1	0.7%
不明	81	47.4%	73	51.4%
合　計	171	100.0%	142	100.0%

(4) 相談電話の発信地域

表4は相談電話の発信地域を示している。

2019年度は前年度と大きくは変わらなかったが、東京からの発信が微増した。

発信地不明も年代と同じく半数を切った。

表4　相談電話の発信地域

地域	2019年度		2018年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
東京	24	14.0%	15	10.6%
東京以外の関東	28	16.4%	16	11.3%
関東以外	36	21.1%	36	25.4%
不明	83	48.5%	75	52.8%
合　計	171	100.0%	142	100.0%

(5) 相談電話の情報源

表5は相談電話を知った情報源を表している。

2019年度も、「インターネット」と「携帯電話・モバイル」の合計が45.1%で、前年度より多少増加したが、「携帯電話・モバイル」が4.7%から1.8%と減少した。スマートフォンの普及でモバイルであってもインターネットと回答していたと思われる。

表5　相談電話を知った情報源

情報源	2019年度		2018年度	
	件数	(割合)	件数	(割合)
ゲイ雑誌	2	1.2%	2	1.4%
検査機関・パンフレット	1	0.6%	0	0.0%
他の相談電話	0	0.0%	2	1.4%
インターネット	74	43.3%	50	35.2%
携帯電話・モバイル	3	1.8%	3	2.1%
口コミ	2	1.2%	1	0.7%
その他	1	0.6%	6	4.2%
不明	88	51.5%	78	54.9%
合　計	171	100.0%	142	100.0%

(6) 相談者のセクシュアリティ

表6は相談者のセクシュアリティを表している。

「ゲイ」からの相談が若干減少したが7割を占めていた。Gay Friends for AIDS 電話相談(以下、Gフレ電話相談)の対象外のセクシュアリティからの相談が12.2%あった。

この時間帯に受け付けている電話相談がないので、対象外とわかっていても、何とか相談をしたいという思いでかけてくるかもしれない。が、今年度は女性からの相談が11件(6.4%)もあり、相談時間が2時間と短いため、どこまで対応するかが課題である。

表6　相談者のセクシュアリティ

区分	2019年度		2018年度	
	件数	割合	件数	割合
ゲイ	121	70.8%	106	73.6%
ゲイ周囲	0	0.0%	0	0.0%
既婚者・バイセクシュアル	9	5.3%	2	1.4%
男性に性的興味を持った	2	1.2%	2	1.4%
レズビアン	0	0.0%	0	0.0%
トランスセクシュアル等	0	0.0%	1	0.7%
異性愛者(男)	10	5.8%	6	4.2%
異性愛者(女)	11	6.4%	2	1.4%
不明	18	10.5%	25	17.4%
合　計	171	100.0%	144	100.0%

●相談内容について

2019年度は、171件の相談のうち陽性者対応23件（後述）と異性間性行為（男・女）26件と無言5件を除いた117件について検討し、HIV関連相談とHIV以外の相談に分類した。前年度と同様に1回の相談で複数の内容の相談が寄せられているケースも見受けられた。複数の相談を独立させて計上した結果、HIVに関連した相談が262ケース、HIV以外の相談（非HIV関連）が81ケース、合計343ケースとなった。

また、ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談は0件であった。

(7) HIVに関連した相談…262ケース

図1はHIV感染不安や検査あるいはHIV以外の性感染症（STI）などに関する相談（以下：「HIV関連相談」）の内訳である。

2019年度の相談内容を前年度と比較すると、「予防の情報提供」2.2%→17.4%と大きく増加した。前年度より積極的に予防情報を伝えたことが影響した。「フェラチオ全般の相談」5.8%→0.3%、

「アナルセックス全般の相談」5.4%→1.9%は減少した。

それ以外は2%程度の変動で、予防なしアナルセックス感染不安」7.1%→6.1%、「アナルセックスとフェラチオ両方の行為の感染不安」5.4%→3.2%、「予防なしフェラチオ感染不安」7.6%→7.4%、「口内射精・飲精による感染不安」1.8%→3.2%、「その他の性行為の感染不安」11.2%→10.3%、「検査に関して」19.6%→19.3%、「他のSTI」が7.1%→6.1%、「感染経路等一般的知識・その他」26.8%→24.8%だった。

リスクのある行為をして相談してくるケースは、前年度同様にリスクがある事がわかっていながら、行為を止められないといったケースも複数あった。その様な相談には今後の予防やリスク軽減について一緒に考えたり、検査を受けることで現状を知ることを提案をしている。フェラチオに関する相談では、する側・される側ともに予防をしている者は、相談票の記載からは読み取れなかった。アナルセックスでは適切な予防をしながらもフェラチオをする側での感染リスクを知らず、行為の後に不安になり相談してきたケースが複数あった。またアナルセックスの相談で、コンドームの外れや破れによる相談も散見された。コンドームの正しい扱い方の情報提供も必要なのかもしれない。

「予防の情報提供」に関しては、どの様にセーファーセックスをしたら良いか迷っている相談者に相談員の経験を踏まえながら、感染の可能性を小さくする方法を一緒に考えていた。

(8) HIV以外の相談（非HIV関連相談）…81件

図2は、セクシュアリティ（性的指向）、ライフコース（ゲイとしての生き方）、そして人間関係などゲイとしてのアイデンティティに関わる「非HIV関連相談」の内訳である。

前年度と比較すると「ライフコース（ゲイとしての生き方）」21.0%→13.6%、「メンタルヘルス等」15.0%→7.4%、「セクシュアリティ」13.0%→13.6%、「恋愛・人間関係」10.0%→7.4%と変動した。

HIV以外の相談（非HIV関連相談）では、ゲイであることや男性に興味があるという相談、自分の性的指向への迷いがあるという相談に対して、セクシュアリティについて一緒に考えたり、その行動や感情を少しでも肯定的に捉えられるように対応していた。

またLGBTを扱うTV番組の影響で相談してきたり、発展場での性暴力についての相談、AV撮影に参加した後での感染不安、政治家が「生産性」について発言したことを受けての相談など、内容は多岐に及んだ。

図1　HIV関連相談の内訳（n=262）

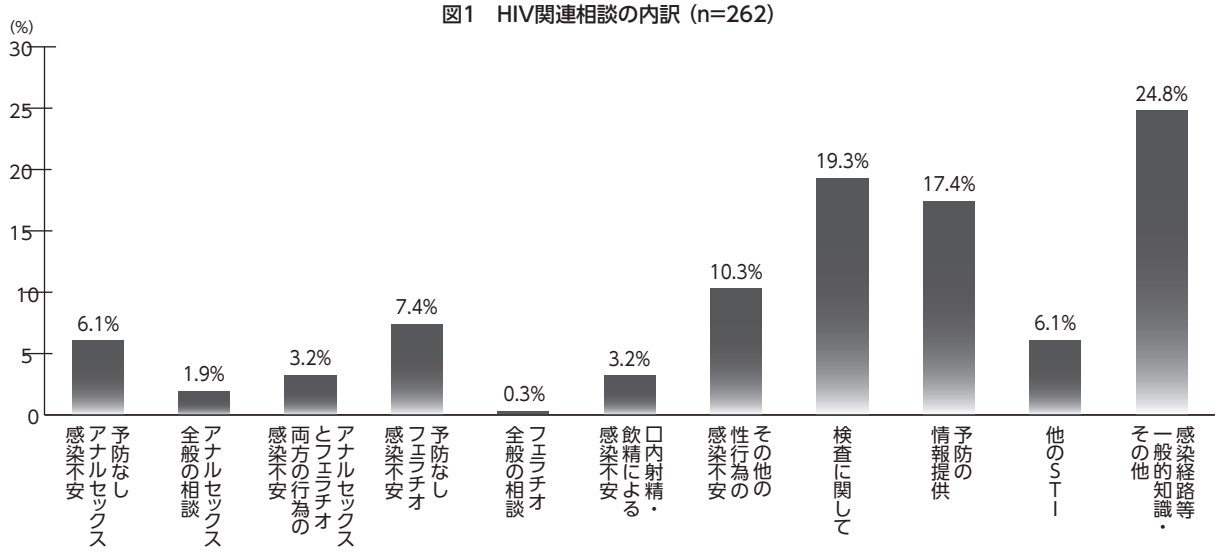
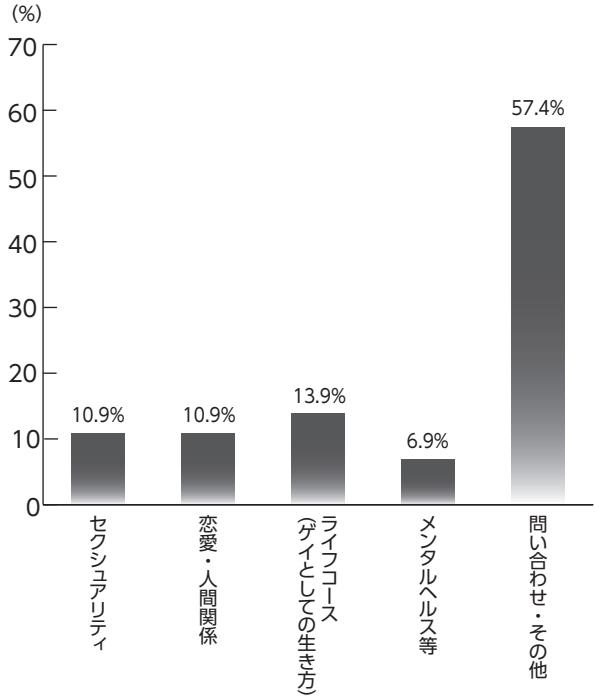


図2　非HIV関連相談の内訳（n=81）



(9) 陽性者等の対応について…23件

2019年度の陽性者等の対応は、HIV陽性者からの相談が18件、検査での要確認の相談が2件、パートナーや友人など陽性者本人以外からの相談が3件で、全相談件数に対する陽性者等の割合は、直近の3年間は、10件→20件→23件と推移している。

陽性者の相談は、感染がわかったばかりの人からの相談が2件あり、初期の漠然とした不安に寄り添いながら、ぷれいす東京・ポジティブラインなど適切な情報を案内していた。体調不良の相談、通院病院の転院に関する相談、別れたパートナーが自分のプライバシーを守ってくれるかどうか、海外から帰国したが手続きが済んでおらず、現在服薬をしていないなど、かなり難しい相談も受けていた。

陽性者周囲からの相談では、世界的なキャンペーンU=U（血液中のウイルス量が測定限界値になって、半年以上を経過していたら、予防のない行為でも相手に感染するリスクがない）が日本でも広まっている影響からか、パートナーやセックスをした相手から、行為後にHIV陽性の事実やU=Uのことを伝えられて、感染不安になっている相談が見られた。

●今後の課題

A. 相談員の増員、学習等

今年度も仕事の関係などでシフトを変更する事が非常に多かった。その際にはシフト調整係が活躍したが、この数年の課題である人員補強をしなければいけない。

U=U、PrEPや他のSTI、また新型コロナウイルスとセックスなど、日々新しい情報を身につけないとHIV/エイズの相談を対応できなくなっている。相談員の情報更新も含めて、人員の育成を検討していく必要がある。

B. 広報から相談範囲に幅を持たせる必要性

ゲイ及びバイセクシュアル、男性に興味があるなど、男性同士のHIV/エイズとセックスについて相談を受けてきているが、いくつかのLGBTQのサイトでも電話番号を広報している。これからはLGBTQの相談に対しても、ある程度相談を受けられるような体制を整えないといけないと思う。ケースカンファレンスや学習会で相談員のスキルアップに努めたい。

C. 陽性者等の対応に関して

今年度は、HIV陽性者等の相談が、全体の13.5%を占めていた。土曜日の夜間はHIV/エイズの電話相談の空白時間帯のため、ニーズは高くなっている。特に感染初期の対応は、様々な不安の気持ちを傾聴することが、相談者のメンタルや命に影響すると思うので、HIVを身近に感じているゲイとして、これからも陽性者等が孤立しないようしっかりと対応していきたい。

D. 非HIV関連相談に関して

今年度も様々な相談が寄せられた。非HIV関連の相談では、相談員ごとの価値観の違いにより、回答に違いが生じると思われるが、人それぞれ置かれた環境の違いから相談者自身でしか答えを出せない事、他の相談員の場合違う回答になる可能性を伝えた上で、自身の経験など参考になりそうな話をした。

専門外ではあるが、セクシャリティーやゲイとして生きる事など、相談機関が少ない事などを考えると今後も可能な限り対応して行きたい、相談者の今後の人生の選択に大きく影響する事も考えられるので、今後もミーティングやケースカンファレンスで情報を共有し、様々な考えや指向など共有していきたい。

E. リピーター対応に関して

今年度も複数の長期リピーターが存在した。それぞれメンタルや置かれている環境に課題があると思われる。相談員は相談ごとに新たな気持ちで相談することが望ましい。いつか電話相談をかけなくても良くなるように一緒に考えていきたいと思う。この件についてもケースカンファレンスが必要性を感じる

［データ作成］よし　［報告］佐藤 郁夫

2. イベントでの活動

●東京レインボープライドパレード＆フェスタ

ゴールデンウイークの恒例行事である東京レインボープライド＆フェスタ。今年度も４月28日（日）及び４月29日（月・祝）に代々木公園イベント広場＆野外ステージにて大々的に行われた。初日はやや涼しく、二日目はやや暑くといった天候ではあったが、会場には多くのかたが訪れていた。

例年２日目にパレードが行われていたが、今年は初日である28日にパレードが行われた。過去最大の40のフロートが出走、パレード参加者も10,000人を超える規模となった。そして、26番目のフロートが、エイズ予防財団による「WE’RE　ALREADY　LIVING　TOGETHER」フロートであった。

メッセージを強く打ち出したフロート

HIV/AIDSをメインテーマとしたフロートがパレードに登場するのは、2016年の「AIDS IS NOT OVER」フロート以来、３年ぶりのこととなる。今回はフロート出展者が各々隊列参加者を募る形式となったが、募集開始から多くの申し込みやお問い合わせをいただいた。関連団体のスタッフはもちろん、HIV陽性者やその周囲の方、研究者、製薬企業関係者、医療者や医療系の学生など、多様な顔ぶれの賑やかなフロートとなった。

渋谷の街もパレード仕様

フロートそのものの準備はaktaの皆さんにご尽力いただく一方、東京レインボープライド側の要請によりフロートの隊列スタッフを各団体からも出すこととなり、Ｇフレメンバーはパレード中のブースの留守番と隊列スタッフにわかれて活動することになった。当日はあまりに規模が大きくなったため出発時間が大幅に遅れ、整列を開始するタイミングの判断も難しい事態となったが、前後の企業フロートの皆様にもご配慮いただき、何とか隊列を整えることができた。出発してしまえばフロート上のDJ、GOGOの皆さんが集団を盛り上げてくれ、沿道からも沢山の声援をいただき、気持ちよく渋谷の街を一周することができたように思う。Ｇフレスタッフは隊列の前方、中ほど、後方に配置し、責任者は最後尾からときどき前方を伺いつつ、事故なくパレードを終えることができた。

イベント広場と並木道では２日間を通してぷれいす東京とaktaが運営する合同ブース「We’re Already LIVING TOGETHER」を出展した。

会場ではコンドームや各種資材の配布に加え、大型のパネルを用いて。HIV/エイズの知識をアップデートしてもらう「update HIV キャンペーン」を実施した。展示系のブースはテント内にいかにして入ってもらうかが重要で、また資材もできるだけ多くの方に受け取っていただけるよう､両日とも十名ほどのスタッフがアウトリーチに参加した。今年もＧフレだけではなく、他部門からも参加者を募ったが、巨大イベントの雰囲気を楽しみながら活動してもらうことができたと思う。またこのイベントは年々国際色豊かになり、何人かのかたには外国語でのコミュニケーションをお願いした。パネルは基本的には日本語であるが、外国語対応サイトのQRコードも用意し、より多くの方に新しい情報を届けることができたのではないかと感じている。

さらに、啓発資材は夜のクラブパーティでもご厚意により会場の一角に配布コーナーを設置、コンドームとパンフレットのアウトリーチを行った。

大判パネルと様々な“VOICE”がブースを彩る

「update HIV キャンペーン」は、ヴィーブヘルスケア株式会社とギリアド・サイエンシズ株式会社の協力で実施することができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

●TOKYO AIDS WEEKS 2019

今年度もTOKYO AIDS WEEKSのイベントのひとつとして、国立国際医療研究センターにて「Gay Men's Chorus for TOKYO AIDS WEEKS 2019」が開催された。今年も50名ほどがコーラスに参加してくださった。また手記の朗読はオープンリーゲイの参議院議員である石川大我さんにご出演いただいた。（詳細は6ページをご覧ください。）

今年度の合同研修に参加された新人スタッフを含め、GフレメンバーとSHPのスタッフの合同チームで会場運営を担当した。イベントスタッフそのものが初めてという者もいたが、病院関係者のかたのご協力もあり、スムーズに活動できた。

会場が病院内のアトリウムで、院内コンビニの目の前ということもあり、毎年このイベントは何が行われるかよくわからないまま会場に居合わせてしまうかたが少なくないのだが、今年はこのコンサートのために病棟からやってきたというかたも結構いた印象であった。それも病院内での告知をしていただいているおかげである。今年は会場である院内コンビニの前の掲示板にも告知が出ていた。

入院患者向けの告知の隣にTOKYO AIDS WEEKS

そうした告知の効果もあってか来場者は130名を超え、病院関係者のオーディエンスも含めれば200名前後、出演者スタッフ合わせ250名規模のなかなか大きなイベントとなった。HIV診療にあたっているドクターがご家族を連れて聴きに来られている姿も見られた。

スタッフは病院入り口からの会場案内、演奏前後の会場整理、撮影を控えていただけるようにとのお願い、パンフレットなどの配布といった役割を分担した。事前にスタッフ間でどのようなかたが来られる可能性があるかを共有し、昨年よりはスムーズに案内ができたかと思う。また、人数が多くなったため上層階から吹き抜けを覗き込むように見ておられるかたも増え、撮影しないよう注意してまわるのは例年よりもやや大変だったが、大きなトラブルもなくコンサートを終えることができた。

●最後に

2019年度のイベントチームは、東京レインボープライドパレードでフロートが出るということで、Pride Weekでは主催・共催イベントを実施することはできず、個々に関連イベントのお手伝いをするにとどまった。2020年度は新型コロナウイルス対策のためパレード自体が中止（オンラインイベントの開催）となり、大きな情報発信の機会がひとつ失われる形となった。しかしながらHIVをとりまく環境としてはPrEPの情報などへのニーズは依然高いと思われるため、引き続き新しいトピックの情報提供などに取り組んでいく所存である。

（イベント関連報告：桜井 啓介）

2019年度も、さまざまな個人・団体のかたにご支援とご協力をいただきました。二つの大きなイベントはセクシュアリティを問わず様々なかたと接するものでしたが、ねぎらいや励ましの言葉もいただき、メンバー一同心より感謝しております。本当にありがとうございました。

2020年度も、Gay Friends for AIDSをよろしくお願い申し上げます。

Ⅰ．活動概要

主な活動は、ネスト・プログラムの企画・運営、プログラムのための人材育成・研修である。

(A)ネスト・プログラム

HIV 陽性者やそのパートナー、家族が、安心して話し合ったり、学習や情報交換をしたり、交流したりすることを目的としている。プログラムの多くは HIV 陽性者を対象としているが、陽性者のパートナーや家族を対象としたものも開催している。プログラムに参加するには事前の利用登録が必要で、事務所にて専任相談員が当事者確認をし、守秘義務などのルールに同意を得た上で行っている。プログラムでは、相談員や司会進行役のスタッフのもと、毎回、最初にグラウンドルールを確認している。

また正式なネスト・プログラムではないが、相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。現在は「既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング」「中国語を話す陽性者のミーティング」「English Speaker's Meeting」が開催されている。

ネスト・プログラムに関わるスタッフ、相談員などで会議を設け、企画運営をしている。また、毎月ネスト・ニュースレターを発行して、ネスト・プログラムの案内などを掲載している。メール版も配信し、Web 上や SNS（Facebook・Twitter）でも広報している。ニュースレターの PDF 版も公開している。

表1　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	**67 回**	**545 名**	**80 名**	**43 名**	**64 名**	
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング（PGM）	17 回	76 名	20 名	22 名	18 名	—
3 ミドル・ミーティング（40才以上の男性陽性者）	9 回	189 名	6 名	8 名	10 名	—
4 U40ミーティング（10代,20代,30代男性陽性者）	11 回	99 名	22 名	—	11 名	—
5 異性愛者のための交流ミーティング	12 回	89 名	14 名	—	12 名	—
6 Women's Salon（女性陽性者のためのプログラム）	—	—	—	—	—	—
7 大人女子会（更年期女子会から名称変更）	1 回	1 名	—	1 名	—	—
8 ミックス・トーク10（MT10）	3 回	15 名	7 名	—	4 名	—
9 陰性パートナー・サポートミーティング	6 回	29 名	2 名	6 名	5 名	—
10 もめんの会（HIV/AIDSを支える母親の会）	3 回	6 名	—	3 名	—	—
11 群馬サテライト・ミーティング	3 回	30 名	6 名	1 名	3 名	
12 川崎サテライト・ミーティング	2 回	11 名	3 名	2 名	1 名	
(ロ)学習会/ワークショップ/セミナー	**13 回**	**121 名**	**2 名**	**15 名**	**9 名**	**24 名**
1 ストレス・マネジメント講座	7 回	42 名	—	6 名	2 名	7 名
2 アサーション・コミュニケーション	2 回	18 名	—	—	3 名	4 名
3 専門家と話そう	1 回	13 名	—	4 名	1 名	2 名
4 ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」	1 回	4 名	—	1 名	1 名	—
5 ベーシック講座「HIV ってどんな病気？」	1 回	6 名	—	2 名	1 名	—
6 就職支援セミナー	1 回	38 名	2 名	2 名	1 名	11 名
(ハ)交流会	**29 回**	**265 名**	**20 名**	**36 名**	**15 名**	**7 名**
1 就職活動サポートミーティング	6 回	28 名	—	6 名	5 名	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6 回	27 名	—	6 名	1 名	—
3 医療者（看護師）として働く陽性者のための交流会	5 回	35 名	—	5 名	—	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4 回	35 名	—	4 名	—	—
5 教師として働く陽性者のための交流会	4 回	9 名	—	4 名	1 名	—
6 ピア＋トーク	2 回	53 名	10名	5 名	3 名	7 名
7 カップル交流会（＋/＋or＋/－カップル）	—	—	—	—	—	—
8 パーティ（サマー・年末）	2 回	78 名	10名	6 名	5 名	—
(ニ)小グループ・ミーティング	**8 回**	**30 名**	**8 名**	**8 名**	**0 名**	**1 名**
1 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング	1 回	2 名	—	1 名	—	—
1 中国語を話すHIV陽性者のミーティグ	3 回	17 名	—	3 名	—	—
2 English Speaker's Meeting	4 回	11名	8 名	4 名	—	1 名
プログラム参加者総数	**117 回**	**961 名**	**110 名**	**102 名**	**88 名**	**32 名**

※のべ利用者数は、参加者とピア・ファシリテーターなどの合計です。

2019年度は、台風及び新型コロナウイルスの影響により、下記プログラムが開催中止または延期となった。

・ミドル・ミーティング 2回中止(台風、新型コロナウイルスの影響)
・U40ミーティング 2回中止(新型コロナウイルスの影響)
・もめんの会 1回中止(新型コロナウイルスの影響)
・専門家と話そう 1回延期(新型コロナウイルスの影響)
・就職支援セミナー 1回延期(新型コロナウイルスの影響)
・医療者(看護師)として働く陽性者の交流会 1回中止(新型コロナウイルスの影響)
・教師として働く陽性者の交流会 1回中止(新型コロナウイルスの影響)
・ピア+トーク 1回延期(新型コロナウイルスの影響)
・カップル交流会 1回中止(台風の影響)

(B)人材育成・研修

2012年度より積極的に人材育成を行なっている。ぷれいす東京のボランティア合同研修修了者を対象に、ネスト・スタッフ研修を行なっている。また、プログラムのセクレタリー(受付業務)やファシリテーター(司会進行役)として活動するスタッフには、別途、オリエンテーションと実地研修を行なっている。プログラム参加者の中から、スタッフとしても活動に参加するHIV陽性者やパートナーも増加している。従来新陽性者PGMにほぼ限定されていたピア・ファシリテーターによるミーティングの運用を、他のプログラムへと拡充している。

Ⅱ. 2019年度活動実績

(A)ネスト・プログラム

(2019年4月1日～2020年3月31日)

○スタッフ数(2020年3月31日現在) 6名
○ネスト・スタッフ数(2020年3月31日現在) 66名
○実利用者数 286名
(うち新規利用者数 88名)
○のべ利用者数 1,071名
(うちピア・ファシリテーターなど積極的参加 110名)
○プログラム開催数 117回
プログラム内容は**表1**を参照
○ネスト・ニュースレター 月1回 年12回発行

その他に、ネスト・プログラム・スタッフ会議や、新陽性者PGMファシリテーターによる各回・各期の振り返りミーティング、その他各プログラム担当ファシリテーターやセクレタリーの振り返り、多目的室の整備など、ネスト・プログラムを運営していくために、陽性者が積極的に関わって多くの会議や活動が行なわれている。

(B)人材育成・研修

○ 2019年度 ネスト・スタッフ研修修了者数 9名

Ⅲ. 2019年度活動報告

(A)ネスト・プログラム

ぷれいす東京Webサイトの「ネスト・プログラム」には、ネスト・プログラムの報告や参加感想文が多数掲載されているので、あわせてお読みください。

(A)-(イ)グループ・ミーティング

表(イ) ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(イ)グループ・ミーティング	67回	545名	80名	43名	64名	—
1 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)	17回	76名	20名	22名	18名	—
2 ミドル・ミーティング(40才以上の男性陽性者)	9回	189名	6名	8名	10名	—
3 U40ミーティング(10代、20代、30代男性陽性者)	11回	99名	22名	—	11名	—
4 異性愛者ミーティング	12回	89名	14名	—	12名	—
5 Women's Salon(女性陽性者のためのプログラム)	—	—	—	—	—	—
6 大人女子会	1回	1名	—	1名	名	
7 ミックス・トーク10(MT10)	3回	15名	7名	—	4名	—
8 陰性パートナー・サポートミーティング	6回	29名	2名	6名	5名	—
9 もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)	3回	6名	—	3名	—	—
10 群馬サテライト・ミーティング	3回	30名	6名	1名	3名	
11 川崎サテライト・ミーティング	2回	11名	3名	2名	1名	

2019年度開催中止となったプログラム
●ミドル・ミーティング 2回(台風、新型コロナウイルスの影響)
●U40ミーティング 1回(新型コロナウイルスの影響)
●もめんの会(HIV/エイズを支える親の会) 1回(新型コロナウイルスの影響)

グループ・ミーティングは、2020年3月末現在11プログラムを実施している（うち1プログラムは休止中）。

■ 新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)【HIV感染がわかってから6ヶ月以内の陽性者】

HIV感染がわかってから6ヶ月以内の陽性者が対象。少人数（原則5～7名）で、2時間のミーティングを2週間毎に計4回実施。2001年4月に第1期をスタートし、2020年3月までに通算で378回開催、参加者数はのべ2,056名（実人数：567名）。スタートから20年目で記念すべき第100期を迎えた。

感染告知を受けて心身共に不安定になりがちな最初の数ヶ月間を同じ立場の仲間と過ごすことで、問題の解決のヒントや先の見通しを得てもらい、新たなスタートを切ってもらうことがこのプログラムの大きな目的である。また、このプログラムをきっかけとして今後も連絡を取り合う仲間を得たり、ぷれいす東京が提供する他のサービスに繋がるきっかけとなる場合もある。このプログラムへの参加を経験した「卒業生」がピア・ファシリテーターになるケースも増え、循環型のプログラムとして順調に機能している。

進行はHIV陽性当事者であるピア・ファシリテーターと、進行を担当するスタッフ・ファシリテーターの2名で行うのが原則だが、ピア・ファシリテーター2名で進行を行うこともある。

■ ミドル・ミーティング【40代以上の男性陽性者】

毎月第2土曜日に開催。基本的には40代以上の男性HIV陽性者が対象。他のプログラムと比較して各回の参加者人数が多く、自己紹介のタイムキープや2グループに分けるなどの進行上の工夫、会場のレイアウト変更などを行っている。

初参加の参加者がいる回も多く、長く参加している参加者と相互にエンパワーし合う場面も見られる。それぞれが定期的に挨拶を交わすサポート・ミーティングとなっている。

2019年度は台風と新型コロナウイルスの影響により、10月と3月の2回が中止となった。

■ U40ミーティグ【10代～30代の男性陽性者】

原則毎月1回開催。曜日や日にちを敢えて固定せずに、様々な人が参加しやすいように開催している。進行は、参加者としての経験もあり研修を修了したピア・ファシリテーターが複数名のチーム体制で担当。

参加者が多い時には、ミドル・ミーティングと同様に2グループに分かれて進行することもある。

2019年度は新型コロナウイルスの影響により、3月の開催が中止となった。

■ 異性愛者のための交流ミーティング【異性愛の男女の陽性者】

2011年9月立ち上げ。原則奇数月第4土曜日と偶数月第3金曜日の開催。2013年5月より、研修を修了したピア・ファシリテーターが進行を担当。

異性愛の陽性者が交流する場は限られており、この場を通じて難しさを共有できる仲間づくりが広がって、活発なミーティングとなっている。

■ Women's Salon【女性陽性者】

女性同士ならではの情報交換や悩みを分かち合うプログラム。

現在休止中。参加者やスタッフとで今後の開催について話し合い、リニューアル開催の予定。

■ 大人女子会【女性陽性者】

2017年3月より開催。子どもが成長して親元から巣立とうとしていたり、身体の変化に戸惑ったりなど、この年代ならではの悩みを話す場となっている。

■ ミックス・トーク10(MT10)【10人までの陽性者】

性別・年代・セクシュアリティなどの枠を超えて、さまざまな人と少人数でじっくり話したいという要望を受けて立ち上げたプログラム。参加は先着10名とし、定員となった場合はキャンセル待ちとなる。

進行は4名のピア・ファシリテーターがチーム体制で担当。

■ 陰性パートナー・サポートミーティング【HIV陽性者の陰性パートナー】

偶数月第１土曜日の開催。

セクシュアリティ・婚姻状況などは不問で、男性だけではなく女性のパートナーの参加もあり、多様な参加者が集まっている。陽性者の周囲で生活する人たちにとっては、他でなかなか話せないことを話せる場となっている。

■ もめんの会【母親を中心とした陽性者の親】

年に４回ほどのペースで開催。陽性者の子どもとの関係性が様々な母親を中心とした参加者が集まっている。家族が他の場所で、HIV 陽性者と生活を共にすることに起因するさまざまな思いを吐き出す場はなかなか得られない。安心してお互いの悩みや思いを打ち明け合うことができる貴重な場となっている。

2019 年度は新型コロナウイルスの影響により、２月の開催が中止となった。

■ 群馬サテライト・ミーティング

現地在住のボランティア・スタッフからの申し出がきっかけとなり、北関東や東北などアクセスしやすい地域の陽性者に向けて 2017 年１月に立ち上げたプログラム。年に３～４回の開催を目指している。

各地域での陽性者ピア・グループ・ミーティグのサポートの一環として、今後も継続する予定。

■ 川崎サテライト・ミーティング

群馬に引き続き東京以外の地域におけるサテライト・ミーティングの第２弾として、2019 年１月にスタートしたプログラム。現地在住の利用者の要望に応える形で立ち上がった。

進行役もこの地域の近隣に在住するボランティア・スタッフが担当している。

(A)-(ロ)学習会／ワークショップ／セミナー

表（ロ）　ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ロ)学習会／ワークショップ／セミナー	13 回	121 名	2 名	15 名	9 名	24 名
1 ストレス・マネジメント講座	7 回	42 名	—	6 名	2 名	7 名
2 アサーション・コミュニケーション	2 回	18 名	—	—	3 名	4 名
3 専門家と話そう	1 回	13 名	—	4 名	1 名	2 名
4 ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」	1 回	4 名	—	1 名	1 名	—
5 ベーシック講座「HIVってどんな病気?」	1 回	6 名	—	2 名	1 名	—
6 就職支援セミナー	1 回	38 名	2名	2 名	1 名	11 名

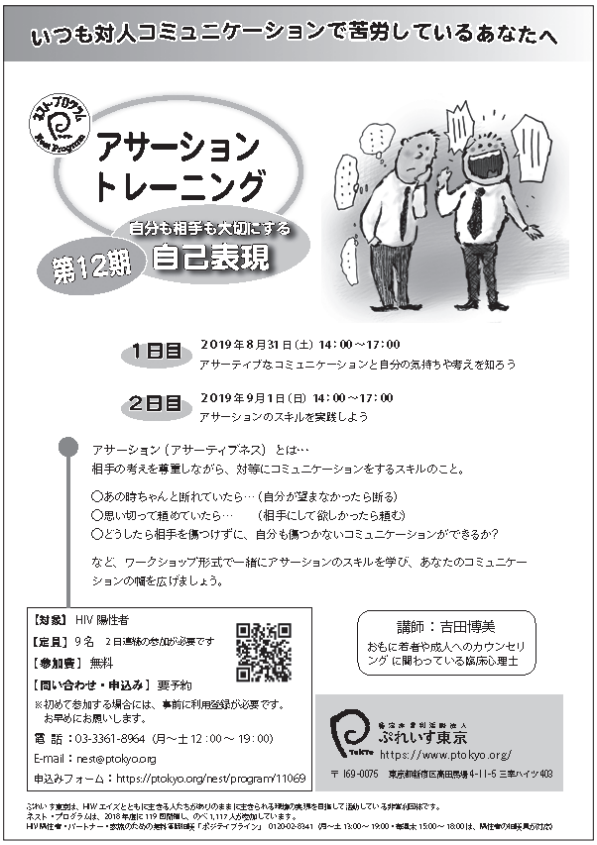
2019年度開催延期となったプログラム
●専門家と話そう 1回（新型コロナウイルスの影響）
●就職支援セミナー 1回（新型コロナウイルスの影響）

HIV と長く付き合いながら、自分らしく生きていくために必要なスキルを身につけるためのワークショップや、専門家からの情報や、社会制度の基礎など、陽性者に役立つ情報を提供する学習会、企業の人事担当などを招いて行う「就職支援セミナー」などを開催している。

■ ストレス・マネジメント講座～ストレスとうまくつきあうためのワーク～

各期は全３回のプログラムからなり、ストレスに関するワークをしながらマネジメントスキルを身につけることを目指している。2019 年度は 32 期と 33 期を開催した。

ストレスに伴う心身の状態に自覚的になることや、否定的で極端になりやすい思考や認知について学習することで、ストレスに対する自分の構えや傾向を知ることができる。また、より健康的な対処法を考えることで、ストレスに直面したときに、悪循環に陥らないように積極的な対処をすることができる。



参加者のストレス状態や生活状況は様々であるが、参加者同士で話し合うことで、自分の状態や傾向について新たな気づきを得ることができる。HIV にまつわる不安や恋愛や性に関する話題も出ることが多く、他の参加者と話し合うことで、安心感が得られたり、新たな対処法に気づいたりするようであった。

■ アサーション・トレーニング～自分も相手も大切にする自己表現～

相手も自分も大切にする自己表現＝アサーティブなコミュニケーションを身につける、ワークショップ形式の講座。定員をこれまでの 12 名から 9 名に変更し、より目の行き届いたプログラム運営を目指した。

■ 専門家と話そう

HIV 陽性者が関心を持つさまざまな分野の専門家をゲストにお迎えするプログラム。

2019 年度は 4 回目となる「歯科医と話そう」を開催した。

2 名の歯科医を迎え、多くの HIV 陽性者が身近な問題として関心を持っている歯科医での治療や、患者と医療者との信頼関係などについて有益なお話を伺えた。

2 月に開催予定だった第 23 回「ナースと話そう」は、新型コロナウイルスの影響により開催延期となった。

第 22 回「歯科医と話そうⅣ」

・　日　時　2019 年 10 月 9 日（水）

・　ゲスト　鈴木 治仁さん（鈴木歯科クリニック院長／東京 HIV デンタルネットワーク代表）
　　牧山 清志さん
　　（牧山清志オーラルクリニック院長）

■ ベーシック講座「知っとこ！社会福祉制度」

「基本のキ」をつかんで、より良い制度利用ができるように、相談員が講師となって解説している。参加者が疑問に感じたり興味を持っていることなどを中心に進行している。

■ ベーシック講座「HIV ってどんな病気？」

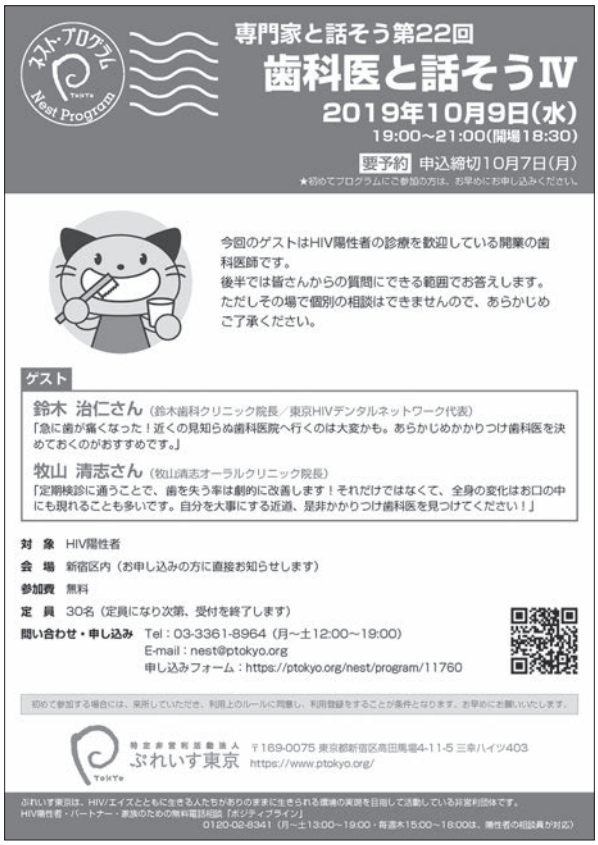
2019 年度は、HIV 陽性者の家族・パートナーも参加可能な Special として開催した。

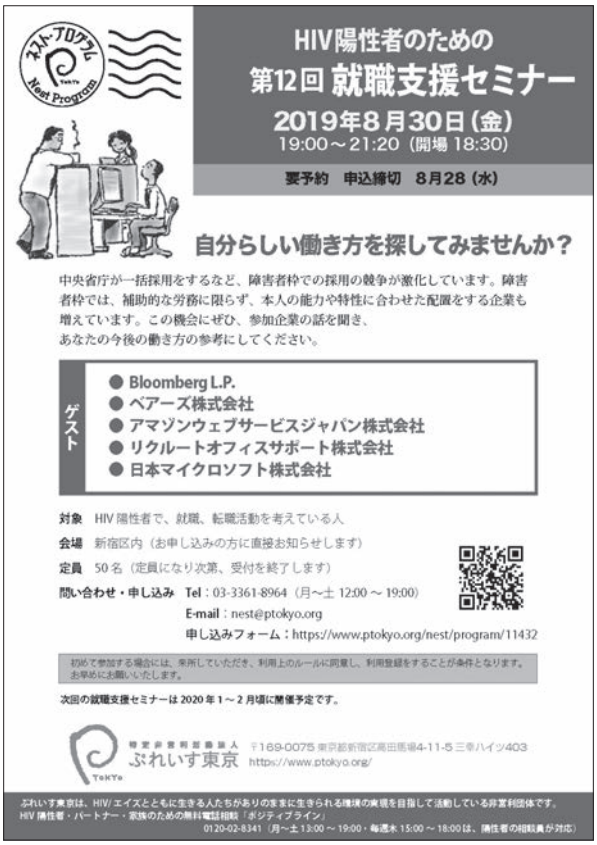
新陽性者 PGM の中で行っている「医療情報セッション」の出前講座として、基本的な HIV ／エイズについてのレクチャーを行なう。講師は相談員が担当している。

■ 就職支援セミナー

企業の人事担当者などを招き、企業がどのような視点で応募者を見ているのか、求人情報、社内の情報管理や配慮についてなどを話していただき、陽性者の就職・転職活動に役立ててもらうセミナー。

2019 年度は 8 月に 1 回開催。プログラムの後半には質疑応答の時間を設け、それぞれ活発なやり取りが行われた。3 月にも開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期となった。





(A)-(ハ)交流会

表（ハ） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(ハ)交流会	29 回	265名	20 名	36 名	15 名	7 名
1 就職活動サポートミーティング	6 回	28 名	—	6 名	5 名	—
2 介護職として働く陽性者のための交流会	6 回	27 名	—	6 名	1 名	—
3 医療者(看護師)として働く陽性者のための交流会	5 回	35 名	—	5 名	—	—
4 障害者枠で働く陽性者の交流会	4 回	35 名	—	4 名	—	—
5 教師として働く陽性者のための交流会	4 回	9 名	—	4 名	1 名	—
6 ピア＋トーク	2 回	53 名	10 名	5 名	3 名	7 名
7 カップル交流会（＋/＋ or ＋/－カップル）	0 回	—	—	—	—	—
8 パーティ（サマー・年末）	2 回	78 名	10名	6 名	5 名	—

2019年度開催中止または延期となったプログラム
- ●医療者(看護師)として働く陽性者の交流会 1回(新型コロナウイルスの影響)
- ●教師として働く陽性者の交流会 1回(新型コロナウイルスの影響)
- ●ピア＋トーク 1回(新型コロナウイルスの影響)
- ●カップル交流会(＋/＋ or ＋/－カップル) 1回(台風の影響)

境遇や立場がより近い陽性者同士で集まって、日ごろ疑問に思っていることや経験を可能な範囲で共有して、おしゃべりしながら考える場である。また、様々な経験を持つ HIV 陽性者を迎えて話を聴きながら一緒に考えるプログラム「ピア＋トーク」も開催している。その他、カップル交流会、パーティなどのイベント的なプログラムも行なっている。

■ 就職活動サポートミーティング

2017 年度より隔月土曜日開催。様々な立ち位置や希望を持つ参加者の、就職・転職に関する情報交換の場。お互いの状況を聞き合いながら、自分の方向性を考えるきっかけをつかんでもらう場である。

■ 介護職として働く陽性者の交流会

偶数月開催。介護に従事している陽性者同士で、仕事の悩み・将来のことなどを話し合あう場。このミーティングでは、働き方を変えることを検討中の人達からの参加も受け入れている。

■ 医療者（看護師）として働く陽性者の交流会

奇数月開催。介護職と同様、同じ立場の陽性者と話してみたいという要望から生まれたプログラム。日ごろ HIV を持ちながら医療現場で働く中で、疑問に思ったり不安に感じることなどについて話し合う場。

初期は看護師のみが対象であったが、現在は医療現場で働く有資格者が参加可能となっている。

新型コロナウイルスの影響により３月の開催は中止となった。

■ 障害者枠で働く陽性者の交流会

年４回開催。障害者枠ならではのメリット・デメリット、働き方に対する考え方などを共有することで、お互いの悩みの解決や今後の方向性を考えるきっかけとなる場である。

■ 教師として働く陽性者の交流会

年４回開催。教育現場という環境の中で働くことの悩みや困難などを分かち合い、同じ立場で考えたいという要望を受けて生まれたプログラムである。

新型コロナウイルスの影響により２月の開催は中止となった。

ネスト・プログラム Nest Program

第12回ピア＋トーク

「親やパートナーの介護経験」

2019年6月28日(金)19:00～21:00

要予約　申込締切　6月27日（木）

HIV陽性者も長生きになり、親の介護を経験する人たちが増えています。そこで、親の介護経験、パートナーの介護に携わった経験者にお声掛けして、実際どうだったのかをお聞きます。また、専門家もお招きする予定です。

ゲスト

●直樹
千葉で介護士をしている、もうじき40歳です。2014年10月に仕事で出入りしていた病院に彼が入院しており、交際が始まり、退院後に同棲、1年後から介護生活が始まりました。2017年2月にどくなるまでのおよそ1年間自宅での介護をしました。

●直樹
千葉で介護士をしている、もうじき40歳です。2014年10月に仕事で出入りしていた病院に彼が入院しており、交際が始まり、退院後に同棲、1年後から介護生活が始まりました。2017年2月にどくなるまでのおよそ1年間自宅での介護をしました。

●直樹
千葉で介護士をしている、もうじき40歳です。2014年10月に仕事で出入りしていた病院に彼が入院しており、交際が始まり、退院後に同棲、1年後から介護生活が始まりました。2017年2月にどくなるまでのおよそ1年間自宅での介護をしました。

●直樹
千葉で介護士をしている、もうじき40歳です。2014年10月に仕事で出入りしていた病院に彼が入院しており、交際が始まり、退院後に同棲、1年後から介護生活が始まりました。2017年2月にどくなるまでのおよそ1年間自宅での介護をしました。

福祉制度の紹介＆コメンテーター　●小嶋　道子（都立駒込病院　医療ソーシャルワーカー）

※個別の相談をその場でお受けすることはできません。

対　象　HIV陽性者（参加には守秘義務への同意を含めた利用登録が事前に必要です）
会　場　新宿区内（お申し込みの方に直接お知らせします）
定　員　70名（定員になり次第、受付を終了します）
※医療従事者など専門家は事前にグラウンドルールを承諾いただき、オブザーバーとして参加可（上限10名／1,000円以上のカンパ）
参加費　無料
問い合わせ・申し込み　Tel：03-3361-8964（月～土12:00～19:00）
E-mail：nest@ptokyo.org
申し込みフォーム：https://www.ptokyo.org/nest/program/11404

初めて参加する場合には、来所していただき、利用上のルールに同意し、利用登録をすることが条件となります。お早めにお願いいたします。

特定非営利活動法人 ぷれいす東京　〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403　http://www.ptokyo.org/

ぷれいす東京は、HIV/エイズとともに生きる人たちがありのままに生きられる環境の実現を目指して活動している非営利団体です。
HIV陽性者・パートナー・家族のための無料電話相談「ポジティブライン」
0120-02-8341（月～土 13:00～19:00・毎週木15:00～18:00は、陽性者の相談員が対応）

■ ピア＋トーク

ピア＋トークは、様々な経験を持つ HIV 陽性者をゲストに迎えてお話を伺うプログラムである。

2019 年度は下記テーマで開催した。

また下記の他、3 月 21 日（土）に第 14 回「陽性者の妊娠・出産・子育て」の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で延期となった。

第 12 回ピア＋トーク「親やパートナーの介護経験」

実際に親の介護やパートナーの介護に携わった経験者３名にそれぞれの経験を語ってもらい、都立駒込病院のソーシャルワーカーである小嶋道子さんにコメントをいただいた。

第 13 回ピア＋トーク Special「日本の HIV 陽性者から見た U=U の光と陰」

U=U キャンペーンの創始者で自らも HIV 陽性者であるブルース・リッチマンさんをお招きし、「なぜ U=U は始まったのか」というテーマで語っていただいた。また、普段ネスト・プログラムを利用している日本の HIV 陽性者４名からもそれぞれの経験や思いを語っていただいた。

当事者だけではなく家族やパートナーも参加が可能な Special としてぷれいす東京が主催したが、厚労科研「HIV 感染症及び合併症の課題を克服する研究班」及び U=U Japan Project との共催での開催となった。

報告に利用することに同意してもらった人の写真

■ カップル交流会（＋／＋ or ＋／－カップル）

陰性パートナー・サポートミーティング参加者からの「カップルで参加できる場が欲しい」との声で開始。陽性者と陰性者、陽性者同士のカップルで参加可能なイベントであり、カップルが持ち回りで世話人として企画・運営に主体的に関わっている。参加するカップルも、同性愛、異性愛、陽性者と陰性のパートナー、陽性者同士、英語で会話するカップルと、多様である。

2019 年度は 10 月 13 日（日）に「秋空のバーベキュー」を開催予定であったが、台風の影響により中止となった。

■ パーティ

2012 年以降毎年開催している年末パーティに加え、2017 年度より「サマー・ティー・パーティ」を開催している。

いずれもボランティアによる積極的な協力により、賑やかな会となった。ゲームやビンゴ大会で大いに盛り上がった。

(A)-(二)小グループ・ミーティング

表（二） ネスト・プログラムと参加状況

プログラム名	実施回数	のべ参加者	ピア・ファシリテーターなど	スタッフ・ファシリテーターなど	セクレタリー	講師・ゲストなど
(二) 小グループ・ミーティング	8 回	30名	8 名	8 名	0 名	1 名
1 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング	1 回	2 名	—	1 名	—	—
2 中国語を話すHIV陽性者のミーティング	3 回	17 名	—	3 名	—	—
3 English Speaker's Meeting	4 回	11 名	8 名	4 名	—	1 名

相談の延長線上でいくつかの小グループ・ミーティングを開催している。既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性の集まりのほか、中国語や英語を話す陽性者を対象としたグループも運営している。

また「夫がゲイで陽性者という妻のミーティング」や「子育てをしている陽性者のミーティング」も参加者を募集中であり、希望者が集まった時点で開催を予定している。

いずれも通常のネスト・プログラムのように利用登録を必須としていないが、グラウンドルールの確認などでプライバシーに対する配慮を行なっている。

■ 既婚者ゲイ・バイセクシュアル男性ミーティング

以前にも不定期で開催されたことがあるが、改めて参加希望があり開催。2019 年度は 1 回の開催だったが、今後も継続する予定。

■ 中国語を話す陽性者のミーティング

主に中国語をネイティブで話す参加者のためのミーティング。日本に来て間がなく日本語が得意ではない方から、通訳を買って出てくれるような滞在歴の長いベテランまで、多様な参加者が集まっている。

■ English Speaker' s Meeting

初回は「Poetry Workshop “HIV & POETRY”」として、英語の詩を用いたワークショップを開催。2 回目以降は英語を話す陽性者同士のグループ・ミーティングとして開催している。英語が堪能なピア・スタッフ 2 名が運営に携わっている。

(B)人材育成・研修

ネスト部門の人材育成・研修は、2012 年度に初めて行なった。2011 年 1 月より利用登録制がスタートし、利用者の安全性が大幅に向上した。これまでの利用登録者は 1,255 人（2020 年 3 月末現在）となり、ネスト・プログラムは安定した運営を続けている。多目的室の入場時のチェックなど、ゲートキーパー的な役割を担うボランティアベースの人材（セクレタリー）の必要性が増大している。また、グループ・プログラムのファシリテーターなど、HIV 陽性者を含む多様な人材がプログラム運営のなかでますます重要となってきている。

現在、「ボランティア合同研修」→「ネスト・スタッフ研修」から、プログラムのファシリテーターやセクレタリーへとつながる流れを継続しており、増加するプログラムや参加者への対応のなかで大きな役割を担っている。プログラムにも参加経験のある陽性者などの当事者が、研修を通じてスタッフとして活躍することも増えている。

現在、U40 ミーティング、異性愛者のための交流ミーティング、MT10 において、複数名のピア・ファシリテーターによるチーム担当制を行なっている。ローテーションを組むことで担当スタッフの調整がしやすくなり、運営上大きなメリットがある。この体制は新たなスタッフを迎え入れながら今後も継続していく予定である。

2019 年度も新人ボランティア合同研修修了者を対象に、ネスト部門のボランティア募集を行い、9 月 29 日（日）に、ネスト部門を希望した 17 名（男性：13、女性：4）のうち 9 名が参加した。生島とピア・プログラムの担当スタッフ 2 名が「ネスト・スタッフ研修」を担当し、プログラムでは、ファシリテーションのスキルに関するもの、自己の参加動機を振り返るような参加型のワークショップを行った。

また昨年に引き続き、実際にグループの進行についてイメージしてもらうために、役柄を振り分けて擬似グループ・ミーティングをロールプレイング形式で行った。

今後、セクレタリーやグループ・プログラムのファシリテーター候補者に、個別、またはグループでオリエンテーションを順次行っている。

Ⅳ．最後に

ネスト・プログラムでは、利用者である当事者の声からその要望に応える形で新規プログラムの企画を行ってきた。今年度新規に立ち上げたプログラムはないが、相談の延長線上で開催している小ミーティングの開催など、今後のプログラムに繋がる活動を行なっている。

2019 年度は台風という自然災害によりいくつかのプログラムが中止になった他、新型コロナウイルスの影響により多くのプログラム開催が中止や延期に追い込まれてしまった。2020 年度に入っても状況は好転せず、2020 年 4 月にはオンライン上でのプログラム開催を試行している。その考察については 2020 年度の活動報告書でご報告したい。

謝辞

今年度も多くの個人のみなさまと団体からご寄付をお寄せいただきました。社会情勢が厳しくなっているなかでご支援いただいたことを深く感謝いたします。助成していただいた東京都福祉保健財団、ご寄付をお寄せいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、MSD 株式会社、オフィス Two I（五十音順、敬称略）、そして多くの個人のみなさまに改めて御礼申し上げます。

（文責：加藤 力也、佐藤 郁夫、原田 玲子、生島 嗣）

Ⅴ．感想文

新陽性者PGM参加者のぷれいすVoice投稿より
【HIV感染がわかったばかりのあなたへ】（「ぷれいす東京Webサイト」2019年4月掲載より）
■「不安が減ればラクになる」

おにぎり（感染がわかって3ヶ月）

今、不安に思っていることがあれば、なるべく早くぷれいす東京などの専門機関に相談してみてください。沢山の不安は、一つずつ解消していくことで、確実にラクになっていきます。

【HIV感染がわかったばかりのあなたへ】（「ぷれいす東京Webサイト」2019年5月掲載より）
■「参加をお勧めします。」

てつや（感染がわかって4ヶ月）

HIV 感染が分かったばかりで、不安を感じる方はぜひ参加した方が良いです。1 人で乗り越えられると思っていても、他の仲間と話をすると安心します。参加前は不安を感じていましたが、参加後はとても前向きになれました。

【HIV検査を逃げているあなたへ】（「ぷれいす東京Webサイト」2019年12月掲載より）
■「自分のためだけではない」

タカヒロ（感染がわかって5ヶ月）

今の自分の体の状態を知ることは、自分のためだけでなく、あなたと関係をもつ人のためでもあります。一度も検査を受けていない方、最近検査を受けていないなという方は、検査受けてみませんか。

【HIV検査を逃げているあなたへ】（「ぷれいす東京Webサイト」2019年10月掲載より）
■「検査を受けましょう」

メガメガ（感染がわかって4ヶ月）

HIV はきちんと治療すれば、普通に暮して行ける病気です。恐がらず検査を受けましょう。

U40ミーティング参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）
■「ホッとする空間」

かず（30代前半／感染告知2013年冬、その後すぐ服薬）

自分以外の HIV 陽性者はどんな生活をしているのかな？と思いはじめ、参加し、今回は 2 度目の参加です。

初回は緊張のあまり周りの方の顔も直視できないほどでした。でも、みなさん本当に穏やかで優しく、帰る時には「また参加したい !!」と思っていました。HIV であることを隠さず何でも質問できる環境は想像以上にスッキリしました !! 笑 「職場では告知してるの？」「友達には伝えていますか？」「薬は何飲んでる？」などなど。ずーっとモヤモヤしながら生活していたことを気兼ねなく聞けて、終わる頃には『ゲイあるある』みたいな恋愛の話になったり、本当に楽しいです !! これからも日程が合う日には参加したいです !! この様な環境を作ってくださり、ありがとうございます。

異性愛者ミーティング参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「ここに新しい居場所を見つけました」

新しい人生の始まり（感染告知：2009年／初回参加：2016年7月）

私は感染告知を受けてから約７年間、一人悩み苦しみ、人生は終わったかのように感じていました。何で自分が・・・・。これまで一生懸命努力してきたのに・・・・・。

その後、この同じ疾病を持った方と関わり、その方がどんな気持ちで生活しているのか知りたいと思い、このミーティングに参加しました。

初めて参加した際の感想は、皆元気だったという感想です。この人たちが本当にあの疾病を持ち、日々生活している人なんだと衝撃を受けました。誰も人生悲観的になっている人はそのミーティングにはいませんでした。私自身もそんな皆さんに勇気づけられ、その後、そのミーティングに参加することが生活の一部となり、いつも、次回のミーティングが待ち遠しいと感じていました。

今では人生を悲観視する事は全くありません。同じ状況に置かれた仲間もいる。一人じゃない。そして、今、私はミーティングで知り合った方と結婚し子供も産まれ、日々、充実した生活を送っています。

ベーシック講座Special「HIVってどんな病気？」参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「『なんとなく、知ってる』が『ちょっとは語れそう』に」

あき（50代／初参加）

初めてまして。相方が「ぷれいす東京」の様々な講習に参加して、一年くらいかと思います。「家族とかパートナーも参加出来るHIVの講習会に申し込んだから、一緒に来て欲しいな」と言われて、初めて参加しました。相方は病気の進行の事とか、一緒に聴いて欲しかったようでした。

自分はHIVには感染していませんが、雑誌やネットで、或いは相方のHIV治療の通院に同行して医師の話を一緒に聞いたりで、どうやって感染するのかや、その後の治療方法、治療に掛かる費用の話など、知識としては一通り知ってたつもりでした。

しかし、講習会に参加して「ウイルスはどうやって感染し、感染したウイルスはどのように体に潜み続けて増殖するのか？病気の進行を医学的にどの様に評価しているのか？治療薬は体の中でどの様に作用しているのか？」といった、ちょっと専門的な話を順を追って説明頂き、体系的に理解が深まったことはとても有意義でした。

ネットや書籍などでは、どうしても事実の羅列で平面的な情報に偏ってしまいがちですが、講習会の後半では参加者から質問も出来たりで、相方のリアルに直面している疑問にも答えて頂いたり、「正しい知識と前向きな行動」が手で捕まえられる、ありがたい講習会でした。

アサーション・トレーニング第12期参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「相手を理解し、相手に自分を理解してもらうこと」

トシ（感染告知年：2010年／服薬歴7年／初参加／50代）

アサーションを簡単に説明すると‘You are OK. I'm OK,too.’ということ。でも日本人の自分は以心伝心を相手に期待しがちで、どうして分かってくれないの？と独りよがりに相手に怒っていたことに、セミナーを受講して気付きました。きっと相手は自分が何で怒っているのか分からなかったかもしれないし、分かっていたとしても何で自分のことを分かってくれないんだと相手も独りよがりに怒っていたのかもしれない。

大切なのは自分の気持ちを伝えること。相手を責めるのではなく、何に対して自分がどう感じているのか説明することで、相手に自分の感情を理解してもらうこと。相手にも気持ちを伝えてもらうことで、相手の感情を理解すること。お互いの感情を理解することで、わだかまりを解決する糸口が見つかる気がしました。

HIVを両親や家族、職場の人に伝える時には無理かもしれないけれど、パートナーとの日々の生活に取り入れると、一緒に住んでいる大好きなパートナーと気持ちがすれ違って、疎遠になり別れることを防げそうです。

HIV陽性者だけでなく、パートナーも受講できるようにして欲しい講座です。

群馬サテライト・ミーティング参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「地元での初参加」

ケン（2016年術前検査で告知／服薬歴：3年／初参加）

私は、約３年前にお腹を手術した時に術前の検査でHIVが分かりました。その後１日１回服薬しています。

群馬サテライト・ミーティングがあるのは以前から知ってはいたのですが、どうしても地元ということもありいつもは東京でのミーティングに参加しています。

今回はスタッフの方が少人数でやっているので是非どうですか？とお誘いがあったので参加させて頂きました。

初参加でしたので場所も分からず緊張して入り口の前に着いたところ、ドアの前のスリッパの多さに驚き携帯電話で確認をしてしまいました。

伺っていた人数とは大分状況が違っていたので最初は戸惑い更に緊張しました。

でも、ミーティングが進むにつれて言葉のアクセントが同じ？地元って感じで和んできました。

更にいつもとメンバーの構成が違い同性愛者だけでなく異性愛者や女性の方、また世代も違い参加されている方が多様でミーティングの内容もいつもとは違い新鮮な感じがしました。

スタッフの方がいろいろと配慮してくださり、安心して落ち着いてミーティングに参加することが出来ました。特に司会者はイケメンで格好良く丁寧な会話で進行して頂き、より安心感が増したと思います。

正直、初めは地元での参加はちょっと戸惑いもありました。でも、思っていた以上に明るく楽しい雰囲気の中で情報交換などが出来て更に病気に対する認識も変わりました。

地方だとどうしても閉鎖的になる場面があると思います。コミュニケーションを取るのも難しいかもしれません。

でも、今回参加してみて安心して参加が出来、皆さんが病気に対して真剣に前向きに考えていることを知り、私もまたがんばれる力を頂いた気がします。

今後も定期的に地方でのミーティングがあれば是非参加したいと思います。

ありがとうございました。

川崎サテライト・ミーティング参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「地元で会える安心感」

マサ（感染告知年：2019年／服薬：6か月／初参加／30代）

神奈川に住む私は東京で同じ境遇の方々とお話をし、楽しい時間を過ごすことができました。

感染を知ってからぷれいす東京に参加するまでは、病気のことを誰かに話すことなど考えられませんでした。

会合に複数回参加したことで、今では同じ仲間と気軽に話せる環境が生きがいになっていると思います。

神奈川県川崎市にて会合があるとのことで、ぜひ、地元の身近な人と話をしてみたいと思い参加しました。

最初は緊張しましたが、参加者は気さくな方ばかりで、心強く思いました。

会合を終え、今後の生活を考えると、身近な人の声を聞けたことでより安心感を持つことができると思います。

専門家と話そう 第22回「歯科医と話そうⅣ」参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年2月掲載より）

■「今後の糧に」

まゆみ（感染告知：2016年／服薬歴：3年／30代）

以前虫歯になったときに近所の歯科で診療拒否されて困った経験があり、歯科選びの参考になればと受講しました。

ウイルス量と歯周病の進行度に関係があるということを聞いて驚きましたが、それよりも定期的に歯科にかかる人とかかっていない人の数年後の虫歯の数の違いが印象的でした。

陽性者かどうかに関わらず、定期的に歯科に通うことの大切さを学びました。

また、後半の質疑応答では質問内容から他の人の状況がわかって参考になったり、先生たちのお答えもわかりやすくてリラックスして聞けました。

今までは治療が怖くてなかなか行けず、悪化してしまって痛みも強くお金もたくさんかかってしまっていたので、これからは定期的にきちんと通おうと思います。

第12回就職支援セミナー参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「自分のために働く、仲間のために働く」

おにぎり（2019年告知／未投薬／40代）

感染が判明して最初の不安は，「これからちゃんと働けるのかな」ということ．今の職場に大きな不満はないけど，カミングアウトする勇気もない．今後十数年，陽性を隠して通院を続けられるだろうかと悩みました．

そんな時，ネストプログラムで就職支援セミナーの案内をもらい，障害者枠という選択肢があることを知りました．実際に５社の説明を伺うと，採用手順，雇用形態，研修制度などじつに個性的で，バリエーションに富んでいました．古い国内企業の経験しかない自分にとって，とくに外資系のLGBTフレンドリーな環境は魅力的．一方で，逆に今の会社ならではの長所も再発見し，いま時間をかけて検討しています．

途中，スタッフの方がポツリと言われた「陽性者が働きやすい職場は，誰もが働きやすい職場ですから」という言葉がすごく心に沁みました．薬の副作用が強かった一昔前，陽性者が健常者と並んで働くことは容易でなかったはず．翻って今，自分が多くの就労機会を与えられていることをしみじみと有難く感じました（じじ臭くてすみません）．どの会社で働くことになっても，自分の仕事が今後社会に出る陽性者の後輩の一助になればいいなと思っています．

第12回ピア＋トーク「親やパートナーの介護経験」（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「1人で抱えないで」

K（40代／女性／服薬歴：16年）

ニュース等で超高齢化や老後の年金について取り上げられる中、遠方に住む両親や同じ区内に住む夫の両親が要介護になった場合、どうしたら良いのか不安に思っていたところ、このプログラムを知り参加しました。

私は一人っ子なので、遠方の両親については兄弟に頼る事が出来ません。

今回介護のご経験者から体験談が聞けるという事でしたので「自分の場合は何から始めようか」と前のめりで３名の方のお話を聞いていたのですが、私の意気込みとは裏腹に、１人で抱えこまないこと、完璧にやろうとしないこと、逃げ道を作っておくことを全員が強調されていて肩の力が抜けました。

介護をする日が訪れた時、必死でこなそうとするあまり、自分の生活や疲労のコントロールが出来なくなってしまう事こそ介護をする側・される側にとってリスクが大きい事を教えて頂きました。

また、ソーシャルワーカーの小嶋さんより身障者が受けられる介護サービスやHIV陽性者の施設への受け入れの現状についてもお聞きし、そう遠くはない自分の老後についても準備しておく必要性を感じました。

第13回ピア＋トークSpecial「HIV陽性者から見たU=Uの光と陰」（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「孤独な葛藤」

山本

はじめに、私はCD4が障害者手帳取得基準より高いまま７年が過ぎています。ウイルス量も1000前後な為投薬開始時期は全く未定です。

そんな中、U＝Uという衝撃的な概念がぷれいす東京を通じて入ってきました。皆さんはどう感じたでしょうか。私はとても複雑な気持ちです。安心、解放を感じる方がいる一方で、私は取り残された気持ちでいっぱいでした。自分だけ蚊帳の外、を感じざるを得なかったのです。

今回この会に参加して、気づいたことがあります。U＝Uに少しの安堵を感じる方の中にも様々な人生を背負ってきた方々がいて、この点だけに固執してはいけないのかもしれないということ。蚊帳の外、の気持ち以上に辛い出来事を乗り越えてきた仲間がいる、ということです。

Bruce さんやパネリストのお話の結果として、辛いのは自分だけではないという新たな着眼点を学ばせてもらえたのです。

参加して良かった。

これに尽きます。いろいろな話を聞くことで新たな着眼点を得る学びにもなる、そんな会でした。ありがとうございました。

サマー・ティー・パーティ参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2019年4月掲載より）

■「新たな出会いを求めて」

タカヒロ（感染告知年2019年／服薬歴5ヶ月／初参加／30代）

ぷれいす東京のプログラムで感染が分かって六ヶ月以内のPGMには参加したことがありましたが、他のプログラムにどのような方達がいるのか気になり参加してみました。また、六ヶ月以内のPGMで出会った人たちと再会するいいきっかけにもなると思い参加しました。

サマーティパーティには40人程の参加者がおり、ボランティアスタッフをされている方から、陽性者、陽性者のパートナーの方とさまざまな立場、年齢の参加者がいました。二回席替えがあり、話したことがない人達とも話せるいい場であったなと思いました。皆さん優しい人たちで、ちょっと緊張してたんですが、話しやすい雰囲気で参加して良かったです。

イントロクイズでチーム戦があり、私は曲名がなかなか思い出せず答えられませんでしたが、同じチームの人たちと一つになるきっかけになったのかなと思いました。

交流の場を設けていただきありがとうございました。

年末パーティ参加者の感想文（「ぷれいす東京Webサイト」2020年4月掲載より）

■「今年出会えた感謝を込めて」

ヒロキ

今年初めから重篤な脳炎になりHIVが発覚し5ヶ月ほどの入院をしておりました。

その時に今後の不安を感じ以前からイベントに参加して知っていたぷれいす東京をベッドの上で検索したのが始まりでした。

退院の目処がついた頃PGMを知り同じ境遇の方と他では話しにくいテーマを共有でき、少しでも不安が減るのではと思い参加しました。

初めて会場に入る時は本当に緊張して入れないほどでしたが会を重ねる毎に打ち解け笑顔も溢れ、最後の頃にはこのままもう会えないかなと思っていましたがその頃サマーパーティーが開催される予定が出ておりみんなで参加しませんか？とお声がけしたらみんなもこの会だけで終わるのは残念と思ってくれていたようで同期そろって参加できました。

連絡先の交換よりもまた会える場所があることがとても嬉しかったです。

今年出会った同期の気持ちは代表の生島さんへの感謝の気持ちも大きくお礼を伝えたいとそろって年末パーティーにも参加させていただけました。

出会い、勉強の場をこれからも利用させていただきながらも何か役に立てる事は無いかと話しながら帰路につきました。

※ぷれいす東京Webサイトには、各プログラムごとに多くの参加感想文が掲載されていますので、ぜひお読みください。

1. スタッフ研修

バディ・スタッフとして活動するには、基礎研修を受けた上で部門研修を修了することを条件としている。基礎研修は、HIV/AIDS に関する知識を身につけるとともに、自己の HIV/AIDS のイメージを認識することを目的としている。部門研修は、バディとしての関わり方をどのようにもつか、自分自身でイメージしてもらうことを目的としている。基礎研修は、年に 1 度の各部門合同での「新規ボランティア研修」にて、部門研修は「バディ・ワークショップ」にて行っている。

(1) 基礎研修

●新規ボランティア研修

今年度は 2019 年 7 月 14 日、15 日の 2 日間で行なわれた。この研修は各部門合同であり、研修項目も共通したものとなっているが、バディ部門のみならず、ぷれいす東京の全体の活動と HIV 感染症の関連領域も学び、幅広い視点と知識を得てもらうことを目的としている。（詳細は 7 ページを参照）

（実　績）

2019 年度の研修の終了時点での活動希望者は 16 名となった。

(2) 部門研修　　バディ・ワークショップ（8 時間）

バディとして活動を始めようとする自分自身を見つめ直バディとして活動を始めようとする自分自身を見つめ直すこと、またクライエントがどのような状態にあるのか理解を深め、その上でバディの役割とは何か、クライエントとの関係性について、自分がバディとして何ができるか、等を考えてもらうことがこのワークショップの目的となっている。また、ワークショップの中では、実際の利用者に協力いただき、利用者の生活についてお話していただくなどしている。

（内　容）

・アイスブレーキング
・自分の最初の喪失について
・自分がバディだったら（仮想体験）
・HIV 陽性者と語る
・喪失を体験するワークショップ
・分かち合いの時

（実　績）

2019 年 9 月 8 日（日）に開催。11 名が参加、修了してバディの登録を行なった。

2. スタッフ・ミーティング / 交流会

●バディ活動スタッフのためのミーティング

活動中のスタッフを対象として、バディ・ミーティングを行っている。午前ミーティングは、奇数月 / 第 1 土曜日 /11:00 ～、偶数月 / 第 1 木曜日 /11:00 ～に開催、夜間ミーティングは第 3 木曜日の 19:00 ～で開催した。なお木曜日の午前ミーティングについては参加者が少ないため、参加がある場合にのみの開催とした。

参加者は 2 ～ 6 名程度で、それぞれが担当しているクライエントとの関わりについて、担当者同士やコーディネーターと相談できたり、お互いにアドバイスしあえる場となっている。また、必要に応じて、個別にクライエントに関わる個別ミーティングやスーパーバイズも実施している。

また、不定期ではあるが、バディ同士の交流を目的とした交流会も開催している。

（実　績）

バディ・ミーティング	2019 年度は 17 回（中止 7 回）開催し、のべ 55 名が参加
個別ミーティング	2019 年度は 13 回実施

3. 登録バディのフォローアップ・トレーニング

●フォローアップ研修

基礎トレーニングを終了したスタッフを対象とした研修となっており、待機中のバディに陽性者との関わりについてイメージする機会を持ったり、関係の深い問題について知識を得る機会を提供している。

また、既にバディ活動を行っているスタッフが、自分とクライエントとの関係について、バディの役割について、客観的にとらえる機会になることを目的としている。

4. スタッフの構成（2020 年 3 月末現在）

(1) 性別

男　性	45 人
女　性	20 人
合　計	65 人

(2) 年齢

20 歳代	2 名
30 歳代	9 名
40 歳代	27 名
50 歳代	20 名
60 歳代	5 名
70 歳代	2 名

5. 2019年度バディ活動実績

(1) 派遣依頼

・前年度より活動を継続 17名
・活動休止中 6名
・新規依頼 7名
合　　計　　30名

・バディ派遣終了 3名
派遣終了理由　死亡 1名
ニーズの消失 2名

※2020年3月末現在の派遣状況
・活動休止中 6名
・派遣継続中 21名
合　　計　　27名

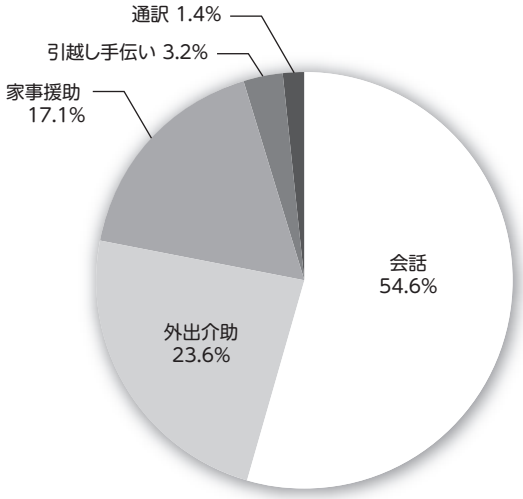
(2) 活動バディ・スタッフ

派遣依頼23名(休止中6名を除く)に対し35名のスタッフを派遣した。(利用者1名に対する実人数でカウント)

(3) 活動内容

今年度のバディ派遣件数は、スタッフの報告をまとめたところ216件であった。そのうち、在宅訪問は131件(60.6%)、病院への訪問は4件(1.9%)、電話によるコミュニケーション(訪問連絡等の電話は件数に含まず)は81件(37.5%)であり、今年度の総活動時間は約362時間となった。

全体の内容別活動のまとめ (n=216)

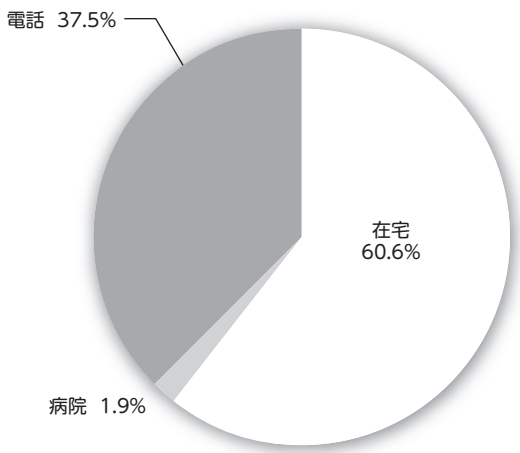


(4) 訪問先とサービス内容

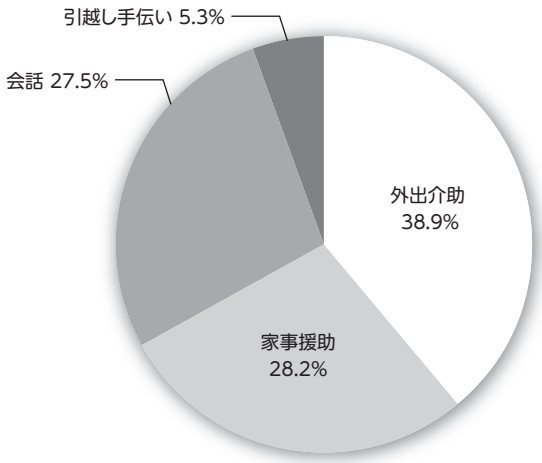
●在宅訪問

在宅訪問での主な活動について、今年度は合計で131件の活動があった。活動内容は、外出介助/付添が51件(38.9%)、家事援助が37件(28.2%)、会話が36件(24.5%)、引越し手伝いが7件(5.3%)となった。外出介助は、車椅子利用者や視覚に障害がある方の通院や趣味等での外出時の同行であった。会話は、在宅療養している人と、コミュニケーションや気分転換を目的とした会話となっていた。家事援助は、脳症や脳梗塞等の病気の後遺症で記憶障害等のある方の自宅の片付けや清掃、引越しの手伝いでは、引越し前後の家の整理の活動となっていた。ちなみに、外出介助やその他の活動においても、会話をしながら活動しているケースがほとんどであり、利用者は定期的なバディとの会話を楽しみながら利用されているようだった。

主な活動先 (n=216)



在宅での活動内容 (n=131)



●入院先訪問

入院先訪問は、合計で４件の活動のみとなった。２名の利用で、１名は外国人の方の通院支援、１名は元々在宅生活をしている方がHIV以外の疾患で入退院した際のお手伝いであった。

6. まとめ

●新規依頼と終了したケースの内容と傾向

新規に依頼を受けたケースは７件あり、活動内容は、自宅療養中の方の定期的な訪問による話し相手、引越し前後の家の整理、役所への同行支援、外国人の通院支援、面談時の通訳、退院時の付き添い、自宅での日本語の勉強の手伝いであった。ただし、うち２件は実際の利用には至らず終了、１件は派遣の調整中となっており、実際の活動は４件となった。相談者は、対面相談サービスの継続的な利用者が４名、電話やメールで相談利用者が３名であり、全員が相談サービスからつながっていた。

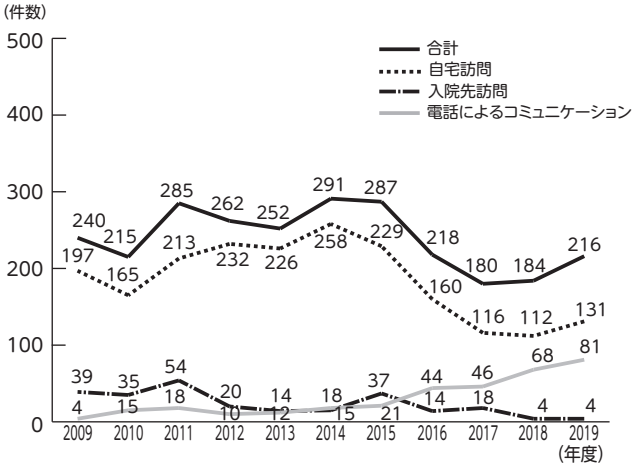
今年度は活動が終了となったケースは３件で、１件は昨年度末に依頼を受けた、HIV以外にも障害を持つ方とその家族の支援であったが、４月に入ってご本人が残念ながら亡くなられて活動が終了した。ニーズの消失の２件は、面談時の通訳でバディは待機したが来所されずに終了、退院時の付き添いで担当が決まっていたが前日にキャンセル、と実際には活動に至らず終了した２ケースであった。

●派遣件数は増加、活動内容は大きく変わらず

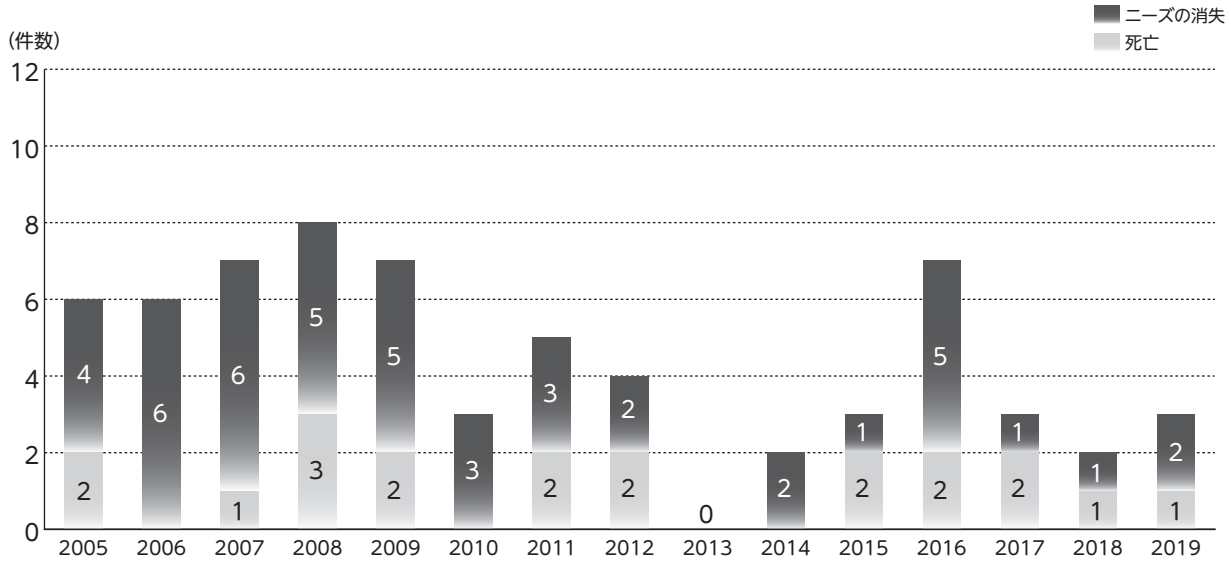
派遣件数は、在宅訪問、電話でのサポートは昨年度より増加、病院訪問は変わらなかった。電話によるサポートの増加が昨年と同様にあるが、これは精神的に不安定になった方に定期的な会話によるサポートを行ったこと、訪問を休止している方に電話で様子を伺ったこと、発症により脳の機能に障害が残った方のサポートを電話で行うことがあったためである。

今年度の特徴として、精神疾患を持つ方からの依頼の増加、外国人の方からの依頼が新規にあったことが挙げられる。加えて2020年の１月以降はCOVID-19の影響を受け、訪問が休止になり、年間の訪問回数が減少したケースが５ケースあった。COVID-19の対応としては、利用者もバディも双方が安心できるよう、双方の状況や意思を確認しながら、派遣を継続するか、休止にするかを相談した。ゆえに１月の時点で休止になるケースから３月末から休止になるケースなど、時期はそれぞれになった。派遣にあたっては、バディに訪問時の手洗いうがい、訪問前の体調確認など、対策をとった上で活動してもらった。

年次活動件数の推移



活動の終了理由



●クライエントの傾向と関わり

クライエントの傾向は、身体に何らかの障害をもちつつ在宅で生活をしている方で、単身の中高年の男性が占める割合が変わらず高い。ちなみに、継続派遣の 21 名中 18 名が男性の単身世帯、なんらかの障害がある方は、半身麻痺等による車椅子使用や杖歩行などの歩行困難が 8 名、視覚障害が 1 名、精神障害が 7 名であった。なかでも、今年度は精神に障害を持つ方からの依頼が増えていた。また、外国人の方からの依頼もあった。

クライエントとの関わりは、長期的な派遣が多く、7 年以上の関わりを持っているケースは 11 名で、うち 9 名は 10 年以上の関わりを続けている。

クライエントとの関わり期間

関わった期間	件数	うち継続
7年以上	12	11
5年以上7年未満	5	5
1年以上5年未満	5	5
1年未満	7	6
合計	29	27

7. 今後の活動にむけて

●活動の継続性と体制づくり

今後の活動の継続にあたって、現在の利用者の多くは、身体や精神になんらかの障害を持っており、活動に介助等の専門的な技術を伴った活動を求められるケースが少なくない。ただし、バディはあくまでもボランティアでの活動であるため、ボランティアでできる範囲で対応している。今後も、相談者と話し合いながら、バディ・スタッフとも相談しながら、できることを続けていきたいと考える。

加えて、利用者の高齢化や他の疾病に由来した身体の機能低下などの現象もみられ、そうした方から通院や入院時のバディの活動依頼も増えている。単身者は、特に入退院時に利用できる社会資源が少ないため、バディにその役割を期待されるところがある。今後も、公的サービスを活用してもらいつつ、それだけでは補えない部分をバディが補完し、利用者の生活支援、生活の質の向上につがなる活動を、できる範囲で柔軟に対応し、継続することができればと考える。また、周囲の公的機関や関連機関とも連携し、お互いに役割分担をしつつ、相互の補完ができるような活動ができればと考える。また、精神疾患を持つ方については、専門家に助言をもらいながら活動をしていきたい。

コーディネーターとして、バディ・スタッフができるだけモチベーションを保ちながら活動できるよう、知識や情報を増やせる勉強会の開催や、定期的なバディ・ミーティングやメールや電話等を通じて、日頃の活動のフォローができればと考えている。

最後に、日頃から活動を続けていただいているバディ・スタッフのみなさま、今年度も活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。バディ活動は、ボランティアのみなさんがあっての活動です。まだまだ、頼りにならないコーディネーターではありますが、今後もご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

謝辞

今年度も個人のみなさまと団体からご寄付をいただきました。社会情勢が厳しいなか、ご支援いただいていることに深く感謝いたします。助成していただいた公益財団法人東京都福祉保健財団、ご寄付をいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、その他多くのみなさまに御礼申し上げます。

（文責　バディ・コーディネーター　牧原 / 九岡）

(1) ぷれいす東京　相談サービス報告

ぷれいす東京では、HIV 陽性者と判定保留・確認検査待ちの人、それらの周囲の人へ、電話や対面、E-mail/ 書簡などによる相談サービスを提供している。電話や対面による相談については、2009 年 4 月以降、厚生労働省の委託事業として、HIV 陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための専用の相談電話「ポジティブライン」0120-02-8341（月～土 :13：00 ～ 19：00）と、プライバシーに配慮した個室で行う「対面相談サービス」（月～土 :12：00 ～ 19：00）を提供している。なお相談は原則匿名で行っている。対応は、HIV に関する電話相談や直接的なケアを担当してきた相談員（社会福祉士 / 医師）、3 人が担当した。2016 年度からポジティブラインでは、HIV 陽性の相談員による相談時間を毎週木曜日 15：00 ～ 18：00 に設けており、2 名の相談員でシフトを組んで対応している。この 2 名は、既にぷれいす東京において、他の電話相談の経験がある者で、さらに研修を行った上で業務にあたっている。なお、相談員の情報交換、業務確認を目的とした相談員ミーティングも定期的に行っている（今年度は 3 回開催）。また、刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との書簡によるやりとり「お手紙プロジェクト」も 3 年目となった。

即日検査や郵送検査の普及に伴う、「判定保留 / 確認検査待ち」の結果を受けとる人の増加を踏まえ、ぷれいす東京の web サイトに「判定保留 / 確認検査待ちの人」に向けたページを作成し情報発信している。「誰にも話せない、どうしよう」「これからどうなるの」「結果が出るまでの過ごし方のコツ」といった不安に対するメッセージから、検査の情報、相談窓口の紹介などを行っている。

「判定保留 / 確認検査待ちの人へ」
http://ptokyo.org/consult/pending_results

また、来日する外国人に向けた英語のサイトを 2017 年 12 月よりぷれいす東京のホームページ上に公開しており、コンテンツの中には日本の医療制度、ビザについての FAQ（https://ptokyo.org/en/faq）がある。このページを見て、事務所に海外から相談メールが来ることが増えている。なお、メールでの相談は以下の集計には含まれていない。

＜お手紙プロジェクトから 2019　相談員 M ＞

お手紙プロジェクトは、警察の留置所、起訴後に留置される拘置所、判決後に刑に服する刑務所にいる陽性者の方からの相談に対応している。

2019 年度は、10 名（内新規相談者 7 名）の方からの相談や報告に関し、15 回郵送にて対応した。内容によって、刑務所への面会も行い、対面面接を実施した。

昨年度同様、必要な情報が自由に得られない、病気やセクシュアリティの理解が不足している環境は、大きな不安要因であるが、今年度は特に、刑務所内で十分な医療体制が保障されないと本人が感じ、国を相手に係争中の方が複数人いた。例えば、自分の感染のリスクを自覚している本人は、体調不良の原因を HIV 感染ではないかと疑い、HIV 検査を希望するも認められなかった事例などがあり、その後、人によってはエイズ発症に至った事例もあった。最低限の医療提供が司法施設の線引きなのだろうが、まさに、何を持って最低限とするのかが問われているように思う。必要に応じて、弁護士と連絡を取り合うなど、支援を提供した。

引き続き、できる限り、情報提供やネットワークを駆使し、支援をおこなっていきたいと考えている。

■相談／連絡期間

2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日

■相談／連絡件数

		陽性者相談員対応
電話による相談	1736 件	(138 件)
対面による相談	543 件	
書簡による相談	15 件	
合計	2294 件	

■相談者の背景

▼電話相談、対面相談（メール /fax/ 書簡は除く）のべ合計 2279件（男：2062 、女：217）

HIV 陽性者	1935 件	(1867：68)
パートナー / 配偶者	76 件	(53：23)
家族	36 件	(4：32)
専門家	93 件	(52：41)
その他	49 件	(31：18)
確認検査待ち/判定保留	90 件	(55：35)

「家族」の内訳(36)

母親(21)、きょうだい(10)、父親(1)、家族(3)、娘(1)

「専門家」の内訳(93)

医療機関(34)、就労関連(14)、行政(14)、保健所/検査所(8)、福祉関連(8)、弁護士(5)、HIV 関連地域団体(4)、薬物関連(4)、地域団体(2)

「その他/不明」の内訳(49)

友人/知人(20)、判定保留者のパートナー/配偶者/家族/娘(15)、元パートナー(4)、性的関係のあった人(2)、過去に判定保留(2)、通訳(1)、感染不安とおぼしき方(5)

▼相談者の年代　(n=2279)

10 代	2 件
20 代	95 件
30 代	336 件
40 代	731 件
50 代	567 件
60 代	156 件
70 代以上	11 件
不明	381 件

■ 新規相談（電話・対面）のまとめ(n=351)

属性		[男:271 女:80]
HIV 陽性者	181	(170： 11)
パートナー / 配偶者	38	(25： 13)
家族	14	(4： 10)
その他 / 不明	34	(18： 16)
専門家	24	(16： 8)
確認検査待ち / 判定保留	60	(38： 22)

相談者の属性は、HIV 陽性者が、全体の 5 割を占めており、トランジェンダーの方からの相談もあった。パートナー / 配偶者は 38 人で、うち男性の同性パートナーが 25 人であった。家族は、母親 (8)、父親 (1)、きょうだい (2) 等から相談があった。その他は、友人 / 知人 (13)、判定保留者のパートナー / 配偶者 / 母親 / 娘 (13)、元パートナー (2)、性的関係のあった人 (2)、過去に判定保留 (1)、通訳 (1)、感染不安とおぼしき人 (1)、であった。

昨年同様、確認検査待ち / 判定保留者とその周囲の人の相談が増えていた。

専門家の背景は、医療機関 (6)、福祉関連 (5)、就労関連 (4)、弁護士 (3)、行政 (2)、保健所 / 検査所 (2)、薬物関連 (1)、NPO/NGO (1) となった。

居住地 / 発信地	
関東	254
近畿	27
東海	22
九州 / 沖縄	19
北海道 / 東北	9
海外	8
中国 / 四国	6
甲信越 / 北陸	5
不明	1

相談者の居住地 / 発信地は、関東地方が多く全体の 7 割ほどを占めているが、全国から相談がよせられ、海外在住の外国人 / 日本人からも相談があった。

情報提供者	
情報・ネットワーク (ネット・冊子等)	218
医療や行政などの専門家	47
人的ネットワーク (他陽性者・家族等)	33
地域のネットワーク (電話相談・団体)	16
その他	11
不明	26

相談をするきっかけとなった情報源としては、昨年度と同じく、インターネットや冊子などをもとに、相談者が自ら情報を集め、連絡を取ってきた方が過半数を占めていた。次いで、昨年度に引き続き医療や行政の専門家から紹介を

受けてつながった方が多かった。それ以外では、他の陽性者や家族などの個人的なネットワークから勧められてきた方が続いた。その他の中では、前からぷれいすを知っていた、つながっていたという人も多かった。

新規に相談があったHIV陽性者において、どのような経緯でHIV感染を知ったか、どこで検査を受けたかをまとめた。ただし、相談の中で聞き取れた範囲内であり、対象となるHIV陽性者181人中100人の傾向である。

検査を受けた機関（n=100）	
病院（外来）	41
保健所 / 検査所	27
病院（入院）	15
献血	4
郵送検査	3
その他	1
不明	9

検査のきっかけ（n=100）	
自発的（症状なし）	25
HIV関連の症状（医師の勧め）	23
自発的（症状あり）	21
その他の症状（医師の勧め）	11
性的接触があった人からの通知	6
術前検査	5
献血	4
その他	4
不明	1

HIV検査を受けた場所は、医療機関の外来 / 入院などの医療機関が56件、保健所 / 検査所が27件であった。また、少数だが郵送検査、献血での検査もあった。

検査を受けたきっかけは、自発的な検査（症状のあり / なしを含む）によるものが46件、医師の勧めが34件あった。前者は、自らHIV感染の可能性を考えた上で、自主的に保健所や病院の外来で検査を受けていた。後者はエイズ発症や初期症状と思しき症状など、何かしらの症状をきっかけとして医療機関を受診し、医師の勧めで検査を受けていた。また、術前検査、献血、性的接触があった人からの通知なども検査受検のきっかけになっていた。

■電話 / 対面相談によせられた内容項目

HIV陽性者からの相談について、相談記録をもとに内容を1～9の項目に分類し、詳細をまとめた。複数の項目に該当する相談内容であった場合は、それぞれの項目に含めて集計している。

周囲の人の相談、専門家からの相談や連携については、それぞれの属性で内容をまとめた。

カッコ内は2018年度数字

1　検査や告知に関する相談 ..... 121（111）
2　告知直後の漠然とした不安 ..... 143（149）
3　対人関係に関する相談 ..... 356（351）
4-1　生活に関する相談 ..... 750（804）
4-2　制度に関する相談 ..... 337（317）
5　心理や精神に関する相談 ..... 930（980）
6　病気や病態の変化や服薬 ..... 384（344）
7　医療体制や受診に関する相談 ..... 191（140）
8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス ..... 14（15）
9　連絡等のコミュニケーション ..... 1059（1007）

▼ 周囲の人からの相談 ..... 358（323）
▼ 専門家（外部）からの相談や連携 ..... 161（111）

1　検査や告知に関する相談：121

1　検査や告知に関する相談	
判定保留時の不安や対応	93
告知の状況	16
検査機関の対応	5
検査の信憑性	4
その他	3

相談内容で一番多いのは判定保留時の不安や対応だ。相談者は、男性（トラスジェンダーを含む）が57件、女性が36件であり、女性の割合が高いのが特徴的であった。自発検査で保健所やクリニックに行った事例もあれば、医療機関での体調不良や術前検査でHIV検査を受けた相談者もいた。男性の中には異性愛者が多く含まれており、予想外の結果に戸惑った声が多数よせられていた。この段階では感染経路と断定できないのだが、男性同士の行為での可能性、性風俗の利用での可能性を話す相談者が多くあった。判定保留の結果を受け取った人たちからは、HIV検査を実施する行政や医療機関により、検査を受けるタイミング（ウインドウ期）が2ヶ月、または3ヶ月という違いがあるため、悶々とするという相談がよせられていた。

2　告知直後の漠然とした不安：143

2　告知直後の漠然とした不安	
漠然とした不安や混乱	52
身体状況に関する不安	36
生活のイメージ	33
他陽性者との交流	11
プライバシー不安	7
その他	4

当項目は、原則告知後３ヶ月以内の方を対象としている。

相談のタイミングとしては、告知を受けた当日など直後の相談から、しばらく経ち落ち着いた状態での相談など様々であった。また、相談者の状況として、発症で救急に運ばれて判明し入院中、他の術前検査で判明、なんとなく受けた検査で判明、付き合い始めたタイミングの検査で判明、郵送検査でネットの結果をみたら陽性だったなど、様々な状況での告知となっていた。

相談者は、事前にある程度の情報をネット等を通じて得ており、以前に比べると落ち着いた状態で相談をしてくる人も増えてきたが、情報源がネットだけに偏っている方が少なくなく、情報を見すぎて不安になり相談してきていた印象でもあった。そんな状態で、今後の生活への漠然とした不安、このまま仕事を続けても大丈夫か、いつまで生きられるか、医療費がどれくらいになるのか、急に具合が悪くならないか不安、といった相談が多くよせられていた。

その他の相談内容としては、パートナー / 配偶者 / 親 / セックスパートナーに通知した方がいいか、このまま学校を続けても大丈夫か（医療系学生）、職場に通知しておらず罪悪感がある（福祉職）、誰にも話せないのが精神的につらい、といった相談があった。

3　対人関係に関する相談：356

相手との関係性(186) という相談内容が最も多く、男性からの相談が多く、女性からの相談は７件であった。

カミングアウトをするか、しないかという選択が普段の人間関係にどのように影響するのかという相談も多く、実際に伝えた結果、受け止められ良かったという相談者もいるが、混乱やネガティブな影響があるのではないかという相談が多かった。HIV 陽性であるという事実を情報共有することで、関係性が近くなったり、親しくなるというポジティブな結果をもたらす場合もある。しかし、人間関係がより閉塞に向かう場合もあり、特に、元々の家族関係、パートナー関係に課題がある場合には、HIV 感染がそこに付加されることで当事者の悩みがより深く、困難になるという相談が多くよせられた。

個人側の背景要因としては、メンタルヘルスの安定度合い、依存、自傷傾向などが大きく影響するようである。

家族、パートナー、妻や夫、職場の人、病院のスタッフなど多様な関係性についての相談がよせられていた。家族やパートナーの介護役割を担っている HIV 陽性者からの相談

3　対人関係に関する相談	
相手との関係性	186
トラブル	49
HIV の通知	37
恋愛、結婚や離婚、子づくりなど	28
性に関する相談 （sex やセクシュアリティ、セイファーセックス）	23
検査（受検勧奨等）	3
プライバシー	1
その他	29

相談の対象者（n=308）	
家族	76
パートナー / 配偶者	69
周囲	43
友人 / 知人	36
元パートナー	26
会社	21
性的関係のあった人	19
他陽性者	10
行政	2
NGO スタッフ	1
その他	5

も増えていた。

HIV 陽性者も人間関係を広げたいと思うのは自然なことで、出会いや別れも存在する。そうした中、特に性的なコミュニケーションが含まれる関係性の場合には、HIV 陽性者であることの情報共有が大きなテーマになっていた。周囲の人たちや、場合によっては、HIV 陽性者の中にも、HIV という疾病にスティグマを持っている場合があり、相手との関係性に大きく影響を及ぼしていた。

4-1 生活に関する相談：750

4-1　生活に関する相談	
就労 / 就学	444
法律問題	73
外国人	69
経済的な問題	57
住宅問題 / ホームレス（野宿生活）	49
生命保険	31
海外渡航（留学）/ 海外からの帰国	11
医療費	8
健康診断	4
その他	4

就労に関する相談が多くを占めていた。多くの HIV 陽性者は、老後を考える時代となり、契約社員、フリーランスなどの働き方をしてきた人たちの中には、そこから、長い人生を見据えてどのように就労を継続するのかという課題と向き合う人もいた。中には、実際に転職 / 就職活動をす

る人たちもおり、一般枠での就労だけでなく、身体障害者の枠で就職する方向性を打ち出し、動き出した人も多く存在していた。

法律問題では、自己破産などの経済的な問題や人間関係のトラブルなどに関する相談もよせられるが、最も多かったのは、薬物使用により警察に逮捕されたという相談であった。警察に拘留中に弁護士を通して連絡があり面会に行く事例もあり、HIV やセクシュアリティに理解のある弁護士の紹介などを行った。また、国選弁護人からの連絡もあり、情報提供したり、場合によっては裁判に協力をすることもあった。

経済的な問題や住宅に関する相談では、家がないという相談もあり、生活保護の申請や住宅取得に関する相談に乗った。また、今年度からはLGBT 支援ハウスとの連携で動いた事例もあった。

外国人からの相談は、日本に移住したい、海外赴任が決まったという相談が多かったが、1 月頃から内容が変化し、新型コロナウイルスの世界的な流行で、飛行機が止まる、国境が閉鎖されるなど、移動ができなくなった人たちから、抗 HIV 薬が不足してのSOS がよせられた。それに対して、外国人の支援を行う医療者、NPO/NGO との連携で支援を行った。3 月以降は、日本に定住し就労 / 就学中の陽性者たちからの相談が続いている。これまで、母国とのやりとりや行き来で抗 HIV 薬を調達していたが、それが、ロックダウン、空港閉鎖、郵便の停止などで入手できなくなっての相談であった。見えない課題が可視化された出来事であった。

4-2 制度に関する相談：337

4-2　制度に関する相談	
障害者の制度利用 （手帳取得、自立支援、重度医療、障害者控除、施設入所）	119
生活保護	100
障害者雇用	44
健康保険（高額療養、傷病手当、付加給付、後期高齢者医療）	37
障害年金	19
サービス利用時の対応	4
プライバシー	3
失業給付	2
ビザ	2
特定疾病療養費	1
その他	6

制度に関する相談について、障害者の制度利用に関する相談が増えていた。

障害者の制度利用での内容として、多くは手帳取得のタイミングや等級、転居時の手続き、障害者控除に関する相談が多かった。最近では、服薬開始の推奨時期が早まったり、U=U といったメッセージの広がりとともに早いタイミングで服薬を希望する方も多いのだが、そうした希望と手帳が取得できるタイミングのバランスがうまくあわず、服薬をしたいが服薬できない宙ぶらりんの状態になり、苦しむ方の相談もあった。加えて、外国人の方の障害者手帳の取得に関する相談などがあった。今年の 1 月以降は、COVID-19 の影響で帰国できなくなった外国人、母国に薬を取りに帰れなくなった外国人から、日本の制度が使えるのか、手続きをどうしたらいいか、といった相談が増えていた。その他では、都道府県を跨ぐ転居をした方から、都道府県による制度の違いや役所の窓口の対応の違いについての相談、障害者の就労移行支援事業に関する相談などがあった。

生活保護に関する相談として、生活保護を受給中の方から、転院や他科受診について、生活保護受給中の転宅や移管の手続き、就労と収入申告に関する相談があった。障害者雇用に関しては、障害者枠の処遇への不満、就労するメリット / デメリット、就職活動での病名通知に関する相談等があった。健康保険では、付加給付と公的制度の兼ね合い、休職中の傷病手当などの相談があった。障害年金では、受給要件に関する問い合わせ等があった。地方在住や地方に転居された方からは、狭い人間関係の中でのプライバシーに関する不安が聞かれた。

5　心理や精神に関する相談：930

5　心理や精神に関する相談	
精神疾患（抑うつ障害、適応障害、統合失調症、その他）に関する相談	580
薬物依存	175
その他の依存傾向 （アルコール、セックス、ギャンブル、対人、その他）	62
精神科の受療に関する状況	33
人間関係の閉塞感	21
ストレス	17
精神的な不安定さ	14
セクシュアリティの受容	10
HIV の受容	8
自殺念虜	8
その他	2

今年も相談の多い項目となった。本項目の「精神疾患」については、本人から病名や通院履歴等の申告があった場合に集計しており、直接的に精神疾患に関する相談がなかった場合でも、その時の相談内容に影響していると相談員が判断した場合には選択している。

昨年度より総数は減少、相談内容にあまり大きな変化はなかった。今年度も精神疾患の治療を継続する上での相談がその多くを占めていた。抑うつ障害、適応障害、統合失調症、広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害など、治療をする中での相談がいろいろとよせられていた。1 年の中でみると、それぞれに調子がいい時 / 悪い時の波があるようで、悪い時に相談の頻度が上がっているようであった。

薬物依存やその他の依存症を持つ方からの相談も引き続き多くあった。こうした依存症の相談の中では、依存対象の欲求との付き合い方、生活のバランスの取り方などの相談がよせられていた。HIVの相談をきっかけとして、他では話せずにいた薬物依存やその他の依存について、初めてぷれいすで相談される方もあった。

6　病気や病態の変化や服薬：384

6　病気や病態の変化や服薬	
その他の疾患	212
服薬の継続	48
CD4の変化	34
HIVの関連症状	23
入院中の病態	23
副作用	12
投薬前の不安	12
その他	20

昨年度より、服薬の継続、CD4の変化、入院中の病態で若干の増加がみられた。全体の傾向としては特に大きな変化はなかった。その他疾患の具体的な疾患としては、本人の申告に基づくが以下のようなものがあげられた。

その他の疾患（順不同）

骨折、風邪、喘息、A型/B型/C型肝炎、梅毒、アメーバ赤痢、膵臓がん、前立腺がん、子宮がん、大腸がん、脳腫瘍、咽頭炎、花粉症などのアレルギー症状、やけど、皮膚炎、痔、肛門周囲膿瘍、下痢、糖尿病、腎臓病、椎間板狭窄/ヘルニア、腰痛、肋間神経痛、再発性角膜びらん、口角炎、口内炎、褥瘡、記憶障害、ニコチン症候群、メニエール病、口唇ヘルペス、白内障、緑内障、尖形コンジローマ、四十肩、再生不良性貧血、歯肉炎、靭帯損傷、帯状疱疹、潰瘍性大腸炎、原因不明の体調不良、勃起不全、膵嚢胞、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、動脈瘤、難聴、その他

服薬の継続では、長期的な服薬での飲み疲れ、精神疾患等の影響をうけた服薬の自己中断、頻繁な飲み忘れ、薬の変更に関する相談があった。

今年度は、COVID-19の影響で、外国人の方からの相談も多くあった。日本から帰れなくなった観光来日の外国人からは、滞在期間中の薬不足の相談があった。日本に定住し、定期的に帰国して薬をもらってきている外国人からは、出入国制限に伴う薬の入手の困難さ、日本国内での薬の入手に関する相談があった。

CD4の変化では、発症判明等でCD4の回復に時間がかかっている方から、数値回復への焦燥感に関する相談があった。入院中の病態では、HIV非関連悪性腫瘍やアメーバ赤痢等で入院中の方から、体調回復への焦りに関する相談があった。

HIVの関連症状としては、以下のものがみられた。

HIVの関連症状（順不同）

進行性多巣性白質脳症の後遺症、HAND（HIV関連神経認知障害）、悪性リンパ腫、ニューモシスチス肺炎、カポシ肉腫、結核

7　医療体制や受診に関する相談：191

7　医療体制や受診に関する相談	
医療従事者とのコミュニケーション	76
医療・検査機関の選択	64
歯科受診	17
他科受診	15
通院や服薬の中断・拒否	8
セカンドオピニオン	2
その他	9

全体の総数が昨年度より増加、項目では医療従事者とのコミュニケーション、医療・検査機関の選択、での増加があった。

医療従事者とのコミュニケーションでは、過去の主治医への不信や不満、転院したいが主治医に紹介状を頼みたくない、医療機関のプライバシー配慮不足や対応への不満、カウンセラーとの関係性の悪化等での相談があった。医療・検査機関の選択では、来日直後の外国人/帰国直後の日本人から国内の通院先について、告知直後の方からは初診の医療機関について、その他転居先での医療機関の情報に関する相談等があった。他科受診や歯科受診では受診時の病名開示に関する相談、受診時の対応の悪さに関する相談もあった。また、精神疾患等の影響を受けた自己判断による薬の中断などの相談もあった。

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス：14

8　医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	
その他の機関・リソースの利用	4
地域の支援団体	3
ぷれいす東京のサービスの問い合わせ	3
外国の情報（ビザ、医療機関、医療状況）	2
他陽性者との交流	2

例年、相談件数が少ない項目である。相談内容としては、HIVやセクシュアリティに理解のある弁護士を紹介してほしい、地方の支援団体や陽性者同士の交流会について教えてほしい、LGBT支援ハウスについて教えてほしいといった相談があった。ぷれいすのサービスについては、バディに関する問い合わせが主であった。その他、帰国後の母国の医療情報を教えてほしい外国人の方からの相談もあった。

9　連絡等のコミュニケーション：1059

9　連絡等のコミュニケーション	
近況報告	772
ネストプログラムの利用	82
利用登録	73
面談の調整	43
積極的な協力・参加	24
その他	65

今年度も相談項目のなかで、件数の多い項目となった。その要因として、精神疾患を持つ方で定期的な相談になる方の存在、地方で身体に障害が残り就職活動が難しい方からの相談、2020年の1月以降ではCOVID-19に関する相談が増えたことが挙げられる。

近況報告の内容として、精神疾患を持つ方や周囲に病名やセクシュアリティが話せていない方から、定期的な通院報告や日常の報告をいただくことが多い。相談員と話をしながら、通院で得た情報整理をしたり、周囲の人との関係性を整理するなど、自分の状況を客観的に把握する機会として利用しているようである。

地方在住の方や周囲に通知できていない方の中には、周囲に病名を伝えられていない罪悪感を、誰かと話すことで軽減している方もいるように感じる。そして、普段の生活で話したいけども話せていないHIVのことを、ぷれいすのような安全な第三者と話すことで、メンタルのバランスを保っているように見える。

また、今年度の1月以降は、COVID-19に関する相談として、自分の基礎疾患との関係性、感染不安、外出制限のストレスなどの相談があった。

今年もネストプログラムの利用や利用登録に関する問い合わせが多くあり、プログラムに参加される方も多くあった。加えて当事者の立場として、プログラムの運営や外部からの調査協力に関して、積極的な参加や協力をいただくこともあった。

▼ 周囲の人からの相談：358

(1) 検査や告知に関する相談	27
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	29
(3) 対人関係に関する相談	127
(4) -1 生活に関する相談	40
(4) -2 制度に関する相談	20
(5) 心理や精神に関する相談	26
(6) 病気や病態の変化や服薬	27
(7) 医療体制や受診に関する相談	18
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	7
(9) 連絡等のコミュニケーション	33
その他	4

相談の背景は、配偶者/パートナーが80件(男性56：女性24)で最も多く、次いで、家族が36件(4：32)、友人/知人が20件(12:8)、その他が23件(14:9)、元パートナーが3件(3：0)、性的関係のあった人が2件（2：0）であった。その他の中には、判定保留者のパートナー、家族からの相談や、確認検査で陰性だった人からその後の相談、通訳者からの相談などが含まれていた。

多くの相談者は、自分の身近な人がHIV陽性であるという事実を知った際に、誰にも話せず、匿名性のある相談に連絡してきたものであった。中には二人で検査に行き、相手のみが陽性であった事例もあった。一方、パートナーや家族が体調不良で入院する中、自身が陽性とわかり、看護をする中で事実を受け止めている方もあった。また、別れる/離婚を選択をする人もあれば、これまでと変わらずにいる人からの相談もあった。関係を続けるパートナーからは、「セイファーセックス」「子作りや人工授精、体外受精」、「自分のHIV検査」、「パートナーのセクシュアリティ」などの相談がよせられていた。

また、相談が継続する方は、パートナーがHIVだけでなく、メンタル、依存問題、経済問題、外国人など、複合する難しさを抱えていた方が多かった。

▼ 専門家(外部)からの相談や連携：93

※相談者の背景は、P.47の内訳を参照

(1) 検査や告知に関する相談	2
(2) 通知を受けた直後の漠然とした相談	2
(3) 対人関係に関する相談	19
(4) -1 生活に関する相談	34
(4) -2 制度に関する相談	30
(5) 心理や精神に関する相談	4
(6) 病気や病態の変化や服薬	3
(7) 医療体制や受診に関する相談	4
(8) 支援機関・リソースへのアクセス	7
(9) 連絡等のコミュニケーション	56

ぷれいす東京にコンサルテーションを求める専門家もあれば、相談サービスの利用者の支援にあたっての相談など、地域の様々な専門職との連携があった。テーマ別の連絡や相談もあれば、連絡等のコミュニケーションでは、双方が関わるHIV陽性者に関する紹介や、その後のフォローアップに関する連絡があった。

内容としては、制度利用について、メンタル課題、様々な依存関連を持つHIV陽性者への対応についての情報交換、コンサルテーションなどがあった。また、HIV陽性者を労働者として受け入れる企業の人事担当者、就労支援にかかわる機関などからの相談もあった。障害者や福祉施設からは、HIV陽性の利用者の受け入れについて、職員の教育についてなどの相談がよせられていた。

これまでも、外国籍のHIV陽性者の医療や福祉へのアクセス支援に関する相談が多く寄せられてきていたが、この1月からは新型コロナウイルスの流行により、母国との連絡や往来が制限されることで、抗HIV薬の入手が困難になった外国籍・HIV陽性者の連絡が急増し、これまで表面

化してこなかったニーズが明らかとなっている。

■1年を振り返って

昨年度に比べ、電話相談は200件弱の増加があり、属性では専門家と判定保留者/その周囲からの相談の増加がみられた。判定保留者は、一般の医療機関や保健所、郵送検査で検査し、判定保留の結果を受けて混乱していることが多いため、そうした受検者が結果を受け取るまでの、検査の補完を負っていたと考える。

相談者と相談内容の傾向として、昨年度と変わらず専門家からの紹介で繋がった、様々な問題や難しさを持つ方、薬物依存/精神疾患/経済的問題/外国人からの相談が多くあった。こうした相談では、役所や裁判所、警察/刑務所、医療機関などの外部機関へ相談者とともに赴き、支援をすることもあった。

今年度もU=U（検出限界以下は感染しないUndetectable=Untransmittable）の問い合わせや相談として、U=Uを踏まえた上で、自分のセイファーセックスや子作りに関する相談などがあり、認知の広がりを感じる機会があった。

今年度の相談で印象深かったのは、2020年の1月以降にCOVID-19の影響を受け、抗HIV薬が手に入らなくなった外国人からの相談である。1～2月は日本に観光で来日した方々から、帰国が出来なくなっての薬不足の相談があり、3月以降は日本に定住し定期的に帰国し薬を手に入れていた方々から、帰国や入国が困難になり薬が手に入れられなくなっての相談が増えていた。日本国内で薬を得ずに、母国で薬を調達し、生活している外国人の存在を改めて知る機会となり、外国人の人権に配慮した、医療や福祉のあり方について、考えさせられる機会となった。

今年も、多くの方から相談があり、十分に相談のニーズに応えられているかといえば、そうとは言えないところもあったと考える。今後も、多様な相談者に対し、自分たちの限界を知った上で、周囲の医療機関や支援機関の専門家と、お互いに役割分担をし、連携を図りつつ、支援に関わっていきたいと考える。

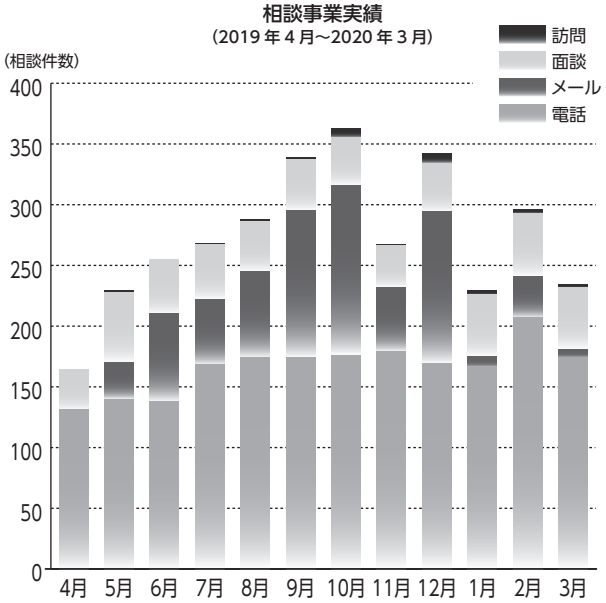
（文責：牧原/生島/福原）

(2) HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援事業

本事業は厚生労働省による事業受託として11年目に入った。今年度もSHARE（認定NPO法人 シェア＝国際保健協力市民の会）、P-latino（旧：任意団体CRIATIVOS）とぷれいす東京の3団体にて運営を行った。

「HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援一式（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」は、HIV陽性者（エイズ患者を含む）やパートナー、家族を対象にピア・カウンセリングや電話・対面による相談サービスを提供することを通して、その社会生活を支援し、生活の質を高めることを目的としている。

●3団体合計の月別相談件数の実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問	0	1	0	1	2	2	8	1	8	3	3	2
面談	33	58	45	45	41	42	39	34	40	51	52	51
メール	0	30	72	54	71	121	140	53	125	9	34	7
電話	131	140	138	168	174	174	176	179	169	166	207	174
合計	164	229	255	268	288	339	363	267	342	229	296	234

※メール相談には、ぷれいす東京のものは含まない。

Ⅰ　事業の概略

本事業は、以下の7つの柱からなっている。

① HIV陽性者参加型のピア・カウンセリングの実践とグループ・プログラムの開発と運営

② HIV陽性者を含むスタッフの研修及び育成

③ HIV陽性者の社会参加のためのサポート

※①～③は、P.29部門報告（ネスト）を参照

④フリーダイヤルによるHIV陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための電話相談

⑤ピア・カウンセリングを支える対面相談

※④と⑤は、P.46 部門報告（HIV陽性者と周囲の人への相談サービス）を参照

⑥関東地域における当事者支援とぷれいす東京での在日外国人のサポート

・群馬サテライト・ミーティングを継続開催

・中国語を話す陽性者の小グループミーティングの継続開催

・英語を話す陽性者の小グループミーティングの継続開催

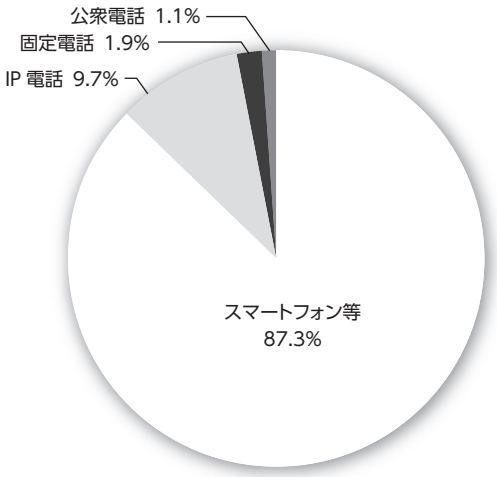
⑦在日外国人への相談サービスの提供

Ⅱ　事業の実績

④フリーダイヤルによるHIV陽性者と確認検査待ちの人、そのパートナー、周囲の人のための電話相談

ここではフリーダイヤル（ぷれいす東京のみ電話相談で導入）について報告する。NTTカスタマーセンターの集計のため、無言電話や間違い電話も含むが、受信総数は7,829件（2019年4月～2020年3月）で、うち繋がったのは1,835件であった。通話率23.4%（昨年度:19.7%）で、今年度も通話中で繋がらない状況があったと考える。

フリーダイヤルにおける端末の割合
（2019年4月～2020年3月）　n=1,835



使用端末の割合は、昨年度と全体の傾向は変わらず、スマートフォン・携帯電話が87.3%、IP電話が9.7%、固定電話が1.9%、公衆電話1.1%だった。公衆電話からのアクセスは、入院中の方が病院からかけてきていることが想定された。

地域別では、東京都609件（33.1%）、東京都以外の関東甲信越402件（21.8%）、中国・四国339件（18.4%）、近畿157件（8.5%）、九州99件（5.4%）、北陸74件（4.0%）、東海73件（4.0%）などであった。50件以上相談があった都道府県は、東京、広島、神奈川、大阪、埼玉、富山、福岡、であり、全国から相談がよせられていた。今年度は山梨、福井、山口、佐賀から相談はなかった。

⑦在日外国人への相談サービスの提供

●相談者と対象者の属性（相談者:相談してきた人/対象者:支援対象の人）

相談全体は480件で、HIV陽性者がもっとも多く、375件となっており、次いで専門家91件、その他12件、家族2件で、パートナー1件だった。言語によるコミュニケーションの課題をもつ方が多く存在し、そうした方の心理的なケアに貢献していると思われる。

○外国語相談（再委託）での相談者の属性（のべ件数）

HIV陽性者：	761	（男： 619、	女：111、	その他： 31）
パートナー：	1	（男： 1、	女： 0、	その他： 0）
家族　：	2	（男： 2、	女： 0、	その他： 0）
専門家　：	234	（男： 8、	女：226、	その他： 0）
その他　：	19	（男： 8、	女： 11、	その他： 0）
合計　：	1,017	（男： 638、	女：348、	その他： 31）

○外国語相談（再委託）での対象者の属性（のべ件数）

HIV陽性者：	907	（男： 725、	女：154、	その他： 28）
確認検査待ち：	38	（男： 24、	女： 14、	その他： 0）
その他　：	72	（男： 10、	女： 52、	その他： 10）
合計　：	1,017	（男： 759、	女：220、	その他： 38）

●国籍と言語

相談者の国籍／言語（のべ人数）n=1,017

ブラジル：573、ペルー：258、日本:53、タイ：41、ギニア：25、スペイン：12、ベトナム：11、ミャンマー：11、中国：5、インドネシア：4、コンゴ：3、韓国/南アフリカ/カメルーン/キプロス/ガーナ/フランス/イギリス：1、外国人一般：8、不明：6

国籍（対応言語）は、ブラジルからの相談が多く、次いでペルー、日本となった。ポルトガル語、スペイン語圏からの相談の多くはP-latino（旧：CRIATIVOS）が対応した。タイからの相談は、主にSHAREが対応しており、他にはギニア、ベトナム、ミャンマーなどから相談があった。またブラジル、ペルー、スペインの件数が増加しているが、今年度からP-latino（旧：CRIATIVOS）の通訳派遣がSHAREを介するようになったためである。

また、数は少ないがその他多様な言語によるコミュニケーションが求められており、他言語の支援ニーズが存在していた。

●相談者の相談手段（のべ人数）（n=1,017）

相談や支援の手段は電話が最も多く、次いでメール、訪問/同行と続いた。来所面談はなかった。各地の医療機関から対応の要望があるが、相談者の居住地は広域に及ぶため、電話やメールによる対応を中心にしている。

○電話による相談(n=270)

HIV陽性者	：110	(男： 81、	女： 23、	その他： 6)
パートナー：	1	(男： 1、	女： 0、	その他： 0)
家族	： 2	(男： 2、	女： 0、	その他： 0)
専門家	：142	(男： 7、	女：135、	その他： 0)
その他	： 15	(男： 7、	女： 8、	その他： 0)
計	：270	(男： 98、	女：166、	その他： 6)

○メールによる相談(n=716)

HIV陽性者	：651	(男：538、	女： 88、	その他： 25)
専門家	： 65	(男： 0、	女： 65、	その他： 0)
計	：716	(男：538、	女：153、	その他： 25)

○訪問／同行(n=31)

専門家	： 27	(男： 1、	女： 26、	その他： 0)
その他	： 4	(男： 1、	女： 3、	その他： 0)
計	： 31	(男： 2、	女： 29、	その他： 0)

●外国語相談(再委託)のサービス対象者の年代(n=1,017)

対象者の年代は、40代：389(38.2%)、20代：244(24.0%)、30代：151(14.8%)、50代：137(13.5%)、60代：23(2.3%)、10代：5(0.5%)、不明：68(6.7%)であった。

●外国語相談(再委託)のサービス対象者の居住地域(n=1,017)

ブロック拠点病院が存在する各地域から相談がよせられており、最も多いのが関東甲信越(東京以外)：527(51.8%)、東京:337(33.1%)、中四国:61(6.0%)、北陸:22(2.2%)、近畿：19(1.9%)、海外：6(0.6%)、東海：5(0.5%)、九州：2(0.2%)、東北：1(0.1%)、不明：37(3.6%) だった。数は少ないが、母国との連携も相談ニーズとして同時に存在していた。

●外国語相談(再委託)による相談対応時間(n=301 ／メールを除く)

相談時間は、30分未満：266(88.4%)、30～59分：4(1.3%)、60～119分:29(9.6%)、120分以上:2(0.7%)であった。

●外国語相談(再委託)の相談内容(複数選択)

相談全体では、「医療体制・医療との関わり・連絡」701件、「通訳派遣及び調整」156件、「その他」43件、「社会資源活用の情報提供」39件、「服薬・副作用に関する相談」36件、「HIV検査や告知に関する相談」34件、「通訳／翻訳」31件、「パートナーに関する相談」26件、「専門家や他機関からの相談」19件、「母国情報の提供／帰国支援」13件、「医療費や支払いについて」「他NPO/NGOの紹介」各8件、「在留資格や法律上の相談」5件であった。

電話相談では、「通訳派遣及び調整」123件、「医療体制・医療との関わり・連絡」81件、「服薬・副作用に関する相談」26件、「HIV検査や告知に関する相談」22件、「社会資源活用の情報提供」「パートナーに関する相談」が各21件であった。それ以外は「その他」16件、「専門家や他機関からの相談」9件、「母国情報の提供／帰国支援」10件、「病気や病態の変化に伴う不安や混乱」「医療費や支払いについて」「在留資格や法律上の相談」が各5件であった。

メール相談では、「医療体制・医療との関わり・連絡」620件、「通訳派遣及び調整」33件、「その他」27件、「社会資源活用の情報提供」18件、「HIV検査や告知に関する相談」12件、「服薬・副作用に関する相談」「専門家や他機関からの相談」10件、「パートナーに関する相談」5件などであった。

訪問／同行は、「通訳／翻訳」のみで31件だった。

各団体が提供したサービスの内容は以下のとおり。

■P-LATINO(旧:任意団体CRIATIVOS) (n=767)

電話相談(91)、メール相談(676)、来所面談(0)、訪問/同行(0)

対象者の国籍/使用言語は、ブラジル(514)、ペルー(204)、日本(49)

■SHARE (n=250)

電話相談(179)、メール相談(40)、対面相談(0)、訪問/同行(31)。

対象者の国籍/使用言語は、ブラジル(59)、ペルー(54)、タイ(41)、ギニア(25)、スペイン(12)、ベトナム(11)、ミャンマー(11)、中国 (5)など18カ国以上。

(2)のまとめ

2020年1月以降、新型コロナウイルスの流行により、外国人からの相談が増加し、特に潜在化していた外国籍の定住者からの相談が増えた。普段は、日本で抗HIV薬を入手せず、定期的に母国に帰国し、無料の薬を入手していた方がかなりいたのである。こうした相談に対し、他団体と連携しつつ、多言語対応が可能な医療機関の情報提供、受診支援をしてきた。また、同時に医療費を軽減するため、福祉サービスの申請等も手伝っており、母国の医療機関からの情報の取り寄せ、日本の医療機関との橋渡しなどの支援を行っている。関わるなかで、日本の福祉制度は、服薬後に日本に移住してきた外国人にとって、利用しにくい制度であることが改めて見えてきている。これは、海外で陽性が判明し、治療を開始した後に帰国する日本人でも同じ困難さが生じており、今後の大きな課題だと考える。

(文責：佐藤／生島／牧原)

研究・研修部門では、当事者の視点を生かした独自の研究や、受託研究などのさまざまな調査研究と、HIV/エイズやセクシュアリティ等をテーマにした講師派遣や、研修の企画・運営などを行っています。

担当…生島、牧原、大槻

研 究

ぷれいす東京の研究班

2018年度から続く、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究」を、理事の樽井（研究代表者）、代表の生島（研究分担者）を始めとするぷれいす東京スタッフが実施しています。

くわしくは…

上記の厚生労働科学研究班の制作物や報告書などは、下記のWebサイトに掲載しています。

地域におけるHIV陽性者等
支援のためのウェブサイト

「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」
地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究班
https://www.chiiki-shien.jp/

LASH
Love Life and Sexual Health

「Love Life and Sexual Health（LASH）」
地域においてMSMのHIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究班
https://www.lash.online/

さらに、新Webサイト「StayHealthy」（https://stayhealthy.tokyo/）をオープンし、主にクラブ・イベントなどで男性とセックスをする男性（MSM）向けにセクシュアルヘルスとメンタルヘルスの啓発や情報発信を行っています。

地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究（3か年計画の2年目）

研究代表者：樽井 正義（ぷれいす東京）

2018 年度（1年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査の協力依頼と予備調査
精神保健福祉センター薬物相談担当者への質問紙調査
ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援に関するインタビュー
MSM 向け薬物使用に対処する啓発・支援、国内外文献レビュー

2019 年度（2 年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査実施 ..... 若林 チヒロ（埼玉県立大学）

精神保健福祉センターのインタビュー調査、
ケースメソッド研修プログラムの開発 .....大木 幸子（杏林大学）

ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査.....樽井 正義（ぷれいす東京）

MSM における薬物使用に対処する啓発・
支援方策に関する研究.....生島 嗣（ぷれいす東京）

2020 年度（3 年目）

HIV 陽性者の健康と生活調査の調査票回収、データクリーニング、分析、報告
精神保健福祉センターのケースメソッド研修プログラムの実施・評価
ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査
MSM における薬物使用に対処する啓発・支援メッセージ集の作成

成果物
HIV 陽性者の健康と生活調査報告書、精神保健福祉センターのケースメソッド研修プログラム、MSM における薬物使用に対処する啓発・支援メッセージ集

研究報告書の全文は、Web サイト（https://www.chiiki-shien.jp/）でご覧いただけます。

ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査 ― ダルクにおける性的少数者・HIV 陽性者受入の現状と課題に関する質問紙調査 ―

研究分担者：樽井 正義（ぷれいす東京）

本研究は、ダルクにおける男性とセックスをする男性（MSM）を含む性的少数者および HIV 陽性者の受け入れの現状と課題を明らかにすることを目的とした。各ダルクにおける運営、性的少数者の受入と HIV 陽性者の受入の現状と課題、HIV の現状に関する質問紙を作成して全国のダルク 54 ヶ所に発送し、34 ヶ所から得られた回答を分析した（回収率 63.0%）。

その結果、性的少数者を受け入れたことがあると回答した施設は 93.0%だった。受入施設の 45.2%が受け入れに際して、他の利用者による偏見や差別、恋愛や性のトラブルへの懸念があったと答えたが、48.4%の施設で、セクシュアリティについてのワークショップの開催や、居室の調整等を行っていた。

HIV 陽性者を受け入れたことがないと回答した施設は 26.5%、あると回答した施設は 73.5%だった。受け入れたことがない施設でも、問い合わせを受けて断った施設はなく、受入に懸念があると答えたのは 55.6%、ないと答えたのは 44.4%で、懸念の内容は、感染の予防、差別やいじめ等であった。受入施設では、懸念がなかったのは 60.0%、あったのは 32.0%の施設で、その懸念の内容は、偏見や差別、医療機関とのつながり、個人情報の共有範囲等だった。56.0%の施設では、HIV の理解と感染予防をはかる勉強会の開催などが行われていた。HIV 陽性者の治療に関して困難があったとした施設は少数だが、刑務所との連携や歯科による診療拒否が挙げられた。

多くのダルクが性的少数者と HIV 陽性者を受け入れており、安心して回復に取り組める環境整備がはかられている。HIV 陽性者と薬物使用者への支援、HIV 感染と薬物使用の予防を進めるために、それぞれの支援者による情報共有と連携が求められる。

MSM における薬物使用に対処する啓発・支援方策に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

本研究では、2016 年に実施した「LASH 調査」のデータを基に、友人から薬物について相談された時に適切な対応ができるよう、各地の MSM 向けに薬物使用に係る啓発活動を実施した。具体的には、MSM 向け健康情報発信ホームページを立ち上げ、各地のクラブ・イベントで参加者向けに周知を行った。また、10 代～20 代の若者向けに薬物使用や性感染症に関するワークショップを実施し、ピア・サポーターの養成を試みた。薬物含む依存症や性感染症に関する専門家等を招いたワークショップでは、参加を通じて各テーマへの関心が高まることが示唆され、継続的な実施が参加者より強く望まれた。今後、薬物使用に係る多様なソーシャルサポート・ネットワークを構築していくためには、より幅広い層の若年層の MSM をワークショップに誘致する工夫や、本研究で連携が強化された他法人との協力体制を活かして、多様な予防の選択肢を啓発活動にてコミュニティに提案していくことが求められる。

ぷれいす東京スタッフが分担研究を行う研究班

ぷれいす東京のスタッフが研究に協力した厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」（研究代表者：水島大輔（国立研究開発法人国立国際医療研究センター））並びに同「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の研究」（研究代表者：横幕能行（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター））は、2019 年度に 3 か年計画の 3 年目を終えました。研究成果については、それぞれの Web サイトをご覧ください。

日本在住 MSM の PrEP（暴露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

本研究では、日本の MSM コミュニティで PrEP プログラムを導入するにあたり必要となる医療・カウンセリング等のサービスの提供体制や、コミュニティに訴求性の高い啓発資材等に関するニーズを明らかにすることを目的に、日本の MSM コミュニティを対象とした PrEP の認知度、利用意向性、課題等に関する意識調査を実施した。

ゲイ・バイセクシュアル男性向け GPS 機能付き出会い系アプリの利用者を対象として、全 66 問からなる自記式 Web アンケート調査を実施したところ、回答者（n=6,247）の 6 割以上が PrEP を使いたい、8 割以上が日本でも PrEP を導入すべきと思っていることが明らかになった。一方、PrEP 導入によりコンドーム使用率が低下する懸念が残るため、潜在的利用者に対する正しい情報提供のプラットフォームが必要とされているといえる。

「PrEP in JAPAN」
HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究班
https://prep.ptokyo.org/

12 月 11 日（水）には、当研究班の主催で MSM（ゲイ・バイセクシュアル男性）、医療者、行政、メディア等を対象にした報告会「日本における PrEP の普及と課題 ～見守りネットワーク作りを目指して～」を実施しました。演者からは研究班の調査結果のほか SH 外来の報告、海外の取り組み、クリニックでの実践の報告があり、約 100 名が来場したフロアからの PrEP に関する疑問や今後の期待などの質疑に答えました。

《プログラム》

・SH 外来の取り組みから
　研究代表者：水島大輔（国立国際医療研究センター）
・MSM を対象にした PrEP の調査から
　研究分担者：生島嗣（ぷれいす東京）
・海外の視察内容から
　研究分担者：谷口俊文（千葉大学医学部附属病院）
・東京都内の見守りクリニックの実践から
　研究協力者：塩尻大輔（パーソナルヘルスクリニック）
・総合コメント
　岡慎一（国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター）

職場における HIV 検査実施に必要とされる配慮と環境に関する研究

研究分担者：生島 嗣（ぷれいす東京）

日本国内で、郵送検査キットを用いた職域における HIV/ エイズの啓発・検査プログラムが推進されるにあたり、HIV 陽性者支援の知見を活かした環境整備の提言、および支援体制の構築を行い、HIV 陽性者等にも配慮した職場環境づくりに資することを研究目的とした。

前年度までに制作した Web サイト等のリソースや参加企業リクルートのためのツールの拡充、啓発機会を活用するとともに、HIV 陽性者の相談窓口に寄せられる相談内容から就労に関する相談事例を抽出した。その結果、啓発・検査プログラムには支援体制がセットで提供される必要性があることがあらためて確認された。一方で、企業の取り組みだけに限定されない、社会全体に疾病理解等の啓発をする必要性も示唆された。

「BRTA JAPAN」
職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たな HIV 検査体制の研究班
https://brta.jp/

ぷれいす東京スタッフによる調査研究で、2019 年度中に発表（共同発表を含む）を行った学会は以下の通りです。

学会発表

・第 5 回北京・香港・マカオ・台湾・エイズ・フォーラム
（2019 年 4 月 12 日～ 13 日　於 台湾・台北市）
「Experiences of PLACE TOKYO: Challenges of Japan and Asia」
発表者：生島 嗣

・第 10 回国際エイズ学会
（2019 年 7 月 21 日～ 24 日　於 メキシコ合衆国・メキシコシティ）
「Change in awareness of, willingness to and utilization of PrEP over the past two years in Japan」
発表者：山口 正純（武南病院）

・第 1 回アジア太平洋ケムセックス・シンポジウム
（2019 年 8 月 9 日　於 台湾・桃園市）
「Chemsex Situation among Japanese MSM Community」
発表者：山口 正純（武南病院）

・第 8 回 ILGA アジア地域会議
（2019 年 8 月 19 日～ 23 日　於 韓国・ソウル）
「Chemsex situation among Japanese MSM community」
発表者：生島 嗣

・第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会
（2019 年 11 月 27 日～ 29 日　於 熊本市）
「GPS 機能付きアプリケーションを利用する MSM における PrEP の利用経験とその実態（1）」
発表者：生島 嗣

「GPS 機能付きアプリケーションを利用する MSM における PrEP の利用経験と実施実態（2）」
発表者：山口 正純（武南病院）

「職場における HIV 感染症 /AIDS の検査機会提供の有用性と課題」
発表者：横幕 能行（名古屋医療センター）

「北関東における HIV 陽性者のためのピア・プログラムの立ち上げについて」
発表者：佐藤 郁夫

講師派遣・研修

ぷれいす東京では、HIV/ エイズの一般知識、HIV 陽性者支援、性教育やセクシュアリティ、人権などをテーマに、学校や企業、専門家の集まりなどへ向けた講師派遣や研修の企画・運営を行っています。講師派遣では、HIV 陽性者の支援経験が豊富な相談員やセクシュアリティの専門家、性教育の専門家などが出講しています。企業や教育機関、保健所を含む行政機関、医療機関、国際協力団体などの研修を受託し、独自の研修企画の立案も行っています。

くわしくは…

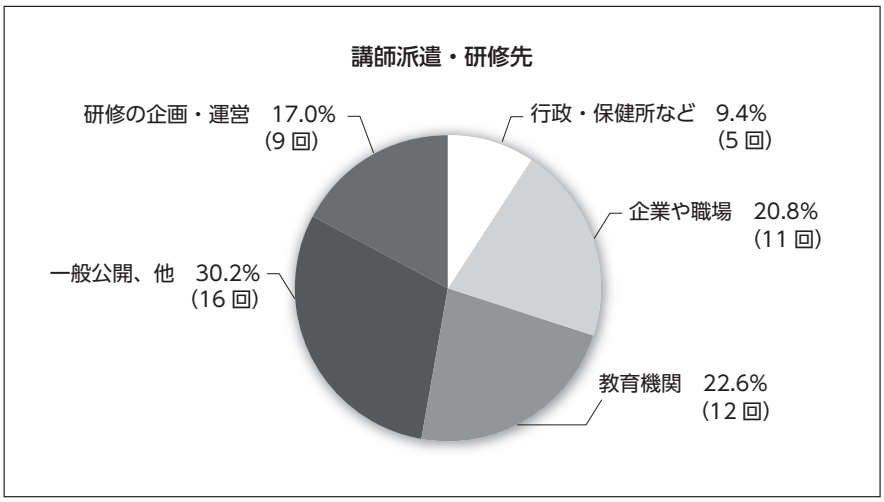
講師派遣や研修をご希望の場合は、ぷれいす東京 Web サイト「講師派遣・研修の依頼」（https://www.ptokyo.org/know/lecturers）からご連絡ください。

2019 年度の講師派遣・研修実績は以下の通りです。

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
4月	25日（木）	生島	プライドハウス東京「デニムデーに考える、LGBT の暴力被害」				27	
5月	1日（水・祝）	生島	「LGBT ×貧困→ハウジングファースト 2019 ～虹色ハウスの実践報告～」				60	
	2日（木・祝）	生島・大槻	「トランスジェンダーと HIV/ エイズ」					36
	24日（金）	佐藤	東京大学			100		
6月	5日（水）	生島	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター		14			
	22日（土）	生島	エイズ予防財団「NGO 指導者研修会」				24	
	25日（火）	生島	岡山県研修会	17				
7月	3日（水）	生島	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター		20			
	4日（木）	池上	東京工業高等専門学校			206		
	9日（火）	生島	東京都エイズ・ボランティア講習会				27	
	19日（金）	生島・加藤	東京都保健所職員研修					23
	29日（月）	生島	東北ブロック「HIV 検査担当者向け研修会」					11
8月	2日（金）・4日（日）	池上・牧原・生島・加藤	青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修					5
	5日（月）	生島	GILEAD アドバイザリーボード		30			
	25日（日）	生島	「抗 HIV 薬のスマートな応需のための連携学習会」				28	
9月	4日（水）	生島	国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター		12			
	18日（水）	池上	東京都エイズ・ボランティア講習会				27	
	29日（日）	大槻	「第 55 回 Living Together のど自慢」				50	
10月	4日（金）	生島	埼玉県エイズ専門研修					15
	9日（水）	生島	国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター		12			
	10日（木）	生島	「2020 年、東京で目指す 90-90-90」トークイベント				60	
	15日（火）	生島	岡山県「人権教育・啓発指導者講座 II」	25				
11月	2日（土）	生島・佐藤	令和元年度第 2 回 HIV/AIDS 症例懇話会	35				
	3日（日・祝）	生島	エイズ中核拠点病院相談員研修会	45				
	5日（火）	生島・加藤	世田谷区	94				
	9日（土）・10日（日）	池上・牧原・生島・加藤・大槻	青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修					3
	11日（月）	加藤	ポラリス保健看護学院			90		
	19日（火）	大槻	台東区立浅草中学校			80		
	28日（木）	大槻	台東区立御徒町台東中学校			130		
	29日（金）	生島	「アップデート！ HIV/ エイズの知識―ゲイ向けアプリ 7000 人調査結果報告も！」				14	
	30日（土）	生島	「日本における HIV のこれまで、これから（12/1 は世界 AIDS デー）」				90	

月	日	担当	内容	参加者数（人）				
				行政・保健所など	企業や職場	教育機関	一般公開、他	研修の企画・運営
12 月	3 日（火）	佐藤	ヴィーブヘルスケア株式会社		100			
	4 日（水）	佐藤	横浜市立大学附属病院		5			
	4 日（水）	生島	東京都エイズ予防月間講演会「働く世代に多い HIV/ エイズ～誰もが働きやすい職場とは～」				80	
	9 日（月）	生島	「アップデート !! 話そう、HIV/ エイズのとなりで～ HIV 検査・治療と生活」				70	
	10 日（火）	加藤	東京都立芝商業高等学校			200		
	11 日（水）	生島	「日本における PrEP の普及と課題 ～見守りネットワーク作りを目指して～」				99	
	15 日（日）	生島・大槻	「医療・福祉・司法・教育領域等の専門家による LGBT 支援の実践報告会 & ネットワーキング・パーティー」					47
	16 日（月）	佐藤	東京女子大学			240		
	16 日（月）	加藤	東京都立忍岡高等学校			230		
1 月	7 日（火）	佐藤	国際医療福祉大学			5		
	13 日（月・祝）	生島	「U=U に関する国際 HIV シンポジウム in Tokyo ～「感染しない」は本当か？～」				90	
	17 日（金）	生島	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン		80			
	18 日（土）	生島	「ラッシュ（RUSH）裁判報告会」				40	
	24 日（金）	生島	神奈川県保健所職員研修					16
	30 日（木）	大槻	上野学園中学校			30		
2 月	1 日（土）	生島	世田谷区「セクシュアル・マイノリティ支援者養成研修講座《実践編》」				36	
	5 日（水）	加藤	上野学園高等学校			210		
	12 日（水）	佐藤	邑楽町教育委員会			32		
	13 日（木）	佐藤	神奈川県歯科医師会「歯科医療従事者に対する感染対策講習会」		7			
	17 日（月）	生島	千葉県保健所職員研修					9
	21 日（金）	佐藤	「北総地区感染症研修会」		150			
	23 日（日）	佐藤	「社会福祉施設 HIV/ エイズ啓発研修会」		22			
参加者数合計（人）				216	452	1,553	822	165
実施回数合計（回）				5	11	12	16	9
実施 1 回あたり参加者数（人）				43.2	41.1	129.4	51.4	18.3

※このほかに、各部門で内部研修を実施しています。



「日本におけるPrEPの普及と課題 ～見守りネットワーク作りを目指して～」（2019年12月11日開催、主催：令和元年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」）

「医療・福祉・司法・教育領域等の専門家によるLGBT支援の実践報告会＆ネットワーキング・パーティー」（2019年12月15日開催、後援：ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会）

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け2020年2～3月中に受諾していた14件（13ヶ所）の講師派遣・研修等がキャンセルとなり、今年度の講師派遣・研修等の実施件数は53件と、昨年度の67件から大幅に減少しました。

このような状況を踏まえ、今後はWebなども活用した研究成果の情報発信を強化していくとともに、日頃のHIV/エイズ支援活動で得られた専門的知見を広く応用・提供していくことにも取り組んでいきたいと思います。

（文責：大槻）

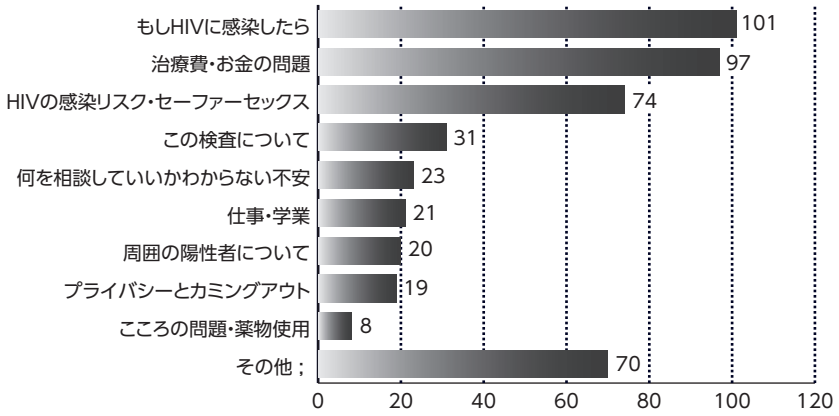
相談員派遣

●厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
「MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」
（研究代表者：金子 典代）
「新たな検査「HIV check.jp」による検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」
（研究分担者：岩橋 恒太）への相談員派遣

[配布期間]　2019 年 4 月～ 2019 年 12 月の毎週月曜日 19 ～ 22 時　合計 38 回　@ akta
2020 年 1 月 10 日金曜日　19 ～ 24 時　@沖縄 mabui
[相談員派遣数]　のべ 40 人
[相談者数]　相談実施：236 人、相談希望：249 人、検査キット配布数：920 件
[相談率]　25.7%（相談実施人数／検査キット配布数）

	回数	相談員数	キット配布	相談数	相談率	相談キャンセル	
4 月	5	5	84	19	22.6%	0	
5 月	4	4	90	30	33.3%	0	
6 月	4	4	51	15	29.4%	1	
7 月	5	5	81	27	33.3%	1	
8 月	4	4	110	28	25.5%	1	
9 月	4	4	61	17	27.9%	1	
10 月	4	4	110	27	24.5%	3	
11 月	4	4	114	26	22.8%	4	
12 月	4	5	186	41	22.0%	2	
akta 計	38	39	887	230	25.9%	13	
mabui	1	1	33	6	18.2%		1/10 開催
総 計	39	40	920	236	25.7%	13	

[相談内容]　相談希望者が記入した、相談カードにチェックされた項目（複数選択あり）を集計した。
上位から「もし HIV に感染したら」101 人（42.8%）、「治療費・お金の問題」97 人（41.1%）、「HIV の感染リスク・セーファーセックス」74 人（31.4%）、「その他」70 人（29.7%）だった。



●相談内容のまとめ

○もしHIVに感染したら

感染不安の電話相談では、感染リスクの確認やHIV陰性を想定した相談が多いなか、HIVチェックの場合は、自分が陽性になったことを想定した具体的な相談が多かった。「検査で陽性になったらどうなるのか」「陽性とわかってから通院・治療までの流れが知りたい」「服薬や副作用はどうか」「職場への通知は必要か」「健康保険で会社にバレるんじゃないか」など自分の感染を想定して質問していた。また「仕事を続けられるか」「スポーツやジム通いはできるか」「お酒は大丈夫？」「SEXができなくなるんじゃないか」といった感染後の生活を聞きたいという相談も多かった。自分の陽性がわかった場合の、親・周囲への通知の相談も多かった。

○治療費・お金の問題

「月にどれくらいの治療費がかかるか」「どういった治療で、どれくらいの通院間隔になるか」「どのような福祉制度が受けられるか」や、ネット情報を調べて「障害者手帳について」具体的な申請や取得状況を聞かれることもあった。

○HIVの感染リスク・セーファーセックス

一番多いのが「オーラルセックスでの感染の可能性」の質問である。挿入ではコンドームを使っているが、オーラルセックスではコンドームの使用が難しいとの相談が見られた。精液を口に出されてもすぐに吐き出しているとか、カウパー氏腺液の感染リスクなど具体的な相談もあった。

○その他の相談

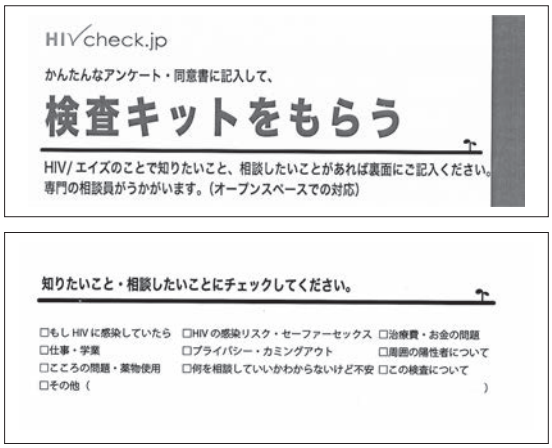
PrEPについての相談が、41人（17.4%）あり、前回よりも多くなった。「日本ではどうなんですか」とか、実際に海外で購入したり、個人輸入している例も見られた。PrEPが日本では未承認だということがわかっていても、HIVに感染しないためにPrEPを使いたいという思いがあり、その間で揺れている感じが見えてくる。

逆にU=Uの情報は、PrEPよりは認知度が低かった。PrEPもU=Uも、HIV陽性者への差別・偏見を解消するにはとても重要なメッセージになり得るが、「生でする人が多くなった気がする」「生でSEXをしたい」「検査をして陰性を確認するが、生がやめられない」という声もあり、今後の情報提供のあり方には注意が必要だと思う。

「売り専」「薬物」と絡む相談もいくつか見られた。相談の中で、相談者の国籍を確認はしていないが、外国の方の相談も多かった。また梅毒や他の性感染症の相談もあった。

○周囲にHIV陽性者が存在すること

相談（236件）の中で話された周囲の陽性者の状況は、「彼・元彼」10人（4.2%）、「SEX相手」3人（1.3%）「友人・知りあい」12人（5.1%）でトータル25人（10.6%）だった。



相談カード

周囲にHIV陽性者がいること、その生活が見えることで、受検行動に繋がっていることは、予防の観点からもとても重要だと思える。

○まとめ

HIVチェックの利用者の約26%が相談を利用しており、その場で検査キットを受け取るだけではなく、相談や質問をしてみたいというニーズがあることがわかった。

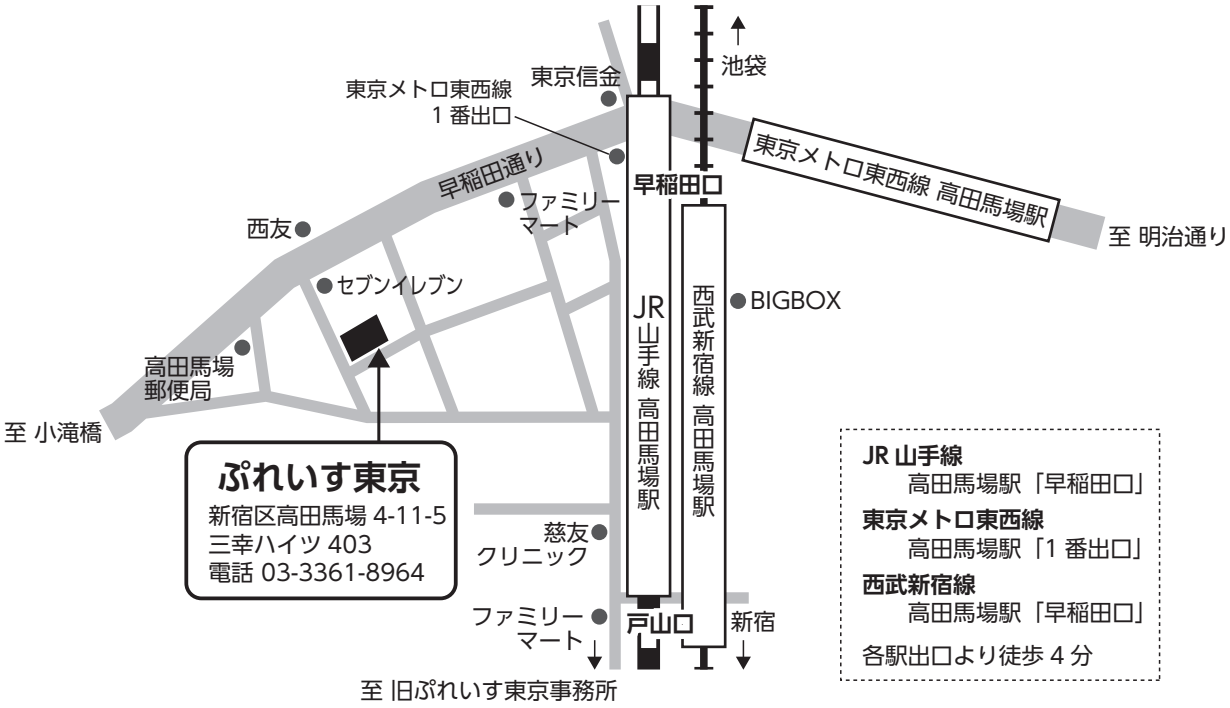
また、HIVチェックやその他郵送検査などの簡易な検査の選択肢を増やしていく必要性が見えてきた。保健所でのHIV検査は平日に設定されていることが多く、サラリーマンなど社会人にとっては時間的にハードルが高いため、夜間の受け取りで、ネットで結果を確認できる方式は利便性があると思われる。今年に入って、新型コロナウイルスに対応するために、HIV検査業務を休止している保健所も増加している。その状況では、ますます郵送検査のニーズは高まってくると思われる。

「HIV陽性の可能性がある」という結果を受け取ることを想定して準備をすることは重要だ。HIVチェックの場合、相談内容から考察すると、感染がわかってからの具体的なイメージや、セックスやメンタル課題を抱えている相談者も多かった。対面による検査と同様に、郵送を利用した検査の前後でも、相談を受けられる機会を準備することの重要性も見えてきた。

●草加保健所への相談員派遣

[相談員派遣日]	2019年8月10日火曜日 @草加保健所
[相談員派遣数]	1人（他にaktaから1人）
[相談数]	相談実施：7件、検査数：21件
[相談率]	33.3%

（文責：生島、佐藤、福原）



ぷれいす東京　2019 年度年間活動報告書

2020 年 5 月 23 日発行

発行　特定非営利活動法人　ぷれいす東京
Positive Living And Community Empowerment TOKYO
〒 169-0075　東京都新宿区高田馬場 4-11-5　三幸ハイツ 403
TEL：03-3361-8964　FAX：03-3361-8835　E-mail：office@ptokyo.org
ゆうちょ銀行振替口座：00160-3-574075「特定非営利活動法人　ぷれいす東京」
URL：https://www.ptokyo.org/
Facebook：https://www.facebook.com/PLACETOKYO
Twitter：@placetokyo（https://twitter.com/placetokyo）
印刷　株式会社翔美

認定NPO法人 ぷれいす東京
あなたのアクションが誰かの力に！
https://ptokyo.org/weare/